

農作物病虫害等防除指針

【参 考 資 料】

(令和 6 年)

愛 媛 県

目 次

1	主要薬剤の系統別特性（殺虫・殺ダニ・殺菌剤）	1
2	性フェロモン剤の使用法用基準	9
3	天敵製剤・微生物天敵製剤（害虫防除用）の使用法	11
4	天敵類に対する農薬の影響一覧表	14
5	マルハナバチへの農薬の影響一覧表	16
6	ミツバチへの農薬への影響一覧表	17
7	B T剤の登録薬剤一覧	18
8	微生物農薬（殺菌剤）の使用法	20
9	ラノーテープの使用法（注意事項）	28
10	メタアルデヒド剤の使用法	29
11	気門閉鎖型薬剤の使用法	30
12	いちごナミハダニ防除薬剤の効果	33
13	無人航空機防除用農薬一覧表	34
14	展着剤の使用法	61
15	愛媛県特別栽培農産物等認証制度においてカウントされない農薬一覧	64
16	I P M実践指標の活用について	69

1 主要薬剤の系統別/特性(殺虫・殺菌・殺ダニ剤)

○殺虫剤

系統名	IRAC の作用機 構分類	主な商品名	概 要	抵抗性に関する動向	効果の 遅速	浸透 移行性	天敵への影響
カーバメート系	1A	ラベリン・オコロール・オリオン	神経系に作用(アセチルコリンエステラーゼを阻害、過剰興奮を誘起)。食毒・接触毒。チョウ目、コチフェイ目など幅広い害虫に効果がある。速効性や残効性、浸透性は剤によって異なる。	アブラムシ類、アサシメカ類(ナシキロアサシメカ等)、コナシラミ類、チョウ目(コナガ等)等で効果低下事例がある。	速効	○	影響が大きく、長いものが多い。
有機リン系	1B	スチオン・オルトラン・スプラサット・トクサチ	神経系に作用(アセチルコリンエステラーゼを阻害、過剰興奮を誘起)。食毒・接触毒。幅広い害虫に効果がある。速効性や残効性、浸透性は剤によって異なる。	アブラムシ類、アサシメカ類(ナシキロアサシメカ等)、コナシラミ類、チョウ目(コナガ等)等で効果低下事例がある。スプラサットのヤマトカイガラムシに対する効果が低下している地域がある。	速効	○	影響は大きい。その期間には薬剤により大きな差がある。
フェニルピラゾール系	2B	プリンス・キアップ	神経系に作用(GABAで活性化する塩素イオンチャネルを阻害、過剰興奮を誘起)。食毒・接触毒。食毒の活性の方が著しく高い(コナガ)。チョウ目、アサシメカ目へ特に高い活性を示すが、チョウ目では種間差が著しく、シロイチモシ・ヨトウ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシへの効果は低い。カメジ目(アブラムシ、ウンカ、ヨコバネイモシなど)に対しても差が著しい。	プリンスでセンシロソウカへの感受性低下報告がある。	速効(対象により遅効)	○	ハチ類への影響は強い。
合成ピレスロイド系	3A	トボン・アーロン・アディオン・アグロソリン・テルスター・マブリック・ロディエ	神経系に作用(ナトリウムチャネルを開放し続け、過剰興奮を誘起、神経伝達を阻害)。食毒・接触毒。浸透性は低い。産卵抑制や食害抑制などの忌避作用がある。抵抗性が差違しやすしい。	アブラムシ類、アサシメカ類(ナシキロアサシメカ等)、コナシラミ類、チョウ目(コナガ等)等で効果低下事例がある。	速効	×	影響が大きく、長いものが多い。
ネオニコチノイド系	4A	アトマイヤー・モゼラン・アクトラ・スタークル(アルハリン)・タントツ・ハリアード・ヘストガード	神経系に作用(ニコチン性アセチルコリン受容体に結合、過剰興奮を誘起)。食毒・接触毒。一般的に浸透移行性が高く、残効性も長い。カメジ目には一般に効果高く(クハコナシラミタテアQ)には薬剤により効果差あり)、アサシメカ目へは種間差が有る(ヒラメアサシメカ・シロイチモシには効果が劣る)。チョウ目・害虫には一般的に効果低い。ダニ目には効果が無い。	トビイロウンカに対してアトマイヤーの効果低下事例がある。シロイチモシ、ウグイスアサシメカ、ウグイスアサシメカへの効果低下事例がある。	速効	○	アトマイヤー類、カメジ類への影響は大きく長期間。ウグイスアサシメカ類への直接的影響は少ない。ハチ類への影響は薬剤により大きな差がある。
スルホキシニル系	4C	エクシード・トランズオーム	神経系に作用(ニコチン性アセチルコリン受容体に結合、過剰興奮を誘起)。食毒・接触毒。アブラムシ、カイガラムシ、コナシラミ等の吸汁性害虫に有効。	ネオニコチノイドとは交差抵抗性を示さない。	速効	○	ハチ類への影響は強い。
メイトン系	4E	セクサロン	神経系に作用(ニコチン性アセチルコリン受容体に結合、脱感作状態を誘起)。トビイロウンカ、ヒトバウンカ、センシロウンカ、ツマグロココバエに対し、卓効性、残効性を示す。		速効	○	寄生蜂、カメジ類、ハナカメジ類への影響は少ない。
ピリジレン系(フルベリン)	4F	リデアイ、エミリア	神経系に作用(ニコチン性アセチルコリン受容体に結合、脱感作状態を誘起)。コウチチョウ目、カメジ目、ハエ目、チョウ目、ハチ目に対して、幅広い防除効果を示す。やや遅効的で、摂取後数時間で麻痺症状を呈し、摂餌行動が抑制され、数日で死に至る。浸透移行性を有す。		遅効	○	ミヅハチ類、カブリタニ類、クモシ類、ヤコ類に対する影響は小さい。
スピロジニン系	5	スピノエース ディナ	神経系に作用(ニコチン性アセチルコリン受容体アロステリック部位に結合、過剰興奮を誘起)。一般名スピノサド(商品名スピノエース)は、食毒・接触毒として作用。チョウ目、アサシメカ目への効果が高く、一部ハエ目、コチフェイ目に対する効果があるが、ハチ類への効果は小さい。浸透移行性は小さい。	シロイチモシ、シロイチモシ、シロイチモシ、ハスモンヨトウに対して効果低下事例がある。	速効	概要参照	ハチ類への影響は強い。
マクロラクト系	6	アファーム・コロマト・アニキ・アグリタック	神経系(GluClとアロステリック部位で結合、GluClを活性化し、麻痺を誘起)に作用。接触毒より食毒の方が強い作用を有す。アファーム・アグリタックではチョウ目、アサシメカ目への効果が高い。コロマトは高い。	アファームは、ハスモンヨトウ、シロイチモシ、ヒラメアサシメカ、ハナアサシメカへの効果低下事例が一部あるが、多くの圃場で効果は高い。コロマトは、県内ではハチ類に対して効果低下事例がある。	速効	×	カブリタニへの影響はあるが、薬剤によっては影響の期間が短い。アグリタックは、ヒメハナカメジ類に影響が大きい。

系統名	IRAC の作用機 構分類	主な商品名	概 要	抵抗性に関する動向	効果の 速達	浸透 移行性	天敵への影響
IGR系 (幼若ホルモン類似剤)	7C	ラーネ・ブルート	幼虫の変態を攪乱して阻害。ラーネ・ブルートとも有効成分はヒドロキシフェン。ラーネはテープ状製剤として施設野菜のコンジウム対策として使用されている。	ラーネはカハココナラミタイプQには効果が劣る。	遅効	×	全般に影響は少ない。
非特異的阻害剤	8B	コロピクリン	土壌消毒剤として使用されており、セフチカ・ネキムシ類に対して効果が劣り、殺菌剤・除草剤としての効果もある。		速効	×	
ヒリジンアゾチン系	9B	チェスコルト	神経系に作用(運動感覚に重要な弦器官TRPVチャネルに結合・攪乱し、摂食行動やその他の行動の機転を誘起)。チェスコルトは、アブラムシ類などのカラムシ目に効果が高く、他昆虫への活性は低い。コルトは、コナジラミ類には飛翔行動阻害、カイガラミ類、コナジラミ類の孵化後定着前幼虫への定着阻害もある(定着した個体へは活性無)。アブラムシ類、コナジラミ類、カイガラミ類、ヨコバイ類などのカラムシ目、一部のアサシママ目に活性がある。	コナジラミ類で効果が振れる試験事例がある。チェスコルトはアブラムシ類に低い効果の事例がある。	速効	○	カブリダニ類、コハチ類などへの影響は少ない。(コルトは一部ハチ目昆虫への影響が確認されている。)
ヘキシンアゾチン系	10A	ニッラン	タニ類成長阻害。ハダニ類の殺卵・殺若虫効果がある。成虫には効果が無い。	県内では主要ハダニ類への効果は低下している事例が多い。	遅効	×	カブリダニ類への影響は少ない。
ジフエニルホキソリン系 (エトキソゾール)	10B	(軍用)ハロック	タニ類成長阻害。ハダニ類の殺卵・殺若虫効果がある。成虫には効果が無い。サビダニ類にも効果あり。	イチゴのナシタニニでは、園地によって極端に効果差があり、その比率は半分程度(2005年県内試験事例より)。シカンタニへの効果は中予で低下している事例が多い。シカンサビダニでも効果の低い事例がある。	遅効	×	カブリダニ類の卵への影響はあるが、カブリダニ類に対して影響は少ない。
Bacillus thuringiensisと 殺虫タンパク質生産物	11A	エスマルカ・チェューリサド・デルフレン・フイブスター	細菌のバチルス・チェューリゲンシス(Bacillus thuringiensis; BT)を用いており、菌の産生する結晶タンパク、腸子、両方の混合されたものがある。食毒として作用し、主に、チョウ目、コナジラミ類幼虫に有効である。	チョウ目(コナガ、ハスモン幼虫等)に効果低下事例がある。	遅効	×	全般に影響はほとんどない。
チカリア系 (シオフェチカロン)	12A	ガンバ	ミトコンドリアでの呼吸系の阻害(ATPの合成酵素を阻害)。コナガ、ヨトウシジメ等のチョウ目、一部のアサシママ目、アブラムシ類、コナジラミ類(チャヤゲコナジラミ)等のカラムシ目に効果が高い。登録はキヤベツ、茶のみ。		遅効	×	カブリダニ類、ハダニ類、テントウムシ等に対し、比較的影響が少ない。
亜硫酸エステル系 (ジフエニルエーテル系)	12C	オマイト	ミトコンドリアでの呼吸系の阻害(ATPの合成酵素を阻害)。ハダニ類に対して主に接触的に効果を発現する。殺卵効果は比較的高いが、成幼虫に対しての効果が高い。シカンタニでは卵に高い効果。		速効	×	カブリダニ類への影響が大い。
ピロロール系	13	コテツ	ミトコンドリアでの呼吸系の阻害(ミトコンドリアのプロトン勾配を攪乱、ATP合成を阻害)。食毒・接触毒として作用。チョウ目には、主に食毒作用。チョウ目・アサシママ目への効果が高い。ハダニ類へは、チミダニ・カンサワラタニなどのアクトニクス属には効果が劣るが、シカンタニなどのハダニカス属には効果が無い。	県内ではミナキエロ・ヒラスハナ・ネキ・ハチ・シカンキエロの各アサシママへの効果が低い試験事例・ナシタニに対して成虫への効果は低い(殺卵効果は高い)試験事例がある。	速効	×	カブリダニ類への影響が大い。
ネオイソキシン系	14	ハタン	神経系に作用(ニコチン性アセチルコリン受容体チャネルを阻害、神経系遮断・麻痺を誘起)。食毒として作用。完全な致死までは時間がかかるが、神経に作用するため食害を速やかに停止させる。チョウ目への効果が高い。	コナガなどで低下事例がある。	速効	○	ハチ類の成虫への影響は強いが、幼虫・蛹への影響は少ない。
IGR系	15	アガロロ・マツチ・カスケード・ノーモルト・デミリン	キチン合成・脱皮阻害。生長過程で脱皮失敗させるタイプがある。脱皮へ誘導し失敗させるタイプがある。チョウ目害虫に特異的に作用する薬剤が多いが、アサシママ目やカラムシ目であるカンカ類、コナジラミ類に効果を示す薬剤もある。また、ハダニ類に特異的に作用する薬剤(トリガード)もある。	コナガ、コナジラミ類などで低下事例がある。アクトロドのヨネノカラムシに対してする効果が低下している地域がある。	速効	×	全般に影響は小さいが、ハダニ類やカンカ類への影響が大きい薬剤がある。
	16	アプロート			速効	×	
	17	トリガード			速効	×	
	18	ロムダン・フルコン			速効	×	
アミトラス	19	タニカト	神経系に作用(オクトパミン受容体を活性化、過剰興奮を誘導)。ミカンサビダニ、ロウムシ類(幼虫)に効果がある。	ハダニ類に対する効果は低下している。	速効	×	カブリダニ類、コハチ類などへの影響が大きい。

系統名	IRAC の作用機 構分類	主な商品名	概 要	抵抗性に関する動向	効果の 速効	浸透 移行性	天敵への影響
キリン系 (アセキシル)	20B	カネマト	ニコトリア呼吸阻害(ニコトリア電子伝達系複合体IIを阻害、エネルギー利用妨害)。ハダニの発育ステージに活性がある。チャ/ホコリダニ、サビダニ類にも効果がある。	ミカンダニへの効果は全域で低下している。	速効	×	カアリダニ類への影響は少ない。
ピフェナゼート	20D	マイコーネ	ニコトリア呼吸阻害(ニコトリア電子伝達系複合体IIを阻害、エネルギー利用妨害)。ハダニの全生育ステージに活性があるが、殺幼虫・成虫活性の方が高い。ミカンダニなどのハダニカス属への効果もあるが、サビダニ、カンザワハダニなどのテトラカス属への効果が高い。ハダニの他、サビダニ類に効果があるが、チャ/ホコリダニには効果がない。	果内ではミカンダニに対し殺卵効果が低下している事例がある。ミカンダニへの効果は全域で低下している。	速効	×	カアリダニ類を含め多くの天敵昆虫への影響は少ない。
METI剤	21A	サンマト・ハチハチ・ダニロン	ニコトリア呼吸阻害(ニコトリア電子伝達系複合体を阻害、エネルギー利用妨害)。サンマトは基本的に殺ダニ剤であるが、一部アブラムシやうどんこ病、コナジラミにも活性がある。ハチハチは各害虫のほか、うどんこ病、さび病、べと病にも活性がある。	ハダニ類に対する効果は低下している事例が多いが、サビダニ類には効果が高い。	速効	×	カアリダニ類、コハチ類などへの影響が大きい。
オキサダイジン系 (オキサジアゾン)	22A	トルネードエース	神経系に作用(Naチャンネルを阻害、神経系麻痺を誘起) 食毒として作用。チャゴ目に対して特に効果が高い。老齢幼虫には、食害は速やかに停止させるもの致死まで時間がかかる場合がある。		速効	×	カアリダニ類、ヒメハチカス類、アブラハチなどへの影響は少ない。
トリブチンカルホキサニト系 (セミカルバゾン)	22B	アケセル	神経系に作用(Naチャンネルを阻害、神経系麻痺を誘起)。既存の殺虫剤とは交差抵抗性を示さない。合ヒレ抵抗性の虫に対しても効果がある。浸透移行の効果は小さい。チャゴ目、一部のコナジラミ(カメコハダニ、テトカスダマシ)、ハチ目(アブラハチ)に活性がある。		速効	×	カアリダニ類、クモ類、ヒメハチカス類、寄生蜂などへの影響は少ない。
環状エノール系	23	タニエモン・ダニグッター・クリアサール・モヘント	脂質合成阻害。ダニエモン、ダニグッターは、ハダニの雌成虫には産卵抑制。若虫には脱皮時に作用する。ハダニ類の全ステージに活性を示すが、殺卵・殺幼虫効果が特に高い。サビダニ類・ホコリダニにも効果がある。浸透移行性は高い。クリアサールの有効成分は、タニグッターと同一。タニエモン・登録をとったもの。モヘントは、アブラムシ、コナジラミ、アザシマ、ハダニ、サビダニ、ホコリダニ、カイガラムシと幅広い害虫に効果があり、浸透移行性を有する。	タニエモンはミカンダニに対し効果が全域で低下している。			カアリダニ類への影響は大きい。成虫には少ない。他天敵への影響は少ない。
β-グロトニリル誘導体	25A	(単剤) スターマト・ダニサラバ (混合剤) スターマトアブラス	ニコトリア呼吸阻害(ニコトリア電子伝達系複合体IIを阻害、エネルギー利用妨害)。スターマトはハダニ類の全ステージに効果がある。チャ/ホコリダニには効果があるが、サビダニ類には効果がない。ダニサラバはハダニの全生育ステージに活性を示すが、特に幼虫への活性が高い。ハダニ類にのみ活性があり、他はチャ/ホコリダニ、サビダニ類を含め活性がない。	ダニサラバはミカンダニに対し全域で効果が低下している。スターマトはミカンダニに対する効果が低下している地域がある。	速効	×	カアリダニ類、クモ類、ヒメハチカス類、寄生蜂などへの影響は少ない。
カルホキサニト系	25B	(単剤) ダニコング (混合剤) タフルフェース	ニコトリア呼吸阻害(ニコトリア電子伝達系複合体IIを阻害、エネルギー利用妨害)。ダニコングはハダニ類の幼虫へ成虫の活性が高いが、殺卵は弱い。ハダニ類以外へのダニには活性がない。タフルフェースはダニコングとの混合剤で、チャ/ホコリダニ、サビダニ類にも有効。		速効	×	ダニコングはカアリダニ類を含め多くの天敵昆虫への影響は少ない。タフルフェースはカアリダニ類等一部の天敵に影響あり。

系統名	IRAC の作用機 構分類	主な商品名	概要	抵抗性に関する動向	効果の 速効	浸透 移行性	天敵への影響
ジアクト系	28	フェニックス・プレバトン・フェルテラ・サムコル・エクスレール・ヘネリア・ハリマーカ・アリロップ・ハデイト・ハズ・ツッパン・ヨーハル	神経及び筋肉作用(筋肉収縮に関わるカルシウムイオン濃度調整に影響、筋肉の収縮や神経系の麻痺を誘導)。完全致死まではやや時間がかかるが行動異常は速やかに現れる。接触毒より食毒の方が強い作用を有する。一般名フルベンジシアクト(商品名フェニックス)は、チョウ目へ特異的に作用し、他昆虫への活性は、ないか、極めて低い。浸透移行性は、一般名クロントラネロロール(商品名フェルテラ)は、チョウ目の他、ハエ目に活性を有する。浸透移行性がある。一般名シアクトアロール(商品名エクスレール、野菜散布剤はヘネリア、野菜灌漑剤はハリマーカ、野菜粒剤はアリロップ、水稻箱注剤はハズ)は、チョウ目の他、アブラムシ、コナジラミ等のカメムシ目、アザシメ類、ハモグリハエ等にも効果がある。浸透移行性がある。	チャノカモンハマキ、コナガに対して感受性低下事例がある。	速効	概要参照	アブラムシに若干影響有(薬剤に暴露したアブラムシを捕食した場合)他は少ない。
ピリジノール系 (フロニカト)	29	ウララ	神経系に作用(運動感覚に重要な弦音器官を攪乱し、摂食行動やその他の行動の攪乱を誘起)。アブラムシ類に特に効果が高く、オンジツコナジラミ、チャノカモンハマキにも効果がある。他昆虫への活性は低く、タバココナジラミ、ミナシヤアザシメへの活性は低い。		速効	○	カブリガニ類、コハチ類などへの影響は少ない。
グアジノール系 イノキサリリン系	30	グレンジア・イザシマ・プロブレア	神経系に作用(昆虫神経細胞上のGABA受容体に結合しシナプス後膜への塩化物イオンの流入を阻害、過剰興奮、痙攣を誘導する)。チョウ目、アザシメ目、ダニ目、ハエ目、コナジラミ、一部ハチ目(カブリガニ)、一部カメムシ目(コナジラミ類)など広範囲の害虫種に効果がある。アブラムシ類や大型カメムシへの活性は低い。シハチ、マルハナハチへの影響は少ない。		速効	○	カブリガニ類、ヒメハチカメムシ類への影響が大きい。
アジナゼル	33	ダニオチ	作用機不明。ハダニ類に対してのみ作用する特徴的なスペクトラムを有する。ハダニの卵から成虫の各ステージに活性を示す。作用発現は速効的で、耐雨性に優れる。		速効	×	セイウソウツハチをはじめとする各種有用昆虫やカブリガニ類等を含めた天敵に対する影響は少ない。
フロムキン系 (フロムキン)	34	アインゼーブ	神経系に作用(ミトコンドリア電子伝達系において複合体IIIでの電子伝達を強く阻害)アザシメ類、セヒダニ類、タバココナジラミ類、小型チョウ目に対して効果がある。速効的に作用し、アザシメ類に対し2週間程度の残効性を有する。浸透性・浸透移行性はない。		速効	×	シハチ、マルハナハチ、カブリガニ類等に対する影響は小さい。
キキサルリン系 (キナチオナート)	UN	モルスタン	作用機不明。ハダニ類の全ステージに活性があるが、特に殺卵効果が高い。セヒダニ類、ホコリダニにも効果がある。コナジラミ類への効果もあるが、2齢幼虫以後は効果が低い。また、うどんこ病への活性がある。		速効	×	カブリガニ類、クモ類、ヒメハチカメムシ類、寄生蜂などへの影響は少ない。
プロベニルキアフェニル系 (ヒリダリル)	UN	フレオ	作用機不明。食毒・接触毒として作用。チョウ目(チョウガ類)、ハエ目(ハエ類)、アザシメ目に効果がある。ただし、アザシメ目への効果には著しい種間差がある。チョウ目へは老齢幼虫へも高い殺虫効果を有する。	シキイロアザシメへの効果低下事例がある。	速効	×	カブリガニ類、クモ類、ヒメハチカメムシ類、寄生蜂などへの影響は少ない。

○薬剤の分類はIRACによる作用機機構分類を参考に記述。
○主要な薬剤名は県内で主に利用があるものとし、剤型は省略。特段のこだわりがない場合は、単剤の名称。
○薬剤の概要及び諸性質は、「病害虫防除資材編(農文協)」「農業害虫防除資材編(農文協)」「農薬ハンドブック2005(日本植物防疫協会)」より代表的な薬剤の項及び、メーカー技術資料を参考に記述。
○系統名は、現時点でのものを掲載しているが、今後解明がすすむれば名称変更やここで異なる系統が統合される可能性がある。
○天敵への影響は、日本生物防除協議会資料及びアリスラファインサイエンスからの情報、各メーカー技術資料による。

○殺菌剤

(治療効果を有する薬剤利用の留意点)
 治療効果とは、感染後でも発病を阻止したり、病斑の拡大を阻止することですが、こうした薬剤でも予防的に利用しなければ十分に能力を発揮することはできません。また、一般的に卓効を示すものが多いのですが、対象病害によっては耐性菌が出現しやすい薬剤も多く数年で利用できなくなるとも珍しくありません。
 病害対応場面では「防除が難しい」と認識されている病害にもかかわらず、しばしば「発病を見ながら」防除が開始され、発病後であるため「治療効果」のある薬剤「だけ」を「連用」することがおきがちです。一般的に病害は感染してから発病までに日数を要し、潜伏期間の長いトマト葉かび病では2週間以上もかかります。感染後日数が経過した場合、治療効果のある薬剤でも十分効果を発揮できない場合があります。感染時期になんら対策が施されていない場合は、発病確認後の進展が急激なことも珍しくありません。
 発生後は圃場内で病原菌量も感染初期と比較し格段に多くなるため、たとえ99%の菌を防除できたとしても残る1%の量は非常に多くなり、薬剤が十分な効果を発揮できないことがあります。効果がかんばしくない場合は、さらに薬剤散布を続けることになり、同一系統薬剤の連用による耐性菌の出現ばかりでなく、薬剤散布回数増加による費用・労力もかかってくるようになります。
 薬剤散布の前に、病害が感染しにくい環境条件を整えるよう努めることが重要です。また、「感染しやすい成育ステージ」や「感染しやすい気象条件」の時には感染防止のため薬剤散布を行うことが重要です。

FRACグループ名	FRACコード	主な商品名	概要	抵抗性に関する動向	治療効果の有無	浸透移行性	備考
MBC殺菌剤	1	トプジンM・ペントレト	呼吸阻害・細胞の有糸分裂阻害。抗菌活性は広いが、細菌病、べと病、疫病、さび病、疫病、さび病、ウイルス病、アムクナリア属菌による病害には効果が低い。	複数の病害で耐性菌出現事例があり、県内でも、イネかび病、ダイズ紫斑病、キャベツうか病、トマト灰色かび病、キャベツ疫病等で耐性菌が確認され、その比率も高い。	有	○	ベンゾイミダゾール系
ジカルボキシミド	2	スレックス・ロアール(混合剤) スズブレンド	浸透圧シグナル経路阻害。細菌病、べと病、疫病、さび病、うどんこ病には効果が低い。ロアールは浸透移行性がなく治療効果も低いが、スレックスは浸透移行性があり、発病初期の治療効果を有する。	灰色かび病で耐性菌が確認されており、県内でもトマト・キャベツ等の灰色かび病で耐性菌が確認されている。	概要に記載		ジカルボキシミド系
DMI殺菌剤(SBI:グリスI)	3	トリフィン・リー	エルゴステロール合成阻害(細胞膜の構成成分)。細菌病、べと病、疫病には効果が低い。	イネばか苗病、イチゴ・カリ類うどんこ病、なし黒星病での効果低下事例が確認されている。	有	○	EBI系
PA殺菌剤(フェニルアミド)	4	ホムル	病原菌のRNA合成阻害。細菌病、べと病、疫病に特異的に効果が低い。他の病原菌には効果が低い。1984年に登録。	作用機構は不明であるが、各種の卵菌類に対する耐性及び交差耐性が確認されている。	有	○	
ホスホチオレート	6	キタシンP	病原菌のリン脂質及び細胞壁のキチン合成阻害。いもち病に対しては予防・治療効果を併せもつ。	いれもち病などで耐性菌が確認されている。耐性リスクのある病原菌への使用では、耐性管理が必要である。	有	○	
SDHI(コハク酸脱水素酵素阻害剤)	7	モカト・ナリア・シガナム・カナス・アフェット・フルーツ・セイバー・ケンジヤ・カナム・オルフィン・ネクスター・ミラビス・ハレート	ミトコンドリア内膜のコハク酸脱水素酵素複合体の電子伝達阻害。複数の化学グループで構成されており、幅広い殺菌スペクトラムを有する。灰色かび病や菌核病に対する効果が低い。ただし、薬剤によって殺菌スペクトラムが異なる。モカトは紋枯病などの担子菌類にのみ作用する。	広い地域に発生が広がっており、耐性菌の発生に注意が必要。他県ではキャベツ疫病で耐性菌が認められている。海外では、果樹のアルナリア病害、刈類うどんこ病で耐性菌の出現が確認されている。	有	○	
AP殺菌剤(アズリビリン)	9	(単剤)フルカ(混合剤)ショウガノスグアロアール	菌体外へのタバキ質分泌が抑制されることで、植物体への侵入に必要な酵素形成が抑制され、感染が阻害される。灰色かび病、うどんこ病への効果が低い。1994年に登録。	Botrytis属及びVenturia属で耐性が確認されている。Oculimaculata属では散発的。	無	○	
N-フェニルカーバメート	10	(単剤)無(混合剤)ケッター・スズブレンド	ベンゾイミダゾール系薬剤(商品名:トリアジンM、ベシレート)に耐性を持った菌へ特異的に作用。耐性菌でないものには効果が無い(負相間交差耐性)。	耐性菌発生リスクは高いとされており、耐性管理が必要である。ベンゾイミダゾール系殺菌剤と負の交差耐性。	有	○	

FRACグループ名	FRACコード	主な商品名	概要	抵抗性に関する動向	治療効果の有無	浸透移行性	備考
Q0(殺菌剤)(Q0阻害剤)	11	ボアズンの1成分、アミスター、ストロビー、スタスクリア	オキザリジン系は、病原菌の電子伝達系阻害。エネルギー産生が抑制され遊走子に毒性を發揮。主にべと病、疫病菌に活性を示す。 ストロベリン系は、病原菌のエネルギー生成系でミトコンドリアに作用。細菌病には効果が無い。	カンギツ・イコキ・イフル・ツル・タス等の灰色かび病、キュウリべと病、うどんこ病、イチゴ炭疽病等で耐性菌が確認されている。一般的に耐性菌の発達が速く、耐性管理が必要である。	有	○	ストロベリン系
	11A	ムゲツ	ミトコンドリアの電子伝達系を阻害。ピラクストロビンと類似した脚鎖を有する。一部のQ0耐性菌株に対して防除効果を示す。	2020年に6月に初登録。耐性は確認されていないが、発生リスクは高いとされている。コード11のG143A突然変異株とは交差しない。			
PP殺菌剤(フェニルピロール)	12	(単剤)セハイブ(混合剤)シヤストミート	糸状菌の原形質膜に作用し、物質の取り込みを阻害。特に胞子形成、発芽、葉上菌糸生育、病斑形成を強く阻止する。1996年に登録。	散発的に耐性がみられる。耐性管理が必要である。	無	×	
AH殺菌剤(芳香族炭化水素)	14	リフレックス	病原菌の運動機能や細胞分裂の制御機能に影響を与えて殺菌効果を發揮する。 <i>Rhizoctonia</i> 属菌、 <i>Corticium</i> 属菌、 <i>Typhula</i> 属菌などに対して効果がある。	いくつかの糸状菌で耐性が確認されている。活性スペクトルが異なるため、交差耐性のパターンは複雑である。	有	○	
MBI-R	16.1	ビーム・ゴラトップ	病原菌のワニン生成系阻害。これにより植物体内への侵入が抑制される。	耐性は確認されていない。	無	○	
MBI-P	16.3	コウゲツ	メラニン合成阻害。これにより植物体内への侵入が抑制される。	耐性は確認されていない。	無	○	
KRI殺菌剤(ケト還元阻害)(SBI:クラスIII)	17	(単剤)ハスワード(混合剤)シヤストミート・ガイマジン	<i>Botrytis</i> 属菌(灰色かび病等)、 <i>Monilinia</i> 属菌(灰星病等)に高い活性を示す。抗菌活性は狭い。1999年に登録。	耐性管理が必要である。	有	×	
(SBI:クラスIV)	18	エイゲン	植物体内の物質輸送阻害(老化促進等の作用)。製剤は粒剤、水和剤、乳剤がある。適用作物は稲と芝。	耐性は確認されていない。殺菌及び除草活性あり。			
ポリオキシン	19	ポリオキシン	農業用抗生物質。細菌病のみに卓効を示すものと、それ以外の糸状菌にも効果を示すものがある。浸透移行性はあるものもないものがある。	ナシの黒斑病などで耐性が確認されている。耐性管理が必要である。	有	×○	
フェニルピロール	20	モンゼレン	接触型殺菌剤。病原菌の侵入、菌核の発芽、病斑の拡大を阻止。	耐性は確認されていない。	有	×	
QII殺菌剤(QII阻害剤)	21	(単剤)ランマン、ライメイ(混合剤)トーンヤス	シアマイタツール系は、病原菌の呼吸系阻害。べと病、疫病菌、根こぶ病菌へ特異的に活性を示す。他の病原菌には効果が無い。2001年に登録。 スルフアモルトアゾール系は、卵菌類のミトコンドリア内電子伝達系(Complex III QII)に作用。	耐性リスクは未知であるが、高いリスクがあると推測されている。耐性管理が必要である。	無	○	
チアゾールカルボキサミド	22	エトアイン	病原菌の胞子形成等阻害。 <i>Phytophthora</i> 属菌、 <i>Pythium</i> 属菌(疫病菌等)などの卵菌類に対して高い抗菌活性を示す。	耐性管理が必要である。	有	○	
ペキレキサン抗生物質	24	カマン	病原菌のタンパク合成阻害。菌糸伸長を抑制する効果が高い。 <i>Pseudomonas</i> 属の細菌にも効果を示す。	糸状菌及び細菌(<i>P.glutamae</i>)の病原菌で耐性が確認されている。耐性管理が必要である。	有	○	
グルコラジカル抗生物質(蛋白質生合成)	25	アクトラプト	細菌のリボソーム結合阻害。タンパク質の合成阻害も誘起。野菜、果樹などの細菌性病害に優れた効果を發揮する。	殺菌剤。耐性が確認されており、耐性管理が必要である。	有	○	
シアアセトミド=オキシム	27	(単剤)なし(混合剤)カーセートPZ・フリサード	病原菌の核酸、タンパク質、脂質合成系、呼吸系阻害。電子伝達阻害。べと病、疫病菌に特異的に作用。	耐性が確認されており、耐性管理が必要である。	有	○	

FRACグループ名	FRACコード	主な商品名	概要	抵抗性に関する動向	治療効果の有無	浸透移行性	備考
カーバメート	28	プレバクルN	殺菌剤の中では同一系統が存在しないため指針中では他と記載。細胞膜の透過性に影響。菌類(シカム、疫病、べと病菌、白さび病菌等)に特異的に効果がある。2008年に登録。	耐性管理が必要である。	有	○	
カルボン酸	29	フロサイド*	菌糸の伸長や胞子形成阻害。ハダニに対する殺卵効果や幼虫の殺虫効果がある。	日本ではBotrytis属で耐性が確認されている。	無	×	
芳香族ピペロ	31	スターナ	細胞分裂に必要なDNAの複製阻害。苗腐敗症以外の種子伝染性病害には効果がない。	殺菌剤。耐性が確認されており、耐性管理が必要である。	無		
ベンゼンスルホン酸	32	アガレン	作用機作不明。土壌殺菌剤として、Fusarium属菌、Pythium属菌及びAphanomyces属菌に対して効果が高い。Rhizoctonia属菌には効果劣る。	耐性は確認されていない。	有	○	
ピリジンジアン	36	ネビジン	病原菌に接触し静菌的(発芽阻止)に作用。根系から吸収されることはない。Fusarium属菌やVerticillium属菌には効果劣る。	耐性は確認されていない。	無	×	
ピラゾールカルボキサミド	39	ピリカット	DMI剤と異なった作用機作。うどんこ病菌のあらゆる生育過程(分生胞子発芽前～分生胞子柄形成)で生育を抑制する。	耐性は確認されていない。	有	○	
CAA殺菌剤(カルボキシ)	40	フェステイバル、レーパス	電子伝達系(複合体I)阻害することによる呼吸阻害。害虫に対しては主として経皮的に、病害に対しては予防的に効果を発揮。食毒としてよりも接触毒の効果が高い。	Plasmopara viticolaで耐性が確認されているが、Phytophthora infestansでは確認されていない。CAAグループのすべてで交差耐性がみられる。	有	○	
テトラサイクリン抗生物質	41	マイコソールド	卵菌類のウェーブ目胞子に対して特異的な効果を示す。遊走子のう、被のう胞子発芽抑制効果が高い。べと病菌・疫病阻害。遊走子のう形成。胞子発芽、菌糸生育阻害。べと病菌・疫病菌に特異的に作用する。上位葉から下位葉への浸透移行性はないが、葉の表面から内部への浸透性、根からの移行性は有する。2007年に登録。	殺菌剤。耐性が確認されており、耐性管理が必要である。	有	○	
ベンズアミド	43	(単剤)ジャストファイト(混合剤)リアイアールの成分	病原菌の細胞膜とタンパク質構造を阻害。細胞内容物(タンパク質、炭水化物、アミノ酸塩類)の漏出。疫病菌に特異的に効果を示す。2009年に登録。	欧州においてぶどうべと病の耐性菌が確認されている。	有	○	
QoS殺菌剤(QoS阻害剤)	45	サンプロ	病原菌の呼吸器(電子伝達系複合体III)阻害。疫病菌、べと病菌の生活環のほぼすべてのステージに効果を示す。ヒンガム病、赤焼病に対して高い予防効果を示す。	QoS殺菌剤と交差しない。耐性管理が必要である。	有	○	
OSBPI(オキニステロール結合タンパク質阻害)	49	ゾーベックアニベル、オロンテイカウルアSCの成分	病原菌のオキシステロール結合タンパク質(OSBP)阻害。遊走子の発芽と菌糸伸長を阻害する。	耐性リスクは中程度から高程度と推定。耐性管理が必要である。		○	
アリルフェニル	50	プロパティ	病原菌の吸器、分生子の形成阻害。二次付着器、菌糸の形態異常を低濃度で誘起することによる殺菌効果を示す。	低感受性の小麦うどんこ病病菌が発生。耐性管理が必要である。	有	○	
イソフルフェニ	52	ミキフ	作用機作不明。RNAを構成するピリミジン基のde novo生合成系のうち、ジヒドロオロト酸デヒドロゲナーゼ(DHODH)を阻害し、病原菌の侵入と定着を阻害すると推察されている。	中～高の耐性菌リスク。	無	○	
ベンゾチアジ	P1	アケイガード*	植物の全身獲得抵抗性を誘導して発病を防ぐ。	耐性は確認されていない。	無	○	抵抗性誘導
ベンゾイミダゾール	P2	オレセマト	病害抵抗性反応による作用。発病する前の予防的な施用が重要。有効成分は根から速やかに吸収されて体内に浸透移行する。	耐性は確認されていない。	無	○	抵抗性誘導
チアジアゾール	P3	アイゲト	植物が本来もっている抵抗性を増強する性質のある薬剤。	耐性は確認されていない。	無	○	抵抗性誘導
カルボキサミド		スカタ・ルーチン	浸透移行性に優れ、残効性が長い。		無	○	

FRAC グループ名	FRAC コード	主な商品名	概要	抵抗性に関する動向	治療 効果 の有無	浸透 移行 性	備考
ホスホナート	P7	アリエンティ	植物が本来もっている抵抗性を増強する性質のある薬剤。アリエンティは、病原菌の胞子形成、菌糸侵入を阻害する作用あり。	いくつかの病原菌で耐性が確認されている。	有	○	抵抗性誘導
イナゾール	P8	アーン	サリチル酸ジナル伝達経路を活性化させ、植物が本来備えている病害抵抗性を増強させる作用を持つ。	耐性は確認されていない。	無	○	抵抗性誘導
フェニルアセト シド	U6	ハンゾットFの成分	作用機作不明。 特にうどんこ病への活性が高く、灰星病にも効果がある。2002年に登録。		有	○	
チアゾリジン	U13	(単剤)カッパン (混合剤)ジョウチカスアカロ アール	病原菌の吸器形成と吸器からの栄養吸収を阻害(デフェルカトアブ効果)。 既存のうどんこ病防除薬剤に対する耐性菌にも効果が高い。2013年に登録。	耐性うどんこ病発生事例あり。	無	×	
ピリジノンピ トラン	U14	アランの成分	菌糸伸長阻害。 病斑形成・胞子形成を抑制し、二次感染を阻止。	耐性は確認されていない。	有	○	
4-キリル酢 酸	U16	トライ	電子伝達(ストロマト)系阻害。 ストロマト系殺菌剤に対して耐性の病原菌にもアブプロキンは有効。	耐性は確認されていない。	有	○	
アトアグリルオキ シム	U17	ピシロック、チエフアイン	ペト病、疫病など卵菌類由来の病害に高い効果を示す。菌糸伸長、胞子発芽を阻害する。	耐性は確認されていない。	無	○	
グルコサラン ル抗生物質	U18	ハラダシン	酵素(トハラゼ)に対する活性阻害。 病斑の形成や菌核の形成を強く阻害する。浸透移行性はないが、菌糸への薬剤の吸収によって薬剤が付着していない部分まで薬効が波及する。	耐性は確認されていない。	有	×	
種々	NC	ハモイト	作用機作不明、植物油を有効成分とし、使用回数制限がない。うどんこ病菌に対して物理的な殺菌作用を示す。ハタニ類にも効果がある。	耐性は確認されていない。	有	×	物理的阻害
無機化合物 (求電子 剤)	M1	サヨール・キノントー トイホルトー・Zホル トロー・コナト・ICホルトー	有機銅は、病原菌の酵素活性阻害。 非常に抗菌活性が高い。一般的に無機銅剤より薬害が軽い。 無機銅は、病原菌の酸化系を阻害。非常に抗菌活性が高い。有機銅剤に比べ、葉を硬化させるなどの薬害をおこしやすい。	糸状菌での耐性発現の徴候がなく、一般的に耐性リスクは低いと考えられる。	無	×	有機銅 無機銅
無機化合物 (求電子 剤)	M2	サルファー	病原菌の電子伝達系を阻害、エネルギー消費により殺菌。あるいは、硫黄が酸化され重硫酸ガスを生じそれが作用しているという説もある。		無	×	無機硫黄
フタルシド(求 電子剤)	M3	シマンダ(ゼン・アトアコー ル	病原菌の生合成に必要な酵素類の不活性化や微量金属欠乏を引き起こす。非常に抗菌活性が高い。カンピタニニに対するシマンダイゼンの効果は低下している。		無	×	ジチオカパーバメート系
クロニトリル(ワ ロニリカ)(作 用点不明)	M4	オーンサイト	菌体内のSH基やNH ₂ 基と反応し、エネルギーの代謝阻害。 抗菌範囲は広いが殺菌性はなく、保護的な殺菌効果を示す。		無	×	有機塩素系(キヤブタン)
ビスガアニン (細胞膜障 乱剤、界面 活性剤)	M5	(単剤)タコニール (混合剤)アミスター・オ ブ・トニーシャス・アロホース	病原菌の呼吸系阻害。 抗菌活性は広いが、灰色かび病、菌核病、つる枯病、うどんこ病、細菌性病害には効果が劣る。		無	×	有機塩素系(TPN)
キノン(アトキ ン)(求電子 剤)	M7	ヘルカート・ベアラン	病原菌の器管形成(胞子発芽、発芽管伸長、付着器形成)阻害。 D-グルコース、酢酸、L-メチオニンの取り込み抑制。 抗菌活性が高いが、細菌病、ペト病、疫病、さび病には効果が低い。		無	×	グアニジン系
キノキカド(求 電子剤)	M9	テラン	病原菌の原形質や酵素タンパクに作用し、分生胞子の発芽や植物体内への侵入を阻止。細菌による病害にも効果を示す。		無	×	有機硫黄
キノキカド(求 電子剤)	M10	モルスタン	うどんこ病の胞子発芽、付着器形成阻害、菌糸伸長阻害。殺菌作用のほか、ハダニ類、コナジラミ類への効果もある。1964年に登録。		有		キノキサリン系
マレイト(求 電子剤)	M11	ストライド	胞子発芽時に働く酵素阻害。				その他の合成殺菌剤・ 天然物由来の殺菌剤

2 性フェロモン剤の使用法

- ある種の昆虫は、雌が出す臭い物質に雄が誘引されることで、交尾し、産卵している。この雌が出す雄を誘引する臭い物質が性フェロモンで、昆虫（害虫）の種類ごとの特異性が高い。これを害虫防除に利用するために人工的に合成したのが性フェロモン剤である。
- 性フェロモン剤を用いた防除は、直接害虫を殺すのではなく、害虫の（交尾）行動を制御する防除法であるため、対象とするそれぞれの害虫の生態をよく理解して用いる必要がある。また、近年、多くの合成性フェロモン剤が作られており、対応する害虫の種類も増えている。
- 防除の方法としては、成虫発生場所の空气中に合成性フェロモンを放出し、雌雄間の交信を攪乱することで交尾率を下げ、次世代の加害期の幼虫密度を抑制しようとする「交信攪乱法」と、トラップ（捕獲器）に合成性フェロモンを取り付け、多量の雄を捕獲することで、雌が交尾する機会を少なくし、次世代の幼虫密度を抑制しようとする「大量誘殺法」がある。

(1) 性フェロモン剤を用いた防除の一般的な留意点

- ①合成性フェロモンは、揮発性で、しかも分解しやすいため、蒸発コントロールと分解防止を目的とした徐放性の製剤（ポリエチレンチューブ、プラスチックテープ、ゴムキャップ等に封入）となっており、保管は密封・冷暗所で行うとともに、保存期限を遵守する。
- ②各剤に表示されている使用期限、使用量、使用方法等を厳守するとともに、使用上の注意事項も十分確認する。
- ③性フェロモンによる防除では特に、処理面積と発生密度が防除効果に大きく影響する。
- ④処理面積は広いほど効果的である。最低限必要な面積は対象の種や環境などによって異なるが、各戸ごとの処理では安定した効果が得られないことも多い。
- ⑤交信攪乱法では、空気中のフェロモン濃度を高く、むらなく維持できるようなフェロモン剤の量と配置、圃場周辺の地形や環境にも留意する。大量誘殺法ではよくとれる場所にフェロモントラップを置く。
- ⑥交尾済みの雌が周辺圃場から侵入してくるのを防ぐこと、あるいは防げるような圃場を選ぶこと。
- ⑦発生密度がある程度を越えると防除率は低下するため、害虫の密度が低い時期から（被害を起こす1世代前の成虫発生期全体を）処理すること。
- ⑧防除効果の確認・判定は、通常の殺虫剤のように容易ではないので、指導機関等と連携を図り実施する。

(2) 交信攪乱用性フェロモン剤一覧

農薬名	農薬の種類	作物名	使用目的	適用害虫名	使用時期	10a当たり使用量	使用方法
スカシバコンL	シナンセルア剤	果樹類、さくら、食用さくら(葉)	交尾阻害	コスカシバ	成虫発生初期から終期	40～100本 (8g/100樽)	デイスパナーを対象作物の枝に巻き付け設置する。
		かき		ヒメコスカシバ			
		キウイフルーツ		キクビスカシバ			
ハマキコンーN	トートリルア剤	果樹類	交尾阻害	リンゴコカクモンハマキ ミダレカクモンハマキ リンゴモンハマキ チャハマキ チャノコカクモンハマキ	成虫発生初期から終期	100～150本 (54g/150樽)	本剤を枝にかける。
		フェニックス・ロベレニー		チャハマキ			
		茶		チャハマキ チャノコカクモンハマキ			
コンフューザーAA	アリマルア・オリフルア・トートリルア・ピーチフルア剤	果樹類	交尾阻害	キンモンホソガ ナシヒメシンクイ リンゴコカクモンハマキ リンゴモンハマキ モモシンクイガ ミダレカクモンハマキ	成虫発生初期から終期	120～150本 (52g/100樽)	デイスパナーを対象作物の枝に挟み込み、又は巻き付け設置する。
コンフューザーMM	オリフルア・トートリルア・ピーチフルア・ピリマルア剤	果樹類	交尾阻害	ナシヒメシンクイ リンゴコカクモンハマキ モモハモグリガ モモシンクイガ チャノコカクモンハマキ	成虫発生初期から終期	100～120本 (55g/100樽)	デイスパナーを対象作物の枝に挟み込み、又は巻き付け設置する。
コンフューザーN	オリフルア・トートリルア・ピーチフルア剤	果樹類	交尾阻害	ナシヒメシンクイ モモシンクイガ チャハマキ チャノコカクモンハマキ リンゴコカクモンハマキ リンゴモンハマキ	成虫発生初期から終期	50～200本 (52g/200樽)	デイスパナーを対象作物の枝に巻き付け、又は挟み込み設置する。
		すもも		スモモヒメシンクイ		150～200本 (52g/200樽)	
コンフューザーR	オリフルア・トートリルア・ピーチフルア剤	果樹類	交尾阻害	モモシンクイガ ナシヒメシンクイ リンゴコカクモンハマキ ミダレカクモンハマキ リンゴモンハマキ	成虫発生初期から終期	100～120本 (36g/100樽)	デイスパナーを対象作物の枝に巻き付け、又は挟み込み設置する。
コンフューザーV	アルミゲルア・ウワバルア・ダイアモルア・ビートアーミルア・リトルア剤	野菜類	交尾阻害	シロイチモジヨトウ	対象作物の栽培全期間	100本 (41g/100樽)	作物の生育に支障のない高さに支持棒を立て、支持棒にデイスパナーを巻き付け固定し、圃場に配置する。
		いも類 豆類(種実) 花き類・観葉植物		コナガ オオタバコガ ハスモンヨトウ タマナギンウワバ イラクサギンウワバ ヨトウガ		100～200本 (41g/100樽)	

農薬名	農薬の種類	作物名	使用目的	適用害虫名	使用時期	10a当たり 使用量	使用方法
シンクイコンーL	ビーチフルア剤	果樹類	交尾 阻害	モモシンクイガ	成虫発生 初期から 終期	100本 (13g/100樽)	ディスプレイを対象作物の 枝に巻き付け設置する。
ナシヒメコン	オリフルア剤	果樹類	交尾 阻害	ナシヒメシンクイ	成虫発生 初期から 終期	50～100本 (23g/100樽)	ディスプレイを対象作物の 枝に挟み込み、又は巻き 付け設置する。
		すもも		スモヒメシンクイ			
ボクトウコンーH	コッシンルア剤	果樹類	交尾 阻害	ヒメボクトウ	成虫発生 初期から 終期	100～150本 (16g/100樽)	ディスプレイを対象作物の 枝に挟み込み、又は巻き 付け設置する。
ヨトウコンーH	リトルア剤	ハスモン ヨトウが 加害する 農作物	交尾 阻害	ハスモンヨトウ	成虫発生 初期から 終期	20～200m (20cm ² あたり) 100～1000本)	【露地】作物上に支柱等 を用いて固定する 【施設】施設内上部に固 定する、又は支柱等を用 いて固定する。
ヨトウコンーS	ビートアーミルア 剤	シロイチ モジヨト ウが加害 する農 作物	交尾 阻害	シロイチモジヨトウ	シロイチ モジヨト ウ発生 初期から 終期	【露地】 100～500本 (20cm ² あたり) 【ハウス】 100～140m (20cm ² あたり) 500～700本)	作物上に支柱などを用い て固定する。
コナガコンー プラス	アルミゲルア・ ダイアモルア剤	コナガ、 オオタバコガ、 ヨトウガ が加害 する農 作物等	交尾 阻害	コナガ オオタバコガ ヨトウガ	対象作物 の栽培全 期間	100～120本 (22g/100樽)	作物の生育に支障のない 高さに支持棒を立て、 支持棒にディスプレイを巻 き付け固定し圃場に配置 する。
				コナガ オオタバコガ		20～40m (22g/20m樽)	

(3) 大量誘殺用 性フェロモン剤一覧

農薬名	農薬の種類	作物名	使用目的	適用害虫名	使用時期	使用量	使用方法
フェロディンSL	リトルア剤	いも類、豆類、なす科野菜、 あぶらな科野菜、レタス、 れんこん、にんじん、ねぎ類、 いちご、たばこ、まめ科牧草等	誘引	ハスモンヨトウ 雄成虫	成虫発生 初期から 発生終期	2～4個/ha	本剤をトラップ1台当たり1 個取り付けて配置する。取 り付けた薬剤は1.5～2ヶ 月間隔で更新する。

3 天敵製剤・微生物天敵製剤(害虫防除用)の使用法

害虫の防除を行う目的で、天敵製剤や微生物天敵製剤が農薬として登録され、市販されるようになってきた。これらの製剤は害虫防除に1つの大きな可能性を持つものであるが、既存の化学農薬を中心にした防除とはかなり異なる性質の防除法であるため、導入する場合には予めその特性をよく理解しておくことが重要である。

(1) 天敵製剤の一般的な特徴

① 害虫密度調査と放飼適期

天敵は、寄生あるいは捕食によって害虫密度を低下させるので、効果を得るためには害虫密度と放飼天敵数の比率が重要である。

一般に天敵製剤は単位面積(株)当たりの放飼量が決められているので、日常的に害虫の発生状況の観察を行い、放飼に適した害虫密度に達する時期を把握する必要がある(放飼時の害虫密度が低すぎても、高すぎてもダメで、適期放飼が重要)。

② 害虫・天敵密度管理と効果の判定

また、効果の発現までには一定の期間を要するので、放飼後も定期的な圃場観察を行ない効果の進行状況の把握に努める必要がある(防除の成否を判断し次の対応を考えるためにも)。

③ 化学農薬の影響

天敵は、一般に化学農薬、特に殺虫剤の影響を受けやすいので、その作全体の防除体系を見直す必要がある。

④ 対象害虫

1種類の天敵は1種類の害虫にしか効果を示さないものが多い。

⑤ 保存性

生物であるため、保存がきかないので入手後直ちに圃場へ放飼する必要がある。

⑥ 天敵活動環境

圃場へ放飼後、その活動は温度等の環境条件の影響を受けやすいので注意が必要である。

(2) 農薬登録されている天敵製剤一覧

野菜

[1] 野菜類(施設)

農薬名	有効成分(天敵名)	適用害虫名	使用量
アカメ	アカメガシワクダアザミウマ 5,000頭/ボトル	アザミウマ類	10,000~15,000頭/10a
アフィパール	コレマンアブラバチ 成虫500頭/ボトル	アブラムシ類	約500~1,000頭/10a
アリガタ	アリガタシマアザミウマ 成虫250頭/ボトル	アザミウマ類	約500~2,000頭/10a
イサバラリ	イサエアヒメコバチ 成虫250頭/ボトル	ハモグリバエ類	約250頭/10a
エルカード	サバクツヤコバチ 成虫3,000頭/箱	コナジラミ類	1箱/10a
エンストリップ	オンシツツヤコバチ 羽化雌成虫50頭/カート 50カート/箱	コナジラミ類	1カート/25~30株
オリスターA	タイリクヒメハナカメムシ 成虫250頭/ボトル	アザミウマ類	約500~2,000頭/10a
カゲタロウ	ヤマトクサカゲロウ 300頭/シート	アブラムシ類	10~40頭/m ²
カメノコS	ヒメカメノコテントウ 成虫100頭/ボトル	アブラムシ類	0.5~2頭/株
ククメリスEX	ククメリスカブリダニ 500頭/ボトル	アザミウマ類	50~100頭/株
コレトップ	コレマンアブラバチ 250頭/ボトル	アブラムシ類	1,000~2,000頭/10a
コババラリ	コレマンアブラバチ 500頭/ボトル	アブラムシ類	1,000頭/10a
サバクトップ	サバクツヤコバチ 羽化成虫60頭/カード	コナジラミ類	50~75カード/10a
システムミヤコくん	ミヤコカブリダニ 100頭/パック 100パック/1セット	ハダニ類	50~100パック/10a
スパイデックスバイタル	チリカブリダニ 2,000頭/ボトル	ハダニ類	約2,000~6,000頭/10a または20~3,000頭/100株
スワルスキー	スワルスキーカブリダニ 250ml(25,000頭)/ボトル	アザミウマ類、コナジラミ類、チャノホコリダニ	250~500ml/10a
スワルスキープラスUM	スワルスキーカブリダニ 250頭/パック 100パック/袋	アザミウマ類、コナジラミ類、チャノホコリダニ	100~200パック/10a
タイリク	タイリクヒメハナカメムシ 50頭/50ml ボトル:100ml, 250ml	アザミウマ類	約500~2,000頭/10a
チャバラ	チャバラアブラコバチ 100頭/10ml	アブラムシ類	2,000頭/10a
チリガブリ	チリカブリダニ 2,000頭/ボトル	ハダニ類	2,000~6,000頭/10a
チリカ・ワーカー	チリカブリダニ 2,000頭/ボトル	ハダニ類	約2,000~6,000頭/10a
チリトップ	チリカブリダニ 成虫2,000頭/ボトル	ハダニ類	6,000頭/10a
ツヤコバチEF30	オンシツツヤコバチ 羽化雌成虫30頭/カート 40カート/箱	コナジラミ類	80カート/10a
ツヤトップ	オンシツツヤコバチ 羽化雌成虫50頭/カート 45カート/箱	オンシツコナジラミ	1カート/25~30株
ツヤトップ25	オンシツツヤコバチ 羽化雌成虫25頭/カート 100カート/箱	オンシツコナジラミ	2カート/25~30株
ツヤバラリ	オンシツツヤコバチ 羽化雌成虫100頭/カート	コナジラミ類	1カート/25~50株
テントップ	ナミテントウ 2齢幼虫200頭/箱	アブラムシ類	10~13頭/m ²
トスパック	タイリクヒメハナカメムシ 成虫250頭/ボトル	アザミウマ類	約500~2,000頭/10a
ナミトップ	ナミテントウ 成虫100頭/カップ	アブラムシ類	0.5~4頭/株
ナミトップ20	ナミテントウ 成虫20頭/カップ	アブラムシ類	0.5~4頭/株
ヒメトップ	イサエアヒメコバチ 羽化成虫100頭/ボトル	ハモグリバエ類	200~800頭/10a
ベミパール	チチュウカイツヤコバチ 50頭/カート 50カート/箱	タバココナジラミ類(シルバーリーフコナジラミを含む)	1カート/25~30株
ミドリヒメ	ハモグリミドリヒメコバチ 成虫25頭/15mlボトル 50頭/30mlボトル	ハモグリバエ類	100頭/10a
ミヤコトップ	ミヤコカブリダニ 2,000頭/ボトル	ハダニ類	2,000~6,000頭/10a
メリトップ	ククメリスカブリダニ 50,000頭/ボトル	アザミウマ類	100頭/株
リクトップ	タイリクヒメハナカメムシ 100頭/100ml ボトル:100ml, 500ml	アザミウマ類	1,000~3,000頭/10a
リモニカ	リモニカカブリダニ 12,500頭/ボトル	アザミウマ類、コナジラミ類、チャノホコリダニ	25,000~50,000頭/10a

[2] 野菜類

農薬名	有効成分(天敵名)	適用害虫名	使用量
スパイカルEX	ミヤコカブリダニ 200頭/10ml ボトル:100ml, 250ml	ハダニ類	約2,000~25,000頭/10a または20~3,000頭/100株
スパイカルプラス	ミヤコカブリダニ 50頭/パック 100パック/1セット	ハダニ類	40~500パック/10a または2~60パック/100株
スパイカルプラスUM	ミヤコカブリダニ 100頭/パック	ハダニ類	20~250パック/10a または1~30パック/100株

[3] 野菜類(露地)

農薬名	有効成分(天敵名)	適用害虫名	使用量
スワルスキー	スワルスキーカブリダニ 250ml(25,000頭)/ボトル	アザミウマ類	250~500ml/10a
スワルスキープラスUM	スワルスキーカブリダニ 250頭/パック 100パック/袋	アザミウマ類	100~200パック/10a

[4] 野菜類(施設、ただしトマト、ミニトマトを除く)

農薬名	有効成分(天敵名)	適用害虫名	使用量
システムスワルくん	スワルスキーカブリダニ 250頭/パック 100パック/1セット	アザミウマ類、コナジラミ類	100~200パック/10a
スワマイト	スワルスキーカブリダニ 25,000頭/ボトル	アザミウマ類、コナジラミ類	25,000~50,000頭/10a

[5] 野菜類(施設、ただしいちごを除く)

農薬名	有効成分(天敵名)	適用害虫名	使用量
ミヤコスター	ミヤコカブリダニ 2,000頭/ボトル	ハダニ類	2,000頭/10a

[6] いちご(施設)

農薬名	有効成分(天敵名)	適用害虫名	使用量
ミヤコスター	ミヤコカブリダニ 2,000頭/ボトル	ハダニ類	2,000~6,000頭/10a

[7] いちご(露地)

農薬名	有効成分(天敵名)	適用害虫名	使用量
システムミヤコくん	ミヤコカブリダニ 100頭/パック 100パック/1セット	ハダニ類	100パック/10a

[8] なす(施設)

農薬名	有効成分(天敵名)	適用害虫名	使用量
キイトップ	キイカブリダニ 1,000頭/ボトル	アザミウマ類	6~12頭/m ²
ギフパール	ギフアブラバチ 成虫250頭/ボトル	アブラムシ類	約250~500頭/10a

[9] なす(露地)

農薬名	有効成分(天敵名)	適用害虫名	使用量
スワルスキー	スワルスキーカブリダニ 250ml(25,000頭)/ボトル	チャノホコリダニ	250ml/10a

[10]ほうれんそう(施設)

農薬名	有効成分(天敵名)	適用害虫名	使用量
ククリスEX	ククリスカブリダニ 500頭/ボトル	ケナガコナダニ	100~200頭/m ²

[11]ピーマン(施設)

農薬名	有効成分(天敵名)	適用害虫名	使用量
ギフパール	ギフアブラバチ 成虫250頭/ボトル	アブラムシ類	約250~500頭/10a

[12]トマト(施設)

農薬名	有効成分(天敵名)	適用害虫名	使用量
バコトップ	タバコカスミカメ 100頭/カップ	コナジラミ類	1頭/2株

[13]きゅうり(施設)

農薬名	有効成分(天敵名)	適用害虫名	使用量
バコトップ	タバコカスミカメ 100頭/カップ	コナジラミ類	1頭/2株

[14]トウガラシ(施設)

農薬名	有効成分(天敵名)	適用害虫名	使用量
ギフパール	ギフアブラバチ 成虫250頭/ボトル	アブラムシ類	約250~500頭/10a

[15]豆類(種実)(施設)、いも類(施設)

農薬名	有効成分(天敵名)	適用害虫名	使用量
スパイデックス	チリカブリダニ 2,000頭/ボトル	ハダニ類	100~300ml/10a または20~3,000頭/100株
スワルスキー	スワルスキーカブリダニ 250ml(25,000頭)/ボトル	アザミウマ類、コナジラミ類、チャノホコリダニ	250~500ml/10a
スワルスキープラスUM	スワルスキーカブリダニ 250頭/パック 100パック/袋	アザミウマ類、コナジラミ類、チャノホコリダニ	100~200パック/10a

[16]豆類(種実)(露地)、いも類(露地)

農薬名	有効成分(天敵名)	適用害虫名	使用量
スワルスキー	スワルスキーカブリダニ 250ml(25,000頭)/ボトル	アザミウマ類	250~500ml/10a
スワルスキープラスUM	スワルスキーカブリダニ 250頭/パック 100パック/袋	アザミウマ類	100~200パック/10a

果樹

[1]果樹類

農薬名	有効成分(天敵名)	適用害虫名	使用量
スパイカルEX	ミヤコカブリダニ 200頭/10ml ボトル:100ml、250ml	ハダニ類	2.4~12ml/樹
スパイカルプラス	ミヤコカブリダニ 50頭/パック 100パック/1セット	ハダニ類	1~40パック/樹
スパイカルプラスUM	ミヤコカブリダニ 100頭/パック	ハダニ類	1~20パック/樹

[2]果樹類(施設)

農薬名	有効成分(天敵名)	適用害虫名	使用量
システムミヤコくん	ミヤコカブリダニ 100頭/パック 100パック/1セット	ハダニ類	2~5パック/樹
スパイデックスバイタル	チリカブリダニ 2,000頭/ボトル	ハダニ類	約2,000~6,000頭/10a
スワルスキー	スワルスキーカブリダニ 250ml(25,000頭)/ボトル	ミカンハダニ	2.5~10ml/樹
スワルスキープラスUM	スワルスキーカブリダニ 250頭/パック 100パック/袋	ミカンハダニ	1~4パック/樹

[3]マンゴー(施設)

農薬名	有効成分(天敵名)	適用害虫名	使用量
システムスワルくん	スワルスキーカブリダニ 250頭/パック 100パック/1セット	チャノキイロアザミウマ	1~2パック/樹
スワルスキー	スワルスキーカブリダニ 250ml(25,000頭)/ボトル	チャノキイロアザミウマ	2.5ml/樹
スワルスキープラスUM	スワルスキーカブリダニ 250頭/パック 100パック/袋	チャノキイロアザミウマ	1~4パック/樹

[4]かんきつ(施設)

農薬名	有効成分(天敵名)	適用害虫名	使用量
システムスワルくん	スワルスキーカブリダニ 250頭/パック 100パック/1セット	ミカンハダニ	1~5パック/樹

[5]日本なし(露地)

農薬名	有効成分(天敵名)	適用害虫名	使用量
システムミヤコくん	ミヤコカブリダニ 100頭/パック 100パック/1セット	ハダニ類	2~5パック/樹

[6]びわ(施設)

農薬名	有効成分(天敵名)	適用害虫名	使用量
システムスワルくん	スワルスキーカブリダニ 250頭/パック 100パック/1セット	ミカンハダニ	2パック/樹

(3) 農薬登録されている微生物天敵製剤一覧

普通作物

[1]だいず

農薬名	有効成分	適用害虫名	使用量・希釈倍率
ハスモンキラール	ハスモンヨトウ核多角体病ウイルス	ハスモンヨトウ	1,000倍
ハスモン天敵	ハスモンヨトウ核多角体病ウイルス	ハスモンヨトウ	散布 1,000倍~2,000倍 無人ヘリ 8倍

野菜

[1]野菜類(施設)

農薬名	有効成分	適用害虫名	使用量・希釈倍率
バイレーツ粒剤	メタリジウム アミノプリエ	アザミウマ類	5g/株(5kg/10a)
ポタニガード水和剤	ボーベリア バシアーナ	コナジラミ類、アザミウマ類、アブラムシ類	1,000倍
マイコタール	パーティシリウム レカニ	コナジラミ類	1,000倍

[2]野菜類(施設、ただしいちごを除く)

農薬名	有効成分	適用害虫名	使用量・希釈倍率
プリファード水和剤	ベキロマイセス フモソロセウス	コナジラミ類、ワタアブラムシ	1,000倍

[3]野菜類

農薬名	有効成分	適用害虫名	使用量・希釈倍率
バイオセーフ	スタイナーネマ・カーボカプサエ	ハスモンヨトウ	2億5000万頭(約100g)/10a
バストリア水和剤	バストーリア ベネトランス	ネコブセンチュウ	1~5kg/10aまたは0.5g/穴
ポタニガードES	ボーベリア バシアーナ	アザミウマ類、アブラムシ類、ハダニ類、コナジラミ類	1,000倍
		コナガ	500倍

[4]トマト

農薬名	有効成分	適用害虫名	使用量・希釈倍率
ポタニガードES	ボーベリア・バシアーナ	コナジラミ類	1,000倍～2,000倍
ポタニガード水和剤	ボーベリア バシアーナ	コナジラミ類	10g/10a/日 ダクト内投入 または 300g/10a

[5]ミニトマト

農薬名	有効成分	適用害虫名	使用量・希釈倍率
ポタニガードES	ボーベリア・バシアーナ	コナジラミ類	1,000倍～2,000倍
ポタニガード水和剤	ボーベリア バシアーナ	コナジラミ類	10g/10a/日 ダクト内投入 または 300g/10a

[6]いちご

農薬名	有効成分	適用害虫名	使用量・希釈倍率
ハスモンキラー	ハスモンヨトウ核多角体病ウイルス	ハスモンヨトウ	1,000倍
ハスモン天敵	ハスモンヨトウ核多角体病ウイルス	ハスモンヨトウ	1,000倍～2,000倍

[7]いちご(施設)

農薬名	有効成分	適用害虫名	使用量・希釈倍率
ブリファード水和剤	ベキロマイセス フモソロセウス	ハダニ類、コナジラミ類、ワタアブラムシ	1,000倍

[8]キャベツ

農薬名	有効成分	適用害虫名	使用量・希釈倍率
ハスモン天敵	ハスモンヨトウ核多角体病ウイルス	ハスモンヨトウ	1,000倍
ポタニガードES	ボーベリア・バシアーナ	アオムシ	500倍

[9]レタス

農薬名	有効成分	適用害虫名	使用量・希釈倍率
ハスモンキラー	ハスモンヨトウ核多角体病ウイルス	ハスモンヨトウ	1,000倍
ハスモン天敵	ハスモンヨトウ核多角体病ウイルス	ハスモンヨトウ	1,000倍～2,000倍
ポタニガードES	ボーベリア バシアーナ	オオタバコガ	500倍

[10]いも類

農薬名	有効成分	適用害虫名	使用量・希釈倍率
バストリア水和剤	バスターリア ペネトランス	ネコブセンチュウ	1～5kg/10aまたは0.5g/穴

[11]えだまめ

農薬名	有効成分	適用害虫名	使用量・希釈倍率
ハスモンキラー	ハスモンヨトウ核多角体病ウイルス	ハスモンヨトウ	1,000倍
ハスモン天敵	ハスモンヨトウ核多角体病ウイルス	ハスモンヨトウ	散布 1,000倍～2,000倍 無人ヘリ 8倍

[12]アスパラガス

農薬名	有効成分	適用害虫名	使用量・希釈倍率
ハスモン天敵	ハスモンヨトウ核多角体病ウイルス	ハスモンヨトウ	2,000倍

[13]しそ

農薬名	有効成分	適用害虫名	使用量・希釈倍率
ハスモンキラー	ハスモンヨトウ核多角体病ウイルス	ハスモンヨトウ	1,000倍
ハスモン天敵	ハスモンヨトウ核多角体病ウイルス	ハスモンヨトウ	1,000倍～2,000倍
ポタニガードES	ボーベリア・バシアーナ	チャノホコリダニ、マデイラコナカイガラムシ	1,000倍

果樹

[1]果樹類

農薬名	有効成分	適用害虫名	使用量・希釈倍率
バイオセーフ	スタイナーネマ・カーボカブサエ	モモシクイガ コスカシバ	2億5,000万頭(約100g)/10a 2,500万頭(約10g)/10a
バイオリサ・カミキリスリム	ボーベリア ブロンニアティ	カミキリムシ類	1本/樹

[2]いちじく

農薬名	有効成分	適用害虫名	使用量・希釈倍率
バイオセーフ	スタイナーネマ・カーボカブサエ	キボシカミキリ幼虫	2,500万頭(約10g)/10a
バストリア水和剤	バスターリア ペネトランス	ネコブセンチュウ	1～5kg/10a

[3]マンゴー

農薬名	有効成分	適用害虫名	使用量・希釈倍率
バイレーツ粒剤	メタリジウム アニソブリエ	チャノキイロアザミウマ	10g/樹
ポタニガードES	ボーベリア バシアーナ	チャノキイロアザミウマ	1,000倍

[4]マンゴー(施設)

農薬名	有効成分	適用害虫名	使用量・希釈倍率
マイコタール	パーティシリウム レカニ	チャノキイロアザミウマ	1,000倍

[5]なし

農薬名	有効成分	適用害虫名	使用量・希釈倍率
バイオセーフ	スタイナーネマ・カーボカブサエ	ヒメボクトウ	2,500万頭(約10g)/10a

4 主要天敵への薬剤影響一覧表

殺虫剤・殺ダニ剤

薬剤名	IRAC コード	FRAC コード	本指針への掲載の有無			ミヤコ カブリダニ	チリ カブリダニ	スワルスキー カブリダニ	タバコ カスミカメ
			きゅうり	なす	いちご				
アカリタッチ乳剤	物理		○	○	○	1	1	1	1000倍影響あり
アクセルフロアブル	22B		○	○		0	0	0	中程度の影響
アクタラ粒剤5	4A		○	○		14	14	7	—
アクタラ顆粒水溶剤	4A		○	○		14	14	7	29
アグリメック	6		○	○	○	7	7	14	影響大きい
アタブロン乳剤	15			○	○	14	1	14	幼虫強い影響
アーデント水和剤	3A		○	○	○	60以上	60以上	60以上	—
アドマイヤー1粒剤	4A		○	○		14	14	7	—
アドマイヤーフロアブル	4A			○		14	14	7	—
アドマイヤー水和剤	4A					14	14	卵影響あり	29
アニキ乳剤	6		○	○	○	7	7	7	強い影響
アフーム乳剤	6		○	○	○	7	7	7	強い影響
アブロードエースフロアブル	21A+16		○	○		幼虫影響あり	—	30	影響なし
アブロード水和剤	16		○			0	0	7	—
アベイル粒剤	4A+28		○	○		—	—	影響なし	—
アルバリン粒剤	4A		○	○		14	14	7	—
アルバリン顆粒水溶剤	4A		○	○		14	14	0	成虫強い影響
ウララD F	29		○	○	○	0	0	0	影響なし
エコピタ液剤	物理		○	○	○	1	1	1	影響なし
カスケード乳剤	15		○	○	○	7	0	0	幼虫強い影響
カネマイトフロアブル	2B		○	○		0	0	0	影響なし
グレーシア乳剤	30		○		○	強い影響	強い影響	100以上	強い影響
コテツフロアブル	13		○	○	○	14	14	14	影響あり
コルト顆粒水和剤	9B		○	○	○	ほとんど影響なし	ほとんど影響なし	14	強い影響
コロマイト水和剤	6			○	○	7	7	7	—
コロマイト乳剤	6		○	○	○	7	7	7	影響小さい
サフオイル乳剤	物理		○	○	○	1	1	1	影響あり
サンマイトフロアブル	21A		○		○	30	30	30	成虫強い影響
スタークル粒剤	4A		○	○		14	14	7	—
スタークル顆粒水溶剤	4A		○	○		14	14	0	成虫強い影響
スターマイトフロアブル	25A		○	○	○	0	0	0	影響なし
スピノエース顆粒水和剤	5		○	○	○	7	7	14	7
ダニオーテフロアブル	33			○	○	影響なし	影響なし	影響なし	—
ダニコングフロアブル	25B			○	○	0	0	0	—
ダニサラバフロアブル	25A		○			0	0	0	影響なし
ダニトロンフロアブル	21A		○			14	14以上	30	影響小さい
ダブルシューターSE	5+物理		○	○	○	影響あり	—	影響あり	—
ダブルフェースフロアブル	25B+21A		○	○	○	14	14以上	30	影響なし
ダントツ水溶剤	4A		○	○		14	14	7	—
ダントツ粒剤	4A		○	○		14	14	7	—
チェス顆粒水和剤	9B		○	○	○	0	0	0	影響あり
ディアナS C	5		○	○	○	14	14	14~21	強い影響
トランスフォームフロアブル	4C		○	○		影響なし	影響なし	影響なし	中程度の影響
トリガード液剤	17			○		0	0	0	幼虫影響小さい
トルネードエースD F	22A		○	○	○	0	0	0	影響あり
粘着くん液剤	物理		○	○	○	1	1	1	幼虫影響あり
ノーモルト乳剤	15			○	○	0	0	0	幼虫影響あり
ハチハチフロアブル	21A	39			○	40以上	40以上	40以上	—
ハチハチ乳剤	21A	39	○			40以上	40以上	40以上	14
バリアード顆粒水和剤	4A			○		14	14	7	成虫強い影響
バロックフロアブル	10B		○	○		30以上	30以上	30以上	—
ピラニカEW	21A		○			30	30	30	—
ファインセーブフロアブル	34			○		0	0	0	1
ファイントリムDF	22A			○	○	0	0	0	影響あり
ファルコンフロアブル	18			○	○	0	0	0	幼虫影響小さい
フェニックス顆粒水和剤	28		○	○	○	0	0	0	影響なし
ブリロッソ粒剤	28		○	○		0	0	0	—
プレオフロアブル	un		○	○	○	0	0	0	影響なし
プレバソフロアブル5	28		○	○	○	0	0	0	幼虫影響小さい
ベネビアOD	28		○		○	0	0	0	影響なし
ベリマークS C	28		○	○	○	0	0	0	—
マイトコーネフロアブル	2D		○	○	○	0	0	7	影響なし
マッチ乳剤	15		○	○		0	0	0	幼虫強い影響
マトリックフロアブル	18		○	○	○	0	0	0	幼虫影響あり
ムシラップ	物理		○	○	○	1	1	1	—
モスピラン粒剤	4A		○	○	○	14	14	7	—
モスピラン顆粒水溶剤	4A		○	○	○	14	14	7	成虫強い影響
モベントフロアブル	23		○	○	○	45	45	30以上	影響なし
ヨーバルフロアブル	28		○	○	○	0	0	0	影響なし
ラノーテープ	7C		○			0	0	—	—
ロムダンフロアブル	18				○	0	0	0	—

殺菌剤

薬剤名	IRAC コード	FRAC コード	本指針への掲載の有無			ミヤコ カブリダニ	チリ カブリダニ	スワルスキー カブリダニ	タバコ カスミカメ
			きゅうり	なす	いちご				
アフエトフロアブル		7	○	○	○	0	0	0	幼虫影響小さい
アミスターオブティフロアブル		11+M5	○	○		—	—	0	影響小さい
アリエッティ水和剤		33	○			0	0	7	—
アントラコール顆粒水和剤		M3			○	—	7	影響あり	—
オーソサイド水和剤 80		M4	○		○	0	0	0	影響なし
カーゼートPZ水和剤		27+M3	○			14	14	30	—
カスミンボルドー		24+M1	○			7	7	7	影響なし
カリグリーン		NC	○		○	0	0	0	影響なし
カンタスドライフロアブル		7	○	○	○	0	0	0	幼虫影響小さい
カンパネラ水和剤		4+M3	○			14	14	30	—
ゲッター水和剤		1+1	○	○	○	14	14	14	—
ケンジャフロアブル		7	○	○	○	影響なし	影響なし	影響なし	影響なし
サプロール乳剤		3	○	○	○	7	7	7	—
サンヨール		M1			○	1	1	1	影響あり
シグナムWDG		11+7		○	○	0	0	0	成虫強い影響
ジマンダイセンフロアブル		M3	○			14	14	30	—
ジマンダイセン水和剤		M3	○		○	14	14	30	影響なし
ジャストフィットフロアブル		43+4	○			ほとんど影響なし	ほとんど影響なし	—	影響なし
ジャストミート顆粒水和剤		17+12	○	○	○	0	7	0	—
ショウチノスケフロアブル		U13+9	○	○	○	0	0	0	—
スクレアフロアブル		11	○	○	○	—	—	成虫影響なし	影響なし
スコア顆粒水和剤		3	○	○	○	0	0	—	幼虫影響小さい
ストロビーフロアブル		11	○	○	○	0	0	7	成虫影響小さい
スミブレンド水和剤		1+2	○	○	○	0	0	0	—
スミレックス水和剤		2	○	○	○	0	0	0	影響なし
セイビアフロアブル 20		12	○	○	○	0	0	0	幼虫影響小さい
ダイアメリットDF		M7+19	○	○	○	14	—	21	影響小さい
ダイヤモンド		M7+17	○	○	○	—	—	0	成虫影響あり
ダコニール1000		M5	○	○		0	0	0	成虫影響小さい
テーク水和剤		3+M3	○			—	—	30	影響小さい
デランフロアブル		M9			○	0	0	0	—
ドーシャスフロアブル		21+M5	○	○		ほとんど影響なし	ほとんど影響なし	0	—
トップジンMペースト		1	○			—	—	—	—
トップジンM水和剤		1	○	○	○	14	14	14	影響なし
トリフミン水和剤		3	○	○	○	0	0	0	成虫影響小さい
トリフミン乳剤		3	○	○		0	0	0	影響なし
ニマイバー水和剤		10+1	○	○	○	14	14	影響あり	—
ネクスターフロアブル		7	○	○	○	0	0	0	影響なし
ハーモメイト水溶剤		NC	○		○	0	0	0	影響小さい
バルミノ	UN	M10	○	○		21	21	21	影響なし
パレード20フロアブル		7	○	○	○	ほとんど影響なし	0	ほとんど影響なし	影響なし
パンチョTF顆粒水和剤		U6+3	○	○	○	0	0	0	成虫影響小さい
ピクシオDF		17	○	○		ほとんど影響なし	ほとんど影響なし	ほとんど影響なし	成虫影響小さい
ピシロックフロアブル		U17	○	○		影響なし	影響なし	影響なし	影響なし
ファンタジスタ顆粒水和剤		11		○		1	1	1	—
ファンベル顆粒水和剤		M7+11	○		○	—	—	1	—
フェスティバルC水和剤		4+M1	○	○		0	0	0	—
フェスティバル水和剤		4	○			0	0	0	—
ブリザード水和剤		27+M5	○			0	0	0	幼虫影響小さい
フルピカフロアブル		9	○	○	○	0	0	0	影響なし
プロパティフロアブル		U8	○	○	○	0	0	0	—
プロボーズ顆粒水和剤		4+M5	○	○		0	0	0	成虫影響小さい
ベジセイバー		7+M5	○	○		—	—	成虫影響なし	—
ベトファイター顆粒水和剤		27+4	○			0	0	0	—
ベルコートフロアブル		M7	○	○	○	0	0	0	影響なし
ベルコート水和剤		M7	○	○	○	0	0	0	—
ペンコゼブフロアブル		M3	○			14	14	30	—
ペンコゼブ水和剤		M3	○		○	14	14	30	—
ベンレート水和剤		1	○	○	○	14~21	14~21	14	影響なし
ホライズンドライフロアブル		27+11	○			—	ほとんど影響なし	0	—
ポリオキシシAL水溶剤		19		○	○	14	14	21	—
ポリオキシシAL乳剤		19		○	○	14	14	21	—
ミギワ10フロアブル		52	○	○		0	0	0	—
モレスタン水和剤	un	M1	○	○	○	21	21	21	影響なし
ライメイフロアブル		21	○	○	○	0	0	0	影響なし
ラミック顆粒水和剤		M7+U8	○	○	○	0	0	0	—
ラリー水和剤		3	○	○	○	0	0	0	幼虫影響小さい
ラリー乳剤		3			○	0	0	0	—
ランマンフロアブル		21	○	○	○	0	0	0	影響なし
リドミルゴールドMZ		M3+4	○			14	14	30	—
レーパスフロアブル		4			○	—	0	0	影響なし
ロブラール水和剤		2	○	○	○	0	0	7	影響なし

本表は各メーカーの技術資料等を基に作成した。「-」は知見無し。数字は影響のある日数を表す。
 表中の数字や影響の程度は目安であり、散布時の状況（気象条件、管理状況等）により変化するので注意する。

5 マルハナバチへの農薬の影響一覧表(トマト)

殺菌剤		殺菌剤		殺虫剤	
農薬名	影響日数	農薬名	影響日数	農薬名	影響日数
ICボルドー66D	薬剤が乾けば影響なし	ベンレート水和剤	1日	チェス顆粒水和剤	薬剤が乾けば影響なし
アグロケア水和剤	影響なし	ボトキラー水和剤	影響なし	ディアナSC	1日
アフットフロアブル	1日	ホライズンドライフロアブル	1日	デュアルサイド水和剤	薬剤が乾けば影響なし
アミスターオブティフロアブル	1日	ポリオキシAL水和剤	1日	デルフィン顆粒水和剤	薬剤が乾けば影響なし
インプレッションクリア	薬剤が乾けば影響なし	ポリオキシAL水溶剤	1日	トアロー水和剤CT	薬剤が乾けば影響なし
エコショット	1日	ボルドー水和剤	1日	トアローフロアブルCT	薬剤が乾けば影響なし
エトフィンフロアブル	薬剤が乾けば影響なし	マスターピース水和剤	影響なし	トランスフォームフロアブル	2〜5日
オロンディスウルトラSC	データ無	ミギワフ10フロアブル	薬剤が乾けば影響なし	トリガード液剤	1日
カーゼートPZ水和剤	1日	ミニタンWG	データ無	トルネードエースDF	6日
カスミンボルドー	薬剤が乾けば影響なし	ムッシュボルドーDF	薬剤が乾けば影響なし	粘着くん液剤	薬剤が乾けば影響なし
カップーシン水和剤	薬剤が乾けば影響なし	ライメイフロアブル	1日	ノーモルト乳剤	1日
カンタスドライフロアブル	薬剤が乾けば影響なし	ラリー水和剤	影響なし	バイデールL粒剤	14日以上
カンパネラ水和剤	1日	ラリー乳剤	影響なし	バシレックス水和剤	薬剤が乾けば影響なし
グリーンカップ	1日	ラムミック顆粒水和剤	薬剤が乾けば影響なし	バリアード顆粒水和剤	1日
ゲッター水和剤	1日	ランマンフロアブル	薬剤が乾けば影響なし	ファインセーブフロアブル	1日
ケミヘル	1日	リドミルゴールドMZ	データ無	ファルコンフロアブル	1日
ケンジャフロアブル	ほとんど影響なし	レーバフロアブル	1日	フーモン	薬剤が乾けば影響なし
コサイド3000	1日	ロブラルくん煙剤	1日	フェニックス顆粒水和剤	1日
ザンプロDMフロアブル	翌日導入可能	ロブラル水和剤	1日	フェニックスジェット	1日
サンヨール	薬剤が乾けば影響なし	殺虫剤		ブリロン粒剤	1日
ジーファイン水和剤	薬剤が乾けば影響なし			プレオフロアブル	1日
シグナムWDG	翌日導入可能	農薬名	影響日数	プレバリンフロアブル5	1日
ジマンダイセン水和剤	薬剤が乾けば影響なし	アカリタッチ乳剤	薬剤が乾けば影響なし	ベストガード水溶剤	10日以上
ジャストミート顆粒水和剤	1日	アクセルフロアブル	8日	ベストガード粒剤	30日以上
ショウチノスケフロアブル	1日	アクタラ粒剤5	21日	ベミデタッチ	薬剤が乾けば影響なし
スクレアフロアブル	1日	アクタラ顆粒水溶剤	42日	ベネピアOD	1日
スコア顆粒水和剤	データ無	アグリメック	7日	ベリマークSC	1日
スミブレンド水和剤	1日	アタブロン乳剤	4日	マイトコーネフロアブル	1日
スミレックス水和剤	1日	アドマイヤー水和剤	30日以上 注1)	マッチ乳剤	1日
セイビアーフロアブル20	薬剤が乾けば影響なし	アドマイヤーフロアブル	30日以上 注1)	マトリックスフロアブル	1日(風乾後影響なし)
Zボルドー	影響なし	アドマイヤー1粒剤	45日	ミネトデオ粒剤	14〜21日
ゾーベックエニベル	影響なし	アニキ乳剤	1日	ムシラップ	薬剤が乾けば影響なし
ゾーベックエンテクタ	翌日導入可能	アフアーム乳剤	2日	モスピラン顆粒水溶剤	1〜3日
ダイアメリットDF	1日	アブロード水和剤	1日	モスピランジェット	1日
ダイナモ顆粒水和剤	薬剤が乾けば影響なし	アブロードエースフロアブル	1日	モスピラン粒剤	1日
ダイマジン	薬剤が乾けば影響なし	アペイル粒剤	1日	モベントフロアブル	散布30日 灌注45日
ダコニールジェット	1日	アルバリン顆粒水溶剤	14日	モレスタン水和剤	5日
ダコニール1000	1日	アルバリン粒剤	10日	ラノーテープ	併用可能
タフパール	薬剤が乾けば影響なし	ウララDF	薬剤が乾けば影響なし	ヨーバルフロアブル	1日(灌注) 14日(散布)
テーク水和剤	データ無	エコビタ液剤	薬剤が乾けば影響なし		
デュアルサイド水和剤	薬剤が乾けば影響なし	エコマスターBT	薬剤が乾けば影響なし		
ドイツボルドーA	薬剤が乾けば影響なし	エスマルクDF	影響なし		
ドーシャスフロアブル	薬剤が乾けば影響なし	オレート液剤	薬剤が乾けば影響なし		
トップジンM水和剤	薬剤が乾けば影響なし	ガードベイトA	データ無		
トリフミンジェット	1日	ガードホープ液剤	14日		
トリフミン水和剤	1日	カウンター乳剤	1日		
トリフミン乳剤	1日	カスケード乳剤	2日		
ニマイパー水和剤	薬剤が乾けば影響なし	ガスタード微粒剤	21日		
ネクスターフロアブル	1日	カルホス粉剤	14日		
バイオキパー水和剤	薬剤が乾けば影響なし	クリアザールフロアブル	1日		
パチスター水和剤	影響なし	グレイシア乳剤	1日		
パンチョTF顆粒水和剤	薬剤が乾けば影響なし	コテツフロアブル	9日		
パンチョTFジェット	1日	コルト顆粒水和剤	3日〜7日		
ファンタジスタ顆粒水和剤	薬剤が乾けば影響なし	コロマイト乳剤	1日		
ファンベル顆粒水和剤	薬剤が乾けば影響なし	サフオイル乳剤	影響なし		
フェスティバルC水和剤	薬剤が乾けば影響なし	サブリーナフロアブル	データ無		
フェスティバルM水和剤	薬剤が乾けば影響なし	サンクリスタル乳剤	薬剤が乾けば影響なし		
フォルオゴールド	データ無	ジャックポット顆粒水和剤	1日		
ブリザード水和剤	データ無	スタークル顆粒水溶剤	14日		
フルピカフロアブル	薬剤が乾けば影響なし	スタークル粒剤	10日		
プロポーズ顆粒水和剤	1日	スピノエース顆粒水和剤	3日(5000倍) 8日(2500倍)		
ベジセイバー	1日	スラゴ	影響なし		
ベトファイター顆粒水和剤	薬剤が乾けば影響なし	ゼンタリ顆粒水和剤	1日		
ベネセト水和剤	1日	ダイアメリットDF	薬剤が乾けば影響なし		
ベルコート水和剤	薬剤が乾けば影響なし (3000〜6000倍)	ダントロンフロアブル	1日		
ベルコートフロアブル	薬剤が乾けば影響なし (2000倍)	ダブルシューターSE	3日		
バレード20フロアブル	薬剤が乾けば影響なし	ダントツ粒剤	21日(2g/定植時)		
ピクシオDF	影響なし	ダントツ水溶剤	15日		
ペンコゼブ水和剤	薬剤が乾けば影響なし	チューレックス顆粒水和剤	1日		
ペンコゼブフロアブル	薬剤が乾けば影響なし	チューンアップ顆粒水和剤	薬剤が乾けば影響なし		

※ 影響日数の「-」は不明、「データ無」は判定に値するデータが無い、「影響なし」は虫体へ直接散布しても影響が無い、若しくは土壌処理10日後放飼しても影響が無い。

※※ 病害虫防除法(トマト)掲載農薬を記載。
注1) マルハナバチ導入栽培では使用しない。

(注意)
影響がある農薬は、その期間以上巣箱を施設の外に出す。影響がない農薬も、散布の際、蜂を巣箱に回収、薬液が乾いてから活動させる。
注意点としては、
・影響の長い農薬、臭いのある農薬は使用しない。
・曇天、雨の続く場合は、導入を1〜2日延長。
・農薬散布前夜に蜂の出入口を閉め、巣箱をハウス外に出し、翌日散布。十分な日数をおき、巣箱を導入。
・元の位置に設置できるよう巣箱に番号をふる。
・再設置まで2〜3日以内が望ましい。
・巣箱移動後、3日以上花粉がとれない場合、花粉を与える。別温室で使用するか、他人に貸す方法も考慮。(幼虫は2日花粉を食べないと死ぬ)。

在来種マルハナバチのクロマルハナバチは、影響日数が異なる。

6 ミツバチへの農薬の影響一覧表(いちご、なす、メロン)

殺菌剤		殺菌剤		殺虫剤	
農薬名	影響日数	農薬名	影響日数	農薬名	影響日数
ICボルドー66D	乾けば影響なし	バルコートフロアブル	1日	ダニオーテフロアブル	影響なし
アグロケア水和剤	影響なし	バルコート水和剤	1日	ダニコングフロアブル	1日
アフエットフロアブル	乾けば影響なし	バルミノフロアブル	5日	ダニサラバフロアブル	1日
アミスターオブティフロアブル	乾けば影響なし	バレード20フロアブル	乾けば影響なし	ダニトロンフロアブル	1日
アリエッティ水和剤	1日(メロン)	ベンレート水和剤	1日	ダブルシューターSE	2日
アントラコール顆粒水和剤	1日(いちご)	ベンコゼブ水和剤	1日	ダブルフェースフロアブル	1日
硫黄粒剤	影響なし	ベンコゼブフロアブル	1日	ダントツ水溶剤	25日
インプレッションクリア	乾けば影響なし	ボトキラー水和剤	影響なし	ダントツ粒剤	45日(2g/定植時)
エコショット	1日	ホライズンドライフロアブル	1日	チューレックス顆粒水和剤	-
オーソサイド水和剤80	1日	ポリオキシシAL水溶剤	1日	チューンアップ顆粒水和剤	乾けば影響なし
オラクル顆粒水和剤	1日	ポリオキシシAL乳剤	5日	チェス顆粒水和剤	乾けば影響なし
オルフィンフロアブル	1日	ボルドー	1日	ディアナSC	3日
カーゼートPZ水和剤	1日	マスタピース水和剤	影響なし	デルフィン顆粒水和剤	乾けば影響なし
カスミンボルドー	乾けば影響なし	ミギワ10フロアブル	薬剤が乾けば影響なし	デュアルサイド水和剤	乾けば影響なし
カッパーシン水和剤	乾けば影響なし	ミニタンWG	データ無	トアロー水和剤CT	乾けば影響なし
カリグリーン	乾けば影響なし	モレスタン水和剤	3日(3000倍)	トアローフロアブルCT	乾けば影響なし
カンタスドライフロアブル	影響なし	ライメイフロアブル	1日	トランスフォームフロアブル	10日
カンパネラ水和剤	1日	ラミック顆粒水和剤	乾けば影響なし	トリガード液剤	データ無
キノドール水和剤40	1日	ラリー水和剤	影響なし	トルネードエースDF	1日
キノドールフロアブル	1日	ラリー乳剤	影響なし	粘着くん液剤	乾けば影響なし
クリーンカップ	1日	ランマンフロアブル	乾けば影響なし	ノーモルト乳剤	1日
ゲッター水和剤	乾けば影響なし	リゾレックス水和剤	1日	バシレックス水和剤	乾けば影響なし
ケミヘル	1日	リドミルゴールドMZ	データ無	ハチハチフロアブル	5日
ケンジャフロアブル	影響なし	レーバスフロアブル	1日	バリアード顆粒水和剤	1日
コサイド3000	乾けば影響なし	ロブラールくん煙剤	1日	バルミノ	5日
サブロール乳剤	1日	ロブラール水和剤	1日	パロックフロアブル	1日
サンヨール	乾けば影響なし			ピラニカEW	1日
サンリット水和剤	-	殺虫剤		ファインセーフフロアブル	1日
ジーファイン水和剤	乾けば影響なし	農薬名	影響日数	ファイントリムDF	1日
シーマージェット	2日	アーデント水和剤	2日(いちご、メロン)	ファルコンフロアブル	1日
シグナムWDG	翌日導入可能	アカリタッチ乳剤	乾けば影響なし	プリロソソ粒剤	1日
ジマンダイセン水和剤	影響なし	アクセルフロアブル	1日	フーモン	乾けば影響なし
ジマンダイセンフロアブル	影響なし	アクタラ粒剤5	30日	フェニックス顆粒水和剤	1日
ジャストミート顆粒水和剤	1日(なす、いちご)	アクタラ顆粒水溶剤	42日	フェニックスジェット	1日
ショウチノスケフロアブル	乾けば影響なし	アグリメック	14日	フォース粒剤	21日
スコア顆粒水和剤	データ無	アタブロン乳剤	1日	プレオフロアブル	影響なし
スクレアフロアブル	1日	アドマイヤー1粒剤	30日(いちご、メロン)	プレバソフロアブル5	1日
ストロビーフロアブル	乾けば影響なし	アドマイヤー水和剤	21日以上(メロン)	フロバクDF	影響なし
スミブレンド水和剤	1日	アドマイヤーフロアブル	21日以上(メロン)	ベストガード水溶剤	6日
スミレックス水和剤	1日	アニキ乳剤	1日	ベストガード粒剤	45日
セイビアーフロアブル20	1日	アフーム乳剤	2日	ベネビアOD	1日
Zボルドー	データ無	アフームエクセラ顆粒水和剤	データ無	バリマークSC	1日
ダイアメリットDF	データ無	アブロードエースフロアブル	1日	マイトコーネフロアブル	1日
ダイヤモンド水和剤	乾けば影響なし	アベイル粒剤	1日	マッチ乳剤	1日
ダコニール1000	1日	アルバリン粒剤	21~40日	マトリックフロアブル	1日(風乾後影響なし)
ダコニールジェット	1日	アルバリン顆粒水溶剤	14日	マブリックジェット	3日
タフバー	乾けば影響なし	ウララDF	乾けば影響なし	マブリック水和剤20	1日
テーク水和剤	データ無	エコビタ液剤	乾けば影響なし	マラソン乳剤	10日
デランフロアブル	影響なし	エコマスターBT	乾けば影響なし	ミネクトデュオ粒剤	定植後20~30日
デュアルサイド水和剤	乾けば影響なし	エスマルクDF	影響なし	ムシラップ	乾けば影響なし
ドイツボルドーA	乾けば影響なし	オレート液剤	乾けば影響なし	モスピランジェット	1日
ドージャスフロアブル	影響なし(メロン)	ガードベイトA	データ無	モスピラン顆粒水溶剤	1日
ドクリンフロアブル	1日	ガードホープ液剤	データ無	モスピラン粒剤	1日
トップジンM水和剤	乾けば影響なし	カスケード乳剤	1日	モベントフロアブル	1日(灌漑、散布)
トリフミンジェット	1日	カネマイトフロアブル	乾けば影響なし	ランダイヤ粒剤	29日
トリフミン水和剤	乾けば影響なし	カルホス乳剤	使用は避ける	ロムダンフロアブル	乾けば影響なし
トリフミン乳剤	乾けば影響なし	カルホス微粒剤F	使用は避ける	ヨーバルフロアブル	1日(灌漑)
ニマイバー水和剤	影響なし	カルホス粉剤	使用は避ける		14日(散布)
ネクスターフロアブル	1日	グレースIA乳剤	1日		
ハーモメイト水溶剤	乾けば影響なし	コテツフロアブル	10日		
バイオキパー水和剤	影響なし	コルト顆粒水和剤	使用は避ける		
バチスター水和剤	影響なし	コロマイト水和剤	1日		
パンチョTF顆粒水和剤	乾けば影響なし	コロマイト乳剤	1日		
パンチョTFジェット	1日	サイアノックス乳剤	使用は避ける		
ピクシオDF	影響なし	サフオイル乳剤	乾けば影響なし		
ピシロックフロアブル	乾けば影響なし	サブリナフロアブル	1日		
ファンタジスタ顆粒水和剤	翌日導入可	サンクリスタル乳剤	乾けば影響なし		
ファンバル顆粒水和剤	1日	サンマイトフロアブル	4日		
フェスティバルC水和剤	1日	ジャックポット顆粒水和剤	1日		
フォリオゴールド	乾けば影響なし	シーマージェット	2日		
ブリザード水和剤	データ無	スタークル粒剤	21~40日		
フルビカくん煙剤	1日	スタークル顆粒水溶剤	14日		
フルビカフロアブル	乾けば影響なし	スターマイトフロアブル	1日		
プロバティフロアブル	影響なし	スピノエース顆粒水和剤	2日(5000倍)		
プロポーズ顆粒水和剤	1日		7日(2500倍)		
ベジセイバー	1日	ゼンターリ顆粒水和剤	使用は避ける		
ベトファイター顆粒水和剤	乾けば影響なし	ダイアジノン粒剤3	データ無		
ベネセット水和剤	1日	ダイアジノン粒剤5	28日		

※影響日数の「-」は不明、「データ無」は判定に値するデータが無い、「影響なし」は虫体へ直接散布しても影響が無い。

※※ 病害虫防除法(いちご、なす、メロン)に掲載農薬を記載。

(注意)
○ミツバチは、他の昆虫(害虫)に比べ、特に殺虫剤に感受性が高く、訪花採蜜時の農薬接触で死亡、行動かく乱が起こりやすいため、薬剤は、ミツバチへの影響が少ないものを使用。
○ミツバチは、薬剤の臭いに敏感であるため、影響の少ない剤であっても散布時は巣箱は外に出す。
○薬剤の影響は、ミツバチの種類、ハウスの温度、換気等の影響により異なる場合がある。

7 BT剤の登録薬剤一覧

(本文に記載のある作物への適用) 使用にあたっては、BT剤の使用上の注意事項(防除指針(本冊)P15)を参照のこと。

作物名	適用病害虫名	農薬名	希釈倍数 使用量	使用時期	本剤の総 使用回数	備考
水稻	コメノメイガ、イネトムシ、フタホシコメカ	チューンアップ顆粒水和剤	2,000~4,000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	-	
	コメイチュウ		1,000~2,000倍			
野菜類	コメノメイガ、イネトムシ、フタホシコメカ、コメイチュウ	エスマルクDF	500~1,000倍			
	アオムシ、コナカ	エスマルクDF	1,000~2,000倍			
	オタバコカ、ヨトウムシ		1,000倍			
	ヨトウムシ	チューンアップ顆粒水和剤	2,000倍			
	アオムシ、コナカ、オタバコカ、ハマダラメイガ		2,000~3,000倍			
	ウリノメイガ		3,000倍			
	アオムシ、ウリノメイガ、オタバコカ、コナカ、シロイモシヨトリ、ハセンヨトリ	デルフィン顆粒水和剤	1,000倍			
	アオムシ、コナカ	トアローフロアブルCT	1,000~2,000倍			
	オタバコカ		500~1,000倍			
	アオムシ、コナカ	バシレックス水和剤	1,000~2,000倍			
	タナキノウリハ		1,000倍			
	ハセンヨトリ、ヨトウムシ		500倍			
	シロイモシヨトリ	フローバックDF	1,000~2,000倍			
	アオムシ、コナカ	フローバックDF エコマスターBT	1,000~2,000倍			
	オタバコカ、ハセンヨトリ、ヨトウムシ	フローバックDF エコマスターBT	1,000倍			
	オタバコカ、ハセンヨトリ	クオークフロアブル	400倍			
	アオムシ、コナカ、ヨトウムシ		400~800倍			
野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)	アオムシ、コナカ	トアロー水和剤CT	1,000~2,000倍			
	ヨトウムシ		500~1,000倍			
野菜類(はくさい、キャベツを除く)	ヨトウムシ、コナカ、アオムシ	ゼンターリ顆粒水和剤	1,000~2,000倍			
	オタバコカ、シロイモシヨトリ、ハセンヨトリ		1,000倍			
野菜類(はくさいを除く)	コナカ、アオムシ、オタバコカ、シロイモシヨトリ	ジャックポット顆粒水和剤	1,000倍			
	コナカ、アオムシ、オタバコカ	チューレックス顆粒水和剤	1,000倍			
野菜類(はくさい、えごま(葉)を除く)	オタバコカ	サブリーナフロアブル	500倍			
	ハセンヨトリ		500~750倍			
	アオムシ、ヨトウムシ		1,000倍			
	コナカ		1,000~1,500倍			
	アオムシ、コナカ		1,000~2,000倍			
あぶらな科野菜	アオムシ、コナカ	チューリサイド水和剤	1,000~2,000倍	発生初期 但し、収穫7日前まで		
	タナキノウリハ		1,000倍			
	ヨトウムシ		500倍			
うり科野菜類	ウリノメイガ	ゼンターリ顆粒水和剤	1,000倍	発生初期 但し、収穫前日まで		
豆類(種実)	ハセンヨトリ	ゼンターリ顆粒水和剤	1,000倍			
	オタバコカ	サブリーナフロアブル	500倍			
	ハセンヨトリ		500~750倍			
	ヨトウムシ		1,000倍			
	ハセンヨトリ	エコマスターBT	1,000倍			
	ハセンヨトリ	フローバックDF	1,000倍			
	オタバコカ、シロイモシヨトリ、ハセンヨトリ	デルフィン顆粒水和剤	1,000倍			
	コナカ、アオムシ、オタバコカ、ハマダラメイガ	チューンアップ顆粒水和剤	2,000~3,000倍			
	ヨトウムシ		2,000倍			
	ウリノメイガ		3,000倍			
いも類	ハセンヨトリ	ゼンターリ顆粒水和剤	1,000倍			
	オタバコカ	サブリーナフロアブル	500倍			
	ハセンヨトリ		500~750倍			
	ヨトウムシ		1,000倍			
	ハセンヨトリ	フローバックDF エコマスターBT	1,000倍			
	コナカ、アオムシ、オタバコカ、ハマダラメイガ	チューンアップ顆粒水和剤	2,000~3,000倍			
ヨトウムシ		2,000倍				
ウリノメイガ		3,000倍				
きゅうり	ウリノメイガ	チューレックス顆粒水和剤	1,000倍			
		ジャックポット顆粒水和剤 クオークフロアブル	400倍			
キャベツ	ハマダラメイガ、袴アザミマ	エスマルクDF	1,000倍			
	ハマダラメイガ	フローバックDF エコマスターBT	1,000倍			
	ヨトウムシ、ハセンヨトリ	チューレックス顆粒水和剤	1,000倍			
	アオムシ、コナカ、ヨトウムシ	ジャックポット顆粒水和剤	1,000倍			
	オタバコカ、シロイモシヨトリ、袴アザミマ、ハセンヨトリ	ゼンターリ顆粒水和剤	1,000~2,000倍			
ブロッコリー	ハマダラメイガ	フローバックDF エコマスターBT	1,000倍			
		エスマルクDF フローバックDF エコマスターBT	1,000倍			
だいこん	ハマダラメイガ	エスマルクDF	1,000倍			
		フローバックDF エコマスターBT	1,000倍			

作物名	適用病害虫名	農薬名	希釈倍数 使用量	使用時期	本剤の総 使用回数	備考						
はくさい	アオムシ、ヨトウムシ、コガ	ゼンターリ顆粒水和剤	2,000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	-							
	アオムシ、ヨトウムシ	サブリーナフロアブル	1,000倍									
	コガ		1,000~1,500倍									
	ハマダラメイト	フローバックDF エコマスターBT	1,000倍	発生初期 但し、結球開始期まで								
	コガ、アオムシ、オオタバコガ、シロイ チモンヨトウ	ジャックポット顆粒水和剤	1,000倍									
	コガ、アオムシ、オオタバコガ	チューレックス顆粒水和剤	1,000倍									
かぶ	ハマダラメイト	エスマルクDF	1,000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	-							
ねぎ	シロイチモンヨトウ	エコマスターBT	1,000倍									
実えんどう	ウリメイト	ゼンターリ顆粒水和剤	1,000倍									
さやえんどう	ウリメイト	ゼンターリ顆粒水和剤	1,000倍	発生初期 但し、収穫前日まで			-					
えんどうまめ	ウリメイト	ゼンターリ顆粒水和剤	1,000倍									
いも類（やまの いもを除く）	ハセシヨトウ、オオタバコガ	デルフィン顆粒水和剤	1,000倍									
やまのいも	シロイチモンヨトウ、オオタバコガ、ハセ シヨトウ	デルフィン顆粒水和剤	1,000倍									
とうもろこし	オオタバコガ	デルフィン顆粒水和剤 ゼンターリ顆粒水和剤	1,000倍									
	ツマジロクサヨトウ	ジャックポット顆粒水和剤	500~1,000倍									
雑穀類	アワメイト	エスマルクDF	2,000倍		発生初期 但し、収穫前日まで	-						
雑穀類（そばを 除く）	アワメイト	フローバックDF エコマスターBT	2,000倍									
雑穀類（ひえを 除く）	アワメイト	トアロー水和剤CT サブリーナフロアブル	1,000倍									
しょうが	アワメイト	エスマルクDF	2,000倍									
チンゲンサイ	ハマダラメイト	フローバックDF エコマスターBT	1,000倍									
果樹類	ケムシ類	デルフィン顆粒水和剤 ファイブスター顆粒水和剤	1,000倍									
	ハマキムシ類	デルフィン顆粒水和剤 ファイブスター顆粒水和剤	2,000倍									
		チューンアップ顆粒水和剤	4,000倍									
		ゼンターリ顆粒水和剤	1,000倍									
		クオークフロアブル	400倍									
果樹類（りんご を除く）	ケムシ類	エスマルクDF	2,000倍									
	シャクトリムシ類	バイオマックスDF	2,000倍									
	ケムシ類	フローバックDF	2,000倍									
	ハマキムシ類	エスマルクDF	2,000~3,000倍									
		バイオマックスDF	500~1,000倍									
かんきつ	アゲハ	デルフィン顆粒水和剤	2,000倍	発生初期 但し、収穫7日前まで	-							
		ファイブスター顆粒水和剤	2,000~4,000倍									
		チューンアップ顆粒水和剤	2,000~4,000倍									
かき	イガ類 カキノタムシガ	バシレックス水和剤	1,000倍	発生初期 但し、収穫7日前まで			-					
		チューンアップ水和剤										
かき（葉）	ハマキムシ類	エスマルクDF	2,000~3,000倍	発生初期 但し、収穫前日まで					-			
なし	ケムシ類	デルフィン顆粒水和剤 ファイブスター顆粒水和剤	1,000~2,000倍									
日本なし	ハマキムシ類	チューレックス顆粒水和剤 ジャックポット顆粒水和剤	1,000倍	発生初期 但し、収穫前日まで							-	
ブルーベリー	イガ類	デルフィン顆粒水和剤	1,000倍									

8 微生物農薬(殺菌剤)の使用法(詳しい使用方法等は農薬メーカーホームページ等を参照する)

微生物農薬(殺菌剤)は、化学合成農薬と異なり、次のような長所・短所がある。このため、使用方法によっては効果に“ふれ”を生じるので注意が必要である。

【長所】

- ①作用範囲(抗菌スペクトラム)が限られるので、有用生物や環境生物に影響が少ない。
- ②病原菌に対する抵抗性が発達しにくい。
- ③既に化学合成農薬に発生した耐性菌に対しても有効である。

【短所】

- ①一般に効果の発現は緩慢であり、処理適期の幅が狭い。このため、適期を外すと効果が現れにくい。
- ②散布から効果が現れるまでに日数を要する。
- ③防除効果が栽培環境(気象条件:温度・湿度等、圃場条件等)に影響されやすい。

I 水稻関係

(1) エコホープ、エコホープDJ(トリコデルマ アトロビリデ水和剤)

本剤は、有効成分である非病原性糸状菌トリコデルマ アトロビリデがイネ種子表面で増殖し、ばか苗病菌などの糸状菌やもみ枯細菌病菌などの細菌より先に栄養分を摂取することにより、病原菌の増殖を抑制する(栄養物摂取競合)。また、ばか苗病菌などの糸状菌に対する溶菌作用も確認されている。

(登録内容)

①エコホープ

作物名	適用病害	希釈倍数	使用時期	使用方法	使用回数
稲 (箱育苗)	ばか苗病	50倍	播種時覆土前	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当たり100mlを散布	—
	もみ枯細菌病	200倍		育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当たり500mlを散布	
稲	ばか苗病、もみ枯細菌病 苗立枯細菌病、いもち病 苗立枯病(リゾーパス菌) ごま葉枯病	200倍	浸種前～催芽前	24～48時間種子浸漬	
			催芽時	24時間種子浸漬	

②エコホープDJ

作物名	適用病害	希釈倍数	使用時期	使用方法	使用回数
稲	ばか苗病、もみ枯細菌病 苗立枯細菌病、褐条病	200倍	浸種前～催芽前	24～48時間種子浸漬	—
			催芽時		
	いもち病 苗立枯病(リゾーパス菌)		浸種前～催芽時	24時間種子浸漬	

注) エコホープDJはアスパラガスの紫紋羽病にも適用登録がある。

(使用上の注意等)

- ①有効成分は生菌であるため、入手後できるだけ早く使用し、開封後は全て使い切る。
- ②使用前に容器をよく振って使用する(エコホープ)。
- ③種子消毒後は、風乾せず、直ちに浸種あるいは催芽を行う。
- ④種子消毒時の水温は、10℃以下、30℃以上を避ける。
- ⑤ベノミル剤、チオファネートメチル剤およびE B I 剤を含む薬剤との混用または播種時処理との体系処理は、効果が低下するので避ける。
- ⑥きのこ等の菌類の作物に対して影響を及ぼすおそれがあるので、きのこ等に絶対にかからないようにする。
- ⑦使用した溶液は繰り返し使用しない。
- ⑧汚染度の高い種子では効果が劣ることがあるので、健全種子の使用や塩水選等の基本的な作業は必ず実施する。
- ⑨有効期限内に使用する(エコホープ: 8ヶ月、エコホープDJ: 6ヶ月)。
- ⑩その他、薬剤袋や包装等にある使用上の注意を遵守する。

(2) タフブロック、タフブロックSP、タフエイド(タラロマイセス フラバス水和剤)

本剤は、病原菌に拮抗特性のあるタラロマイセス フラバス（糸状菌）が種もみ表面に付着・増殖することにより、病原菌の増殖や侵入を防ぎ、糸状菌病や細菌病に対し予防効果を示す。

(登録内容)

①タフブロック

作物名	適用病害	希釈倍数 使用量	使用時期	使用方法	使用回数
稲	褐条病	200倍	催芽時	24時間種子浸漬	—
	ばか苗病、いもち病、苗立枯細菌病、もみ枯細菌病、苗立枯病(フザリウム菌) 苗立枯病(リゾーブス菌) 苗立枯病(トリコデルマ菌)		催芽前	24～48時間種子浸漬	
	ばか苗病、いもち病、苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	種子重量 の2～4%	浸種前	湿粉衣	
		20倍	浸種前～催芽前	1時間種子浸漬	
稲	苗立枯病(フザリウム菌) 苗立枯病(リゾーブス菌) 苗立枯病(トリコデルマ菌)	種子重量 の4%	浸種前	湿粉衣	—
		20倍		1時間種子浸漬	
稲 (箱育苗)	苗立枯病(リゾーブス菌)	200倍	播種時覆土前	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り希釈液200mlを土壌灌注する。	—

②タフブロックSP

作物名	適用病害	希釈倍数	使用量(液量)	使用時期	使用方法	使用回数
稲	ばか苗病、いもち病、苗立枯細菌病、 もみ枯細菌病、 苗立枯病(フザリウム菌) 苗立枯病(リゾーブス菌) 苗立枯病(トリコデルマ菌)	50倍	—	浸種前	10～60分間種子浸漬	—
		7.5倍	乾燥種粒 1kg当り30ml		種子吹き付け処理(種子消毒機使用)または種子塗沫処理	
		4倍	乾燥種粒 1kg当り20ml			

③タフエイド

作物名	適用病害	希釈倍数 使用量	使用時期	使用方法	使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯細菌病、もみ枯細菌病、 苗立枯病(フザリウム菌) 苗立枯病(リゾーブス菌) 苗立枯病(トリコデルマ菌) 苗立枯病(ヒシウム菌)	500倍	播種時	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り希釈液500mlを土壌灌注する。	—
	苗立枯細菌病、もみ枯細菌病、 苗立枯病(フザリウム菌) 苗立枯病(リゾーブス菌) 苗立枯病(トリコデルマ菌) 苗立枯病(ヒシウム菌)	1000倍		育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り希釈液1000mlを土壌灌注する。	

(使用上の注意等)

- ①本剤の有効成分は生菌であるので、開封後は全て使い切る。
- ②ベノミル剤、チオファネートメチル剤、TPN剤及びEBI剤（プロクロラズを除く）を含む薬剤との混用または播種時処理との体系処理は効果が低下するので避ける（シンガレセンチュウ剤との併用は問題ない）。
- ③いもち病防除用の箱処理では、ストロビリリン系薬剤の播種時処理は効果を低下させるので避ける。
- ④温湯消毒した種もみでも使用可能（併用することで効果が高くなる）
- ⑤汚染度の高い種子では効果が劣ることがあるので、健全種子の使用や塩水選等の基本的な作業は必ず実施する。
- ⑥ムレ苗には効果が低いので化学農薬を併用するか、適正な育苗管理を行う。
- ⑦その他、薬剤袋や包装等にある使用上の注意を遵守する。

(3) ボトキラー水和剤(バチルス ズブチリス水和剤)

本剤の作用機作は、植物体表面での植物病原菌との棲息場所及び栄養物の奪い合いから生じるため、予防効果が主体となる。

(登録内容)

作物名	適用病害	希釈倍数	使用量(液量)	使用時期	使用方法	使用回数
稲	いもち病	1,000倍	200～300L/10a	穂ばらみ期～刈取前	散布	—

(使用上の注意等)

- ①有効成分は生菌であるので、散布液調製後はできるだけ速やかに散布する。開封後は密封保管し、できるだけ早く使い切る。
- ②他剤と混用すると十分に効果が発揮されない場合があるので注意する。
- ③穂ばらみ期に散布した後、7～10日間隔で計2回以上散布することが望ましい。
- ④夏期高温時の使用は避ける。
- ⑤その他、薬剤袋や包装等にある使用上の注意を遵守する。

II 野菜関係

(1) ボトキラー水和剤(バチルス ズブチリス水和剤)

本剤の作用機作は、有効成分であるバチルス ズブチリス（細菌）と病原菌との植物体表面での棲息場所及び栄養物の奪い合いから生じる。このため、灰色かび病菌に直接的に作用し死滅させる治療効果はなく、予防効果が主体となる。

(登録内容)

作物名	適用病害	希釈倍数	使用量(液量)	使用時期	使用方法	使用回数
野菜類	灰色かび病	1,000倍	150～300L/10a	発病前～発病初期	散布	—
		—	10～15g/10a/日		ダクト内投入	
		300g/10a	6～10L/10a		常温煙霧	
	うどんこ病	1,000倍	150～300L/10a		散布	
		—	15g/10a/日		ダクト内投入	

(使用上の注意等)

- ①有効成分は生菌であるので、散布液調整後はできるだけ速やかに散布する。また、開封後は密封して保管し、できるだけ早く使い切る。
- ②保護作用が強く予防効果が主体であるので発病前～発病初期に7～10日間隔で散布する。
- ③低温条件では効果が出にくいので、10℃以上が確保できる施設内で使用する。
- ④葉及び果実に汚れが生じるおそれがあるので、収穫時の散布に気をつける。
- ⑤他剤と混用すると十分に効果が発揮されない場合があるので注意する。
- ⑥夏期高温時の使用は避ける。
- ⑦発生を十分抑制できない環境条件では、化学農薬との併用（ローテーション使用）が必要である。
- ⑧施設内では通常気温が低下し湿度が上昇する時間帯（夕方等）に散布すると効果的である。
- ⑨ダクト内に投入する場合は、1ヶ月当り300～450g/10aになるよう、暖房機などのダクト取り付け口付近からダクト内に投入する。また、暖房機などが数時間以上運転される条件下で使用する。
- ⑩その他、薬剤袋や包装等にある使用上の注意を遵守する。

(2) エコショット(バチルス ズブチリス水和剤)

本剤の作用機作は、ボトキラー水和剤と基本的に同じであるが、バチルス ズブチリスの菌株が異なる。

(登録内容)

作物名	適用病害	希釈倍数	使用量(液量)	使用時期	使用方法	使用回数
野菜類	灰色かび病	1,000～	100～300L/10a	収穫前日まで	散布	—
トマト、ミニトマト	葉かび病	2,000倍				
セリ、パセリ、しそ	斑点病	2,000倍				
にら	白斑葉枯病					

(使用上の注意等)

- ①有効成分は生菌であるので、散布液調整後はできるだけ速やかに散布する。開封後はできるだけ早く使い切る。
- ②予防効果が主体であるので、発病前～発病初期に7～10日間隔で散布する。また、化学農薬との体系処理も有効である。
- ③低温条件では有効成分の活動が低下し効果が出にくいので、10℃以上が確保できる条件で使用する。
- ④混用により効果が劣る薬剤があるので注意する。
- ⑤すでに発病している場合は、治療効果のある化学農薬を散布した後、本剤との体系防除をする。
- ⑥その他、薬剤袋や包装等にある使用上の注意を遵守する。

(3) インプレッションクリア(バチルス アミロリクエフェシエンス水和剤)

本剤の作用機作は、ボトキラー水和剤と基本的に同じであるが、バチルス ズブチリスと類縁であるバチルス アミロリクエフェシエンスを使用している。

(登録内容)

作物名	適用病害	希釈倍数	使用量(液量)	使用時期	使用方法	使用回数
野菜類	灰色かび病 うどんこ病	1,000～2,000倍	100～300L/10a	発病前～ 発病初期まで	散布	—
なす	すすかび病					
にら、にら(花茎)	白斑葉枯病					
トマト、ミニトマト	葉かび病 すすかび病	1,000倍				
ししとう、ピーマン 甘長とうがらし	黒枯病					
しょうが、葉しょうが	白星病					
しそ	斑点病					

(使用上の注意等)

- ①有効成分は生菌であるので、散布液調整後はできるだけ速やかに散布する。開封後は密封保管し、できるだけ早く使い切る。
- ②本剤は吸湿すると固化したり、効果が低下したりすることがあるので、貯蔵に当たっては湿気に注意する。
- ③所定量を所定の水量に薄め、良くかき混ぜてから散布する。
- ④保護作用が強く予防効果が主体であるので、発病前～発病初期に7～10日間隔で散布する。
- ⑤低温下（約10℃以下）では、有効成分の活動が低下し効果が劣るので、低温が予想される場合には使用を避ける。
- ⑥他剤と混用すると十分に効果が発揮されない場合があるので注意する。

- ⑦夏期高温時の使用は避ける。
- ⑧その他、薬剤袋や包装等にある使用上の注意を遵守する。

(4) アグロケア水和剤(バチルス ズブチリス水和剤)

本剤の作用機作は、ボトキラー水和剤と基本的に同じであるが、バチルス ズブチリスの菌株が異なる。

(登録内容)

作物名	適用病害	希釈倍数	使用量(液量)	使用時期	使用方法	使用回数
野菜類	灰色かび病	1,000倍	10L/10a	収穫前日まで	常温煙霧	—
野菜類(トマト、ミニトマト、ピーマン、ほうれんそう、食用ゆり、セリ、なす、にら、パセリ、しそを除く)	灰色かび病 うどんこ病	1,000～ 2,000倍	100～300L/10a		散布	
トマト、ミニトマト、ピーマン、ほうれんそう、食用ゆり、セリ、なす、パセリ、しそ						
トマト、ミニトマト	葉かび病	2,000倍			散布	
にら	白斑葉枯病 うどんこ病					
セリ	斑点病					
ミニトマト						
パセリ、しそ						
ピーマン	黒枯病					
ほうれんそう	白斑病					
なす	すすかび病					
しょうが	白星病					

(使用上の注意等)

- ①有効成分は生菌であるので、散布液調整後はできるだけ速やかに散布する。開封後は密封保管し、できるだけ早く使い切る。
- ②保護作用が強く予防効果が主体なので、発病前～発病初期に7～10日間隔で散布する。
- ③低温下では効果が出にくいので、10℃以上が確保される条件で使用する。
- ④他剤と混用すると十分に効果が発揮されない場合があるので注意する。
- ⑤夏期高温時の使用は避ける。
- ⑥その他、薬剤袋や包装等にある使用上の注意を遵守する。

(5) バチスター水和剤(バチルス ズブチリス水和剤)

本剤の作用機作は、ボトキラー水和剤と基本的に同じであるが、バチルス ズブチリスの菌株が異なる。

(登録内容)

作物名	適用病害	希釈倍数	使用量(液量)	使用時期	使用方法	使用回数
野菜類(トマト、ミニトマトを除く)	うどんこ病 灰色かび病	1,000倍	100～300L/10a	発病前～ 発病初期	散布	—
トマト、ミニトマト	灰色かび病	—	15g/10a/日 450g/10a		ダクト内投入	
	葉かび病	1,000倍	100～300L/10a		散布	

(使用上の注意等)

- ①有効成分は生菌であるので散布液調整後はできるだけ速やかに散布する。開封後はできるだけ早く使い切る。
- ②散布液の調整は、本剤の所定量を少量の水に溶かし、次に所定量の水を加えよく攪拌する。
- ③保護作用が強く予防効果が主体なので、発病前～発病初期に7～10日間隔で散布する。
- ④低温下(約10℃以下)では、有効成分の活動が低下し効果が劣るので、低温が予想される場合には使用を避ける。
- ⑤果実に汚れが生じることがあるので、収穫期の散布には注意する。
- ⑥他剤と混用すると十分に効果が発揮されない場合があるので注意する。
- ⑦夏期高温時の使用は避ける。
- ⑧450g/10aで処理する場合は、散粉機やブロワー等風による処理で実施する。
- ⑨その他、薬剤袋や包装等にある使用上の注意を遵守する。

(6) クリーンカッブ、ケミヘル(水酸化第二銅、パチルス ズブチリス水和剤)

本剤の作用機作は、ボトキラー水和剤と基本的に同じであるが、菌株が異なるパチルス ズブチリスと銅剤の混合剤である。
(登録内容)

作物名	適用病害	希釈倍数	使用量(液量)	使用時期	使用方法	使用回数
野菜類	灰色かび病	1,000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	散布	—
	うどんこ病	1,000~ 2,000倍				
トマト、ミニトマト	葉かび病	1,000~ 2,000倍				
	疫病 すすかび病	1,000倍				
きゅうり	べと病 褐斑病	1,000倍				
	斑点細菌病	2,000倍				
にんじん	黒葉枯病	1,000倍				

(使用上の注意等)

- ①有効成分の1つは生菌であるので、散布液調整後はできるだけ速やかに散布する。開封後は密封して保管し、できるだけ早く使い切る。
- ②予防的効果が主体であるので、発病前~発病初期に7~10日間隔で散布する。
- ③低温条件では、有効成分の活動が低下し効果が出にくいので、10℃以上が確保できる条件で使用する。
- ④にんにくに使用する場合は、葉害を生じることがあるので、炭酸カルシウム水和剤を加用する。
- ⑤アスパラガスに使用する場合は、葉害を生じることがあるので、必ず炭酸カルシウム水和剤を加用する。
- ⑥きゅうり、はくさい、キャベツ、だいこんに対しては葉害を生じやすいので、次の事項に注意する。
 - ・幼苗期は特に葉害を生じやすいので、中期以降の散布とする。
 - ・高温時には症状が激しくなるので散布は避ける。
 - ・きゅうりの場合は、連続散布すると葉の周辺が黄化したり、硬化することがあるので過度の連用は避ける。
 - ・はくさい、キャベツ、だいこんに使用する場合は、葉害軽減のため炭酸カルシウム水和剤を加用する。なお、収穫間際には汚れを生じるので注意する。
- ⑦いんげんまめに使用する場合は、幼苗期および高温時の散布は葉害を生じることがあるので避ける。
- ⑧蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にかからないようにする。
- ⑨他剤との混用は効果が劣る場合があるので注意する。
- ⑩夏期高温時の使用は避ける。
- ⑪その他、薬剤袋や包装等にある使用上の注意を遵守する。

(7) ミニタンWG(コニオチリウム ミニタンス水和剤)

有効成分であるコニオチリウム ミニタンスは土壌生息の糸状菌であり、土壌中の菌核病菌の菌核にのみ寄生し、菌核を崩壊あるいは生育を阻害する。

(登録内容)

作物名	適用病害	使用量	使用量(液量)	使用時期	使用方法	使用回数
野菜類 (キャベツを除く)	菌核病	800g/10a	100L/10a	定植前	全面散布 土壌混和	—
キャベツ				すき込み時 ~定植前		
ねぎ	定植前					
にんにく	植付前					

(使用上の注意等)

- ①冷蔵(4℃)で保存する。
- ②希釈する場合は、所定量の水に少量ずつ入れて散布液を調製する。
- ③有効成分は生菌であるので、開封後は全量を使い切る。
- ④散布液を圃場に均一に散布し、土壌中に均等に分布するように混和する。
- ⑤殺菌剤、乳剤等の有機溶剤を含む化学農薬および酸性、アルカリ性を示す化学農薬との混用はしない。
- ⑥夏期高温時の使用は避ける。
- ⑦その他、薬剤袋や包装等にある使用上の注意を遵守する。

(8) マスタピース水和剤(シュードモナス ロデシア水和剤)

本剤の作用機作は、有効成分であるシュードモナス ロデシア（細菌）が、植物体上での病原性細菌との競合作用によると考えられる。本菌はバイオフィーム形成能力を有しており、この特性が病原性細菌との競合作用に効果的に作用していると考えられる。

(登録内容)

作物名	適用病害	希釈倍数	使用量(液量)	使用時期	使用方法	使用回数
いも類、野菜類(だいこん、はくさい、ブロッコリー、キャベツ、レタス、かぼちや、ズッキーニ、しょうが、トマト、ミニトマト、しょうがを除く)	軟腐病	1,000～2,000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	散布	—
しょうが	腐敗病					
だいこん はくさい	軟腐病 黒斑細菌病					
キャベツ	軟腐病 黒斑細菌病 黒腐病					
レタス	軟腐病 腐敗病					
ブロッコリー	軟腐病 黒斑細菌病 花蕾腐敗病					
かぼちや、ズッキーニ	軟腐細菌病					
トマト、ミニトマト	茎えそ細菌病 軟腐病					
しょうが	腐敗病					

(使用上の注意等)

- ①有効成分は生菌であるので、開封後は全て使い切る。
- ②使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- ③予防効果が主体なので、発病前から発病初期に7～10日間隔で散布する。
- ④散布量は対象作物の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせて調整する。
- ⑤夏期高温時の使用を避ける。
- ⑥その他、薬剤袋や包装等にある使用上の注意を遵守する。

III 果樹関係

(1) ボトキラー水和剤(バチルス ズブチリス水和剤)

本剤の作用機作は、有効成分であるバチルス ズブチリス（細菌）と病原菌との植物体表面での棲息場所及び栄養物の奪い合いから生じる。このため、灰色かび病菌に直接的に作用し死滅させる治療効果はなく、予防効果が主体となる。

(登録内容)

作物名	適用病害	希釈倍数	使用量(液量)	使用時期	使用方法	使用回数
かんきつ	灰色かび病	1,000倍	200～700L/10a	開花期～幼果期	散布	—
ぶどう		—	15g/10a/日	発病前～発病初期	ダクト内投入	
なし	黒星病	1,000倍	200～700L/10a		散布	

(使用上の注意等)

- ①有効成分は生菌であるので、散布液調整後はできるだけ速やかに散布する。また、開封後は密封して保管し、できるだけ早く使い切る。
- ②保護作用が強く予防効果が主体であるので発病前～発病初期に7～10日間隔で散布する。
- ③低温条件では効果が出にくいので、10℃以上が確保できる施設内で使用する。
- ④葉及び果実に汚れが生じるおそれがあるので、収穫時の散布に気をつける。
- ⑤他剤と混用すると十分に効果が発揮されない場合があるので注意する。
- ⑥夏期高温時の使用は避ける。
- ⑦発生を十分抑制できない環境条件では、化学農薬との併用（ローテーション使用）が必要である。
- ⑧施設内では通常気温が低下し湿度が上昇する時間帯（夕方等）に散布すると効果的である。
- ⑨ダクト内に投入する場合は、1ヶ月当り300～450g/10aになるよう、暖房機などのダクト取り付け口付近からダクト内に投入する。また、暖房機などが数時間以上運転される条件下で使用する。
- ⑩その他、薬剤袋や包装等にある使用上の注意を遵守する。

(2) エコショット(バチルス ズブチリス水和剤)

本剤の作用機作は、ボトキラー水和剤と基本的に同じであるが、バチルス ズブチリスの菌株が異なる。

(登録内容)

作物名	適用病害	希釈倍数	使用量(液量)	使用時期	使用方法	使用回数
かんきつ	灰色かび病	1,000～ 2,000倍	200～700L/10a	開花期～落弁期	散布	—
ブルーベリー		2,000倍				
ぶどう		1,000～ 2,000倍				
	うどんこ病	2,000倍				
なし	黒星病 黒斑病					
おうとう	灰星病	1,000倍				
あんず	かいよう病					
キイチフルーツ						

(使用上の注意等)

- ①有効成分は生菌であるので、散布液調整後はできるだけ速やかに散布する。開封後はできるだけ早く使い切る。
- ②予防効果が主体であるので、発病前～発病初期に7～10日間隔で散布する。また、化学農薬との体系処理も有効である。
- ③低温条件では有効成分の活動が低下し効果が出にくいので、10℃以上が確保できる条件で使用する。
- ④混用により効果が劣る薬剤があるので注意する。
- ⑤すでに発病している場合は、治療効果のある化学農薬を散布した後、本剤との体系防除をする。
- ⑥その他、薬剤袋や包装等にある使用上の注意を遵守する。

(3) インプレッションクリア(バチルス アミロリクエフェシエンス水和剤)

本剤の作用機作は、ボトキラー水和剤と基本的に同じであるが、バチルス ズブチリスと類縁であるバチルス アミロリクエフェシエンスを使用している。

(登録内容)

作物名	適用病害	希釈倍数	使用量(液量)	使用時期	使用方法	使用回数
もも 初刈り	灰星病	1,000～2,000倍	200～700L/10a	発病前～ 発病初期まで	散布	—
おうとう		1,000～2,000倍				

(使用上の注意等)

- ①有効成分は生菌であるので、散布液調整後はできるだけ速やかに散布する。開封後は密封保管し、できるだけ早く使い切る。
- ②本剤は吸湿すると固化したり、効果が低下したりすることがあるので、貯蔵に当たっては湿気に注意する。
- ③所定量を所定の水量に薄め、良くかき混ぜてから散布する。
- ④保護作用が強く予防効果が主体であるので、発病前～発病初期に7～10日間隔で散布する。
- ⑤低温下(約10℃以下)では、有効成分の活動が低下し効果が劣るので、低温が予想される場合には使用を避ける。
- ⑥他剤と混用すると十分に効果が発揮されない場合があるので注意する。
- ⑦おうとうに使用する場合は、着色期以降の散布は果実に汚れを生じることがあるので注意する。
- ⑧夏期高温時の使用は避ける。
- ⑨その他、薬剤袋や包装等にある使用上の注意を遵守する。

(4) アグロケア水和剤(バチルス ズブチリス水和剤)

本剤の作用機作は、ボトキラー水和剤と基本的に同じであるが、バチルス ズブチリスの菌株が異なる。

(登録内容)

作物名	適用病害	希釈倍数	使用量(液量)	使用時期	使用方法	使用回数
かんきつ	灰色かび病	1,000～ 2,000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	散布	—
なし	黒星病					
ブルーベリー	灰色かび病	2,000倍				

(使用上の注意等)

- ①有効成分は生菌であるので、散布液調整後はできるだけ速やかに散布する。開封後は密封保管し、できるだけ早く使い切る。
- ②保護作用が強く予防効果が主体なので、発病前～発病初期に7～10日間隔で散布する。
- ③低温下では効果が出にくいので、10℃以上が確保される条件で使用する。
- ④他剤と混用すると十分に効果が発揮されない場合があるので注意する。
- ⑤夏期高温時の使用は避ける。
- ⑥その他、薬剤袋や包装等にある使用上の注意を遵守する。

(5) パチスター水和剤(パチルス ズブチリス水和剤)

本剤の作用機作は、ボトキラー水和剤と基本的に同じであるが、パチルス ズブチリスの菌株が異なる。

(登録内容)

作物名	適用病害	希釈倍数	使用量(液量)	使用時期	使用方法	使用回数
かんきつ	灰色かび病	1,000倍	200~700L/10a	発病前~ 発病初期	散布	—
マンゴーチ						

(使用上の注意等)

- ①有効成分は生菌であるので散布液調整後はできるだけ速やかに散布する。開封後はできるだけ早く使い切る。
- ②散布液の調整は、本剤の所定量を少量の水に溶かし、次に所定量の水を加えよく攪拌する。
- ③保護作用が強く予防効果が主体なので、発病前~発病初期に7~10日間隔で散布する。
- ④低温下(約10℃以下)では、有効成分の活動が低下し効果が劣るので、低温が予想される場合には使用を避ける。
- ⑤果実に汚れが生じることがあるので、収穫期の散布には注意する。
- ⑥他剤と混用すると十分に効果が発揮されない場合があるので注意する。
- ⑦夏期高温時の使用は避ける。
- ⑧その他、薬剤袋や包装等にある使用上の注意を遵守する。

(6) マスタピース水和剤(シュードモナス ロデシア水和剤)

本剤の作用機作は、有効成分であるシュードモナス ロデシア(細菌)が、植物体上での病原性細菌との競合作用によると考えられる。本菌はバイオフィルム形成能力を有しており、この特性が病原性細菌との競合作用に効果的に作用していると考えられる。

(登録内容)

作物名	適用病害	希釈倍数	使用量(液量)	使用時期	使用方法	使用回数
かんきつ	かいよう病	1,000~4,000倍	200~700L/10a	収穫前日まで	散布	—
小粒核果類		1,000~2,000倍				
もも ネタリン	2,000倍					
マンゴーチ		枝枯細菌病 かいよう病				
キウイフルーツ	かいよう病					

(使用上の注意等)

- ①有効成分は生菌であるので、開封後は全て使い切る。
- ②使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- ③予防効果が主体なので、発病前から発病初期に7~10日間隔で散布する。
- ④散布量は対象作物の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせて調整する。
- ⑤夏期高温時の使用を避ける。
- ⑥その他、薬剤袋や包装等にある使用上の注意を遵守する。

9 ラノーテープの使用方法(注意事項)

有効成分ピリプロキシフェンを黄色のテープに付着させた製剤で、このテープを作物付近に直接設置して使用する非散布型のテープ状製剤。有効成分が蚕に極めて強い毒性を示すこと、また、使用方法が他の殺虫剤の散布とは大きく異なることから以下の点に留意して使用する。

(1) コナジラミ類の密度抑制機構

- ①有効成分ピリプロキシフェンは、幼若ホルモン様活性物質で、殺成虫効果は示さない。
- ②しかし、本成分がコナジラミ類の雌成虫の体内に取り込まれると、それから産卵された卵は孵化しなくなる。
- ③コナジラミ類成虫は黄色に誘引されやすい。誘引されテープに接触すると、有効成分が虫体に付着し、体内に取り込まれ、孵化しない卵を産卵する。
- ④すべての成虫が誘引されるわけではなく、発生がゼロにはならないが、テープ剤は耐久性、耐光性に優れ長期間その効果が持続するため、結果的に密度抑制が図られる。

(2) 使用方法

- ①定植直後、コナジラミ類の発生初期から設置する。
- ②1畝あたり1本、畝上に横断幕のように張り渡して設置する。
- ③成虫は作物体頂上付近での活動が盛んであるので、作物直上の高さに設置する。成長の早い作物で使用する場合、成長に応じてテープの設置高さを上げる。
- ④テープが作物体に隠れると効果が低下するので、常に目立つ位置に設置する。

(3) 使用上の注意点

- ①蚕に対して長期間強い毒性があるので、付近に桑園、養蚕施設がある場所では使用しない。
- ②養蚕又は桑生産を行っている農家は使用しない。
- ③本剤を燃やすと有効成分が広範囲に飛散する恐れがあるので、使用済みであっても絶対に燃やさない。
- ④使用後は必ず、テープ自体とともに設置に使用した手袋及び空き袋、巻き芯なども含め全量を製品添付の回収袋に集め、販売店に返却する。
- ⑤石灰硫黄合剤、ボルドー液等アルカリ性農薬をテープへ直接散布しない。
- ⑥最近発生地域が拡大しているタバココナジラミバイオタイプQは、本剤に対する感受性が低いため、本剤を設置しても密度抑制効果が不十分な場合は薬剤散布に切り替える。

(4) 登録の内容

作物名	適用害虫	使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
野菜類(施設栽培)	コナジラミ類	10～50m ² /10a	作物体の付近に設置する	栽培期間中	1回
豆類(種実)(施設栽培)		10～50m ² /10a			
ポインセチア(施設栽培)		25～100m ² /10a			
花き類・観葉植物(施設栽培)		50m ² /10a			

10 メタアルデヒド剤の使用法

メタアルデヒドは、ナメクジ、カタツムリ類を誘引し、食毒や接触作用により死亡させる。

(1) 処理上の注意点

- 1) 成分は、強い雨にあうと流失して効果がなくなるので、天候を見定めてから処理する。
- 2) 処理は、ナメクジ、カタツムリ類が夜行性であることから、夕方が良い。
- 3) 適用場所と使用方法をよく確認する。

(2) 主要薬剤の使用法

1) 水和剤・液剤

●マイキラーL（有効成分：メタアルデヒド 10.0% 人畜毒性：普通物）

適用作物	対象病害虫	適用場所	使用倍率 (使用量)	使用時期/ 使用回数	使用方法
レタス	ナメクジ類 カタツムリ類	—	400倍 (100～300ℓ/10a)	14日前 /3回以内	散布
非結球レタス			400倍 (100～300ℓ/10a)		
キャベツ			400倍 (100～300ℓ/10a)		
かんきつ			200倍 (200～700ℓ/10a)	30日前 /3回以内	
花き類・観葉植物		花き類・観葉植物栽培 温室等の生息地	400倍 (100～300ℓ/10a)	—/6回以内	
ナメクジ類、カタツムリ 類が加害する農作物等	圃場周辺雑草地の生 息地	200～400倍 (100～300ℓ/10a)	—/6回以内	作物にかからない ように土壌表面処 理する	

※水産動植物への影響については、この登録に係る使用方法では該当がない

●マイキラー（有効成分：メタアルデヒド 30.0% 人畜毒性：劇物）

適用作物	対象病害虫	適用場所	使用倍率 (使用量)	使用時期/ 使用回数	使用方法
レタス	ナメクジ類 カタツムリ類	—	200～500倍 (100～300ℓ/10a)	14日前 /3回以内	散布
非結球レタス			500倍 (100～300ℓ/10a)		
キャベツ			200倍 (100～300ℓ/10a)		
かんきつ			200倍 (200～700ℓ/10a)	30日前 /3回以内	
花き類・観葉植物		花き類・観葉植物栽培 温室等の生息地	100～200倍 (100～300ℓ/10a)	—/6回以内	
ナメクジ類、カタツムリ 類が加害する農作物等	圃場周辺雑草地の生 息地	100～200倍 (100～300ℓ/10a)	—/6回以内	作物にかからない ように土壌表面処 理する	

※水産動植物への影響については、この登録に係る使用方法では該当がない

2) 粒剤

●ナメクリン3（有効成分：メタアルデヒド 3.0% 人畜毒性：普通物）

適用作物	対象病害虫	使用量	使用時期/使用回数	使用方法
いちご	ナメクジ類	3kg/10a	前日まで/2回以内	株元散布
はくさい	ナメクジ類		3日前まで/2回以内	
キャベツ	カタツムリ類	1～3kg/10a	14日前まで/2回以内	
レタス			30日前まで/3回以内	
かんきつ				
花き類・観葉植物			—/6回以内	

※水産動植物への影響については、この登録に係る使用方法では該当がない。

3) 水田用粒剤（防除指針（本冊）P.52参照）

11 気門封鎖型薬剤の使用法

気門封鎖型薬剤とは、昆虫やダニ類等が呼吸のため空気を取り入れる「気門」と呼ばれる穴を物理的に塞ぎ窒息死させる薬剤のことである。窒息死させるという殺虫方法であるため、抵抗性を発達させた害虫にも有効である。

食品添加物等を主成分とする薬剤のため、使用回数制限もなく登録作物の範囲も広いため、ローテーション剤として有効な場面があると考えられる。

その他の特徴としては、性質上、効果は速効的。散布時に直接かからなければ効果がなく、残効性もない。気門に異物が入りにくい虫には効果がない。

気門封鎖型薬剤の登録状況及び効果比較表

薬剤名	対象病害虫			
	ハダニ類	アブラムシ類	コナジラミ類	うどんこ病
粘着くん液剤	○	○	△	△
粘着くん水和剤	○	○		
エコピタ液剤	○	○	○	△
アカリタッチ乳剤	○			○
オレート液剤		○	○	○
サンクリスタル乳剤	△	△	○	○
ムシラップ	○	○	○	△
フーモン	○	○	○	○
サフオイル乳剤	○		○	○

※空欄はどの作物にも登録がないことを示す。

※△は登録はあるが効果の低い事例が報告されていることを示す。

(1) 使用上の注意

- ① 散布液が直接かからないと効果がないため、病害虫にムラなく薬液がかかるよう葉の表裏に丁寧に散布する。
- ② 卵に効果がなく（サフオイルを除く）、残効性も短いため、夏期高温時など害虫の増殖や圃場外からの飛び込みが活発なときには、5～7日程度の間隔で連続2回散布や他剤とのローテーション散布を行う。
- ③ 夏期高温時など一般に薬害が生じやすい条件では使用を避ける。
- ④ 薬害が発生するおそれがあるため、はじめて利用する作物、品種では試しがけを行い、周辺作物にかからないようにする。
- ⑤ 展着剤は加用の必要はない。
- ⑥ 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせ調節する。
- ⑦ 散布液の調整に際してはよくかき混ぜ、調整後はなるべく早く使用し、使い切る。

(2) 各種薬剤の使用法（指針未掲載作物は除く）

●粘着くん液剤（有効成分：デンプン 人畜毒性：普通物 水産動植物への影響：○）

適用作物名	対象病害虫	使用倍率	使用時期	使用回数
かんきつ	ミカンハダニ	100倍	収穫後～萌芽前まで	-
もも	ハダニ類	100倍	収穫前日まで	-
野菜類	アブラムシ類、ハダニ類、コナジラミ類、うどんこ病	100倍	収穫前日まで	-
かんしょ	ハダニ類	100倍	収穫前日まで	-

（注意事項）

- ① 使用に際しては、容器をよく振ってから使用する。
- ② 軟弱徒長苗などには薬害を生ずるおそれがあるので、使用を避ける。
- ③ ボルドー液を散布した後に本剤を散布すると薬害を生ずるおそれがあるので、使用を避ける。
- ④ かんきつに使用する場合は、果実に薬害を生ずるおそれがあるので、果実のある時期は使用を避ける。
- ⑤ みずなすに使用する場合は、果実に薬害を生ずるおそれがあるので、果実のある時期は使用を避ける。
- ⑥ 直射日光をさけ密栓して保管するが、低温度（0℃以下）で保管すると凍結し溶解後効果が低下するので、このような条件下では保管しない。

●粘着くん水和剤（有効成分：デンプン 人畜毒性：普通物 水産動植物への影響：○）

適用作物名	対象病害虫	使用倍率	使用時期	使用回数
かんきつ	ミカンハダニ	500～1000倍	収穫前日まで	-
	アブラムシ類	500倍		
果樹類(かんきつを除く)	アブラムシ類、ハダニ類	500倍	収穫前日まで	-

（注意事項）

- ① テンプンの性質上、一気に溶解しにくいので、予め薬剤重量の10倍程度の水に溶かした後に所定量の水を張ったタンクに投入、攪拌することが望ましい。
- ② 水を張ったタンクに一気に投入した場合、ダマが生じることがある。ダマが生じた場合は棒などで十分攪拌し溶け残りのないことを確認する。
- ③ 薬剤を投入したあとに水を加えると多量の泡が生じる場合があるので避ける。
- ④ 薬剤散布後や機材洗浄時にタンク内に大量の泡が生じることがある。泡たちがひどい時は市販の消泡剤などで処理する。
- ⑤ 散布液製剤後はそのまま放置せず、できるだけ速やかに散布する。また散布機の循環装置（プロペラ、戻り水）を稼働させた状態で散布する。
- ⑥ 散布を中断した場合は、再開する前には棒などで薬液を攪拌した後、十分溶解していることを確認して散布する。

●エコピタ液剤（有効成分：還元澱粉糖化物 人畜毒性：普通物 水産動植物への影響：○）

適用作物名	対象病害虫	使用倍率	使用時期	使用回数
かんきつ	ミカンハダニ	100～300倍	収穫前日まで	-
	アブラムシ類、ハダニ類（ミカンハダニを除く）、うどんこ病	100倍	収穫前日まで	
果樹類（かんきつを除く）	アブラムシ類、ハダニ類、うどんこ病	100倍	収穫前日まで	-
野菜類（いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なすを除く）	アブラムシ類、ハダニ類、コナジラミ類、うどんこ病	100倍	収穫前日まで	-
いちご	アブラムシ類、コナジラミ類、うどんこ病	100倍	収穫前日まで	-
	ハダニ類	100倍	収穫前日まで	
	使用方法：10秒～1分間苗浸漬	100倍	定植前	
トマト	アブラムシ類、ハダニ類	100倍	収穫前日まで	-
	コナジラミ類、うどんこ病	100～200倍		
ミニトマト	アブラムシ類、ハダニ類	100倍	収穫前日まで	-
	コナジラミ類、うどんこ病	100～200倍		
きゅうり	アブラムシ類、ハダニ類	100倍	収穫前日まで	-
	コナジラミ類、うどんこ病	100～200倍		
なす	アブラムシ類、ハダニ類	100倍	収穫前日まで	-
	コナジラミ類、うどんこ病	100～200倍	収穫前日まで	-
豆類（種実）	アブラムシ類、ハダニ類、コナジラミ類、うどんこ病	100倍	収穫前日まで	-
いも類	アブラムシ類、ハダニ類、コナジラミ類、うどんこ病	100倍	収穫前日まで	-
とうもろこし	ムギクビレアブラムシ	100倍	収穫前日まで	-

（注意事項）

- 雨天時等湿度が高く、散布後の薬液が乾きにくい条件下では薬害が出る場合があるので注意する。
- なしに使用する場合、青なし品種（二十世紀、ゴールド二十世紀等）には、薬害（褐変）が生じるおそれがあるので注意する。
- すもも、かき、ぶどうに使用する場合、幼果期以降の散布は果粉の溶脱を生じるおそれがあるので果実のある時期は使用しない。

●アカリタッチ乳剤（有効成分：プロピレングリコールモノ脂肪酸エステル 人畜毒性：普通物 水産動植物への影響：○）

適用作物名	対象病害虫	使用倍率	使用時期	使用回数
果樹類	ハダニ類	1,000～2,000倍	収穫前日まで	-
野菜類	ハダニ類	1,000～3,000倍	収穫前日まで	-
	うどんこ病	2,000倍		
いも類	ハダニ類	2,000～3,000倍	収穫前日まで	-
	うどんこ病	2,000倍		

（注意事項）

- かんきつに使用する場合、濃度が濃くなった場合や高温時期に、果実に薬害を生じるおそれがあるので、使用濃度を厳守し、高温時の散布は避ける。普通温州以外では幼果期及び果実肥大期の散布はできるかぎり避け、特に所定の高濃度での散布は避ける。
- 日本なしに使用する場合、果実に薬害を生ずるおそれがあるので使用濃度を厳守し、特に幼果期の散布は避ける。
- 果菜類で使用する場合、散布液が溜まるような状態では、薬害が発生することがあるので、薬液の乾きやすい時に、所定範囲内の低濃度で使用する。
- うどんこ病に使用する場合、発病初期に散布する。
- 散布液が溜まるような状態では、油浸状・茶褐色の薬害（いちごの果実など）が発生することがあるので、薬液の乾きやすい時に登録の範囲内の少ない散布量で散布する。
- 高温時や日射の強い時間帯、また寒暖の差が激しい時期の散布は避ける。
- いちごでは、他剤混用散布による葉での薬害事例、バロックとの混用では果実に茶褐色の薬斑（あまおとめ）事例があるので利用にあたっては混用を避け、倍率は2,000倍で行う。

●オレート液剤(有効成分:オレイン酸ナトリウム 人畜毒性:普通物 水産動植物への影響:○)

適用作物名	対象病害虫	使用倍率	使用時期	使用回数
果樹類(なしを除く)	アブラムシ類	100倍	発生初期～収穫前日まで	-
なし	アブラムシ類	100～200倍	発生初期～収穫前日まで	-
野菜類(いちごを除く)	アブラムシ類	100倍	発生初期～収穫前日まで	-
	コナジラミ類	100～300倍		
いちご	アブラムシ類	100倍	発生初期～収穫前日まで	-
	コナジラミ類	100～300倍		
	うどんこ病	100倍	発病初期～収穫前日まで	

(注意事項)

- ① 本薬6～7枚期までの散布は、葉害の出るおそれがあるので避ける。
- ② 散布直後の降雨は効果を低下させるので、天候を見きわめてから散布する。
- ③ アルカリ性剤のため、他の薬剤との混用または近接散布には注意する。

●サンクリスタル乳剤(有効成分:脂肪酸グリセリド 人畜毒性:普通物 水産動植物への影響:○)

適用作物名	対象病害虫	使用倍率	使用時期	使用回数
野菜類 (なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)	アブラムシ類、コナジラミ類	300倍	収穫前日まで	-
	ハダニ類、うどんこ病	300～600倍		
なす	アブラムシ類、コナジラミ類	300倍	収穫前日まで	-
	ハダニ類、チャノホコリダニ、うどんこ病	300～600倍		
トマト	アブラムシ類、コナジラミ類	300倍	収穫前日まで	-
	ハダニ類、トマトサビダニ、うどんこ病	300～600倍		
ミニトマト	アブラムシ類、コナジラミ類	300倍	収穫前日まで	-
	ハダニ類、トマトサビダニ、うどんこ病	300～600倍		
いちじく	ハダニ類	600倍	収穫前日まで	-
ぶどう	ハダニ類	600倍	収穫前日まで	-
かんきつ	ミカンキジラミ	600倍	収穫前日まで	-
しゅんぎく	ハダニ類、うどんこ病	300～600倍	収穫前日まで	-
	アブラムシ類、コナジラミ類、ハクサイダニ	300倍		

(注意事項)

- ① トリアジン水和剤、スルフェン酸系水和剤あるいはキャプタン水和剤およびストロビルリン系薬剤と同時施用及び近接散布は葉害を生じるおそれがあるので使用は避ける。ストロビルリン系薬剤を散布した後は、2週間以上間隔をあけて本剤を散布する。
- ② アセタミプリド剤、トリフルミゾール剤、ベノミル剤、キャプタン剤との混用も葉害を生じるおそれがあるので使用しないで下さい。
- ③ なす、ピーマン、はくさい、チンゲンサイ等に使用する場合、幼苗期には葉先枯れを生じることがあるので使用を避ける。
- ④ 葉面散布肥料との混用により葉害を生ずる場合があるので、混用は避ける。
- ⑤ いちごで使用する場合、完熟状態での使用は品種により果実が黒ずむ場合があるので、完熟となる前までに散布する。完熟の果実を収穫する際は、それらの果実を全て収穫した後に散布する。
- ⑥ かんきつに使用する場合、次の2点の注意事項を守る。1. 品種、使用時期によっては果実に葉害を生じるおそれがあるので、事前に安全を確認して使用し、また樹勢が弱っている場合には散布しない。2. ジチアノン剤との混用並び近接散布は果実に葉害を生じるので避ける。

●ムシラップ(有効成分:ソルビタン脂肪酸エステル 人畜毒性:普通物 水産動植物への影響:○)

適用作物名	対象病害虫	使用倍率	使用時期	使用回数
野菜類	アブラムシ類、ハダニ類、コナジラミ類、うどんこ病	500倍	収穫前日まで	-
豆類(種実)	アブラムシ類、ハダニ類、うどんこ病	500倍	収穫前日まで	-
いも類	アブラムシ類、ハダニ類、うどんこ病	500倍	収穫前日まで	-

(注意事項)

- ① 葉害のおそれがあるので他の薬剤との混用は避ける。
- ② 灰色かび病が多発すると本剤は効果がやや低いので、他剤と併用する。
- ③ 本剤は低温(10℃以下)で放置された場合、一部白濁沈殿を生じる場合があるので、使用の際にはあらかじめ透明液体にもどしてから(10℃以上に置いておくか、温湯を用いて溶かす)使用する。
- ④ いちごに使用する場合、品種により果実に葉害を生じるおそれがあるので、事前に使用品種における葉害の有無を確認する。
- ⑤ キノン系、キノキサリン系、ストロビルリン系、アニリド系薬剤との同時施用は、葉害を生じるおそれがあるので使用しない。

●フーモン (有効成分: ポリグリセリン脂肪酸エステル 人畜毒性:普通物 水産動植物への影響:この登録に係る使用方法では問題はない)

適用作物名	対象病害虫	使用倍率	使用時期	使用回数
野菜類	アブラムシ類、ハダニ類、コナジラミ類、うどんこ病	1,000倍	収穫前日まで	-
かんきつ	ハダニ類	1,000倍	収穫前日まで	-

(注意事項)

- ① 散布直後の降雨が予想される場合は使用を避ける。
- ② 作物の幼苗期や軟弱徒長苗、高温時には使用しない。
- ③ ストロビルリン系薬剤 (アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブル等) 及び混用事例により薬害の生じる事例のあるもの (オーソサイド水和剤、モレスタン水和剤、イオウフロアブル、サンヨール、オサダンフロアブル、カネマイトフロアブル、ポタニガードES) との同時施用・近接散布は避ける。
- ④ 展着剤としても登録がある (展着剤の使用法参照)。

●サフオイル乳剤(有効成分: 調合油 人畜毒性:普通物 水産動植物への影響:○)

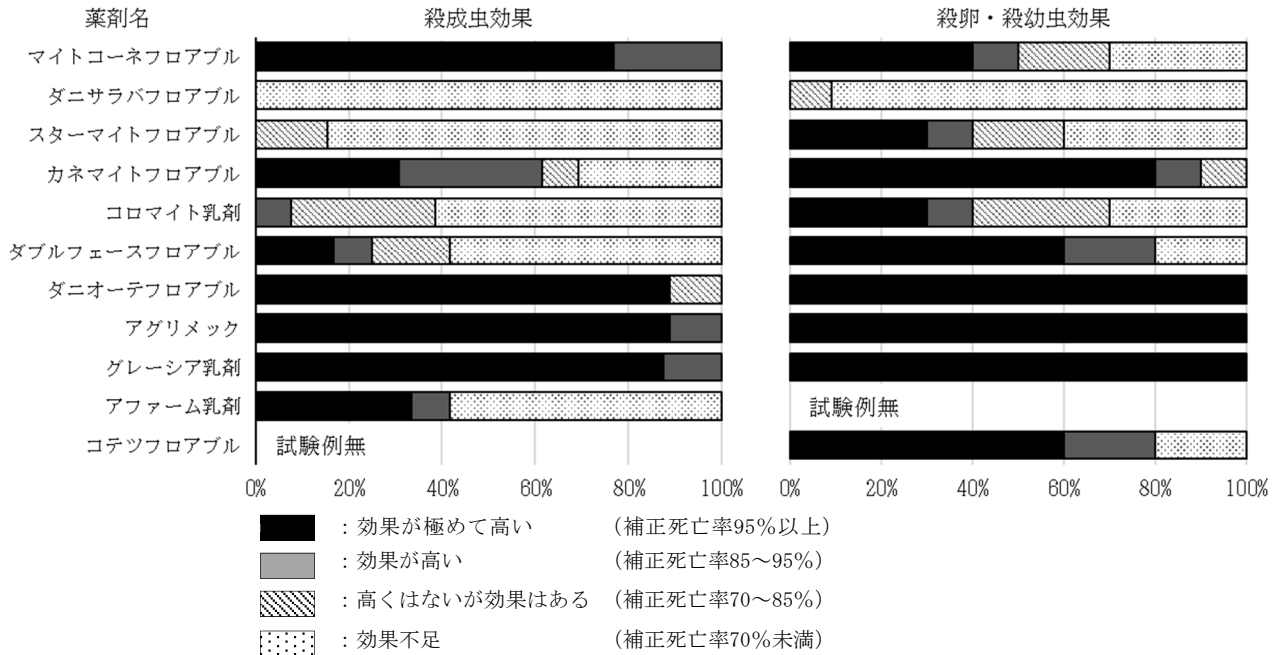
適用作物名	対象病害虫	使用倍率	使用時期	使用回数
野菜類 (トマト、ミニトマトを除く)	ハダニ類	300~500倍	収穫前日まで	-
	チャノホコリダニ、コナジラミ類、うどんこ病	300倍		-
トマト	ハダニ類	300~500倍	収穫前日まで	-
	チャノホコリダニ、トマトサビダニ、コナジラミ類、うどんこ病	300倍		-
ミニトマト	ハダニ類	300~500倍	収穫前日まで	-
	チャノホコリダニ、トマトサビダニ、コナジラミ類、うどんこ病	300倍		-
かんきつ	ミカンハダニ	500倍	収穫前日まで	-

※サフオイル乳剤は、殺卵活性 (孵化阻害効果) を有する。

(注意事項)

- ① 軟弱徒長苗では、薬害を生じるおそれがあるので使用を避ける。
- ② 作物及び害虫に薬液を確実に付着させるため、展着剤を加用した方がよい。
- ③ いちごに使用する場合、オーソサイド水和剤80及びデランフロアブルとの混用・近接散布は、薬害を生じるおそれがあるので避ける。

12 いちごナミハダニ防除薬剤の効果



愛媛県内のイチゴから採取したナミハダニを対象に、2018年~2019年に愛媛県農林水産研究所で実施された室内試験結果より、効果を4つに区分して、試験総数に対する割合で表示した。

〈イチゴのハダニ類防除に関する補足〉

●防除時期

定植後間もない時期~秋季の防除が重要。
この時期は、通常ハダニ類は容易に確認できないほど少なく、生息部位である葉裏へも比較的かけやすい時期。
この後、気温も下がるため増殖はさらに遅くなる。

●散布方法

葉裏に薬液をかける意識が重要。
ハダニ類の生息部位は「葉裏」のため、真上からの散布や高設栽培での2~4畦飛ばしの散布では、葉裏への薬剤付着が不十分になり、短期間での再散布が必要になったり、散布回数が多くなったりすることにより抵抗性の発達を早めるおそれがある。

13 無人航空機防除用農薬一覧表(指針未掲載作物及び除草剤は除く)

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数
稲	いもち病	アミスターアクタラSC	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内
		アミスターエイト	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	3回以内
		アミスタートレボンSE	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	3回以内
		オリゼメート粒剤20	1kg/10a		収穫14日前まで	2回以内
		オリゼメート粒剤40	500g/10a		収穫14日前まで	2回以内
		オリブライト1キロ粒剤	1kg/10a		出穂10日前まで(但し、収穫45日前まで)	1回
		オリブライト250G	250g/10a		出穂10日前まで(但し、収穫45日前まで)	1回
		カスミンバリダシン液剤	8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内
		カスミン液剤	8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内
		カスラブサイドゾル	8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内
		ゴウケツ1キロ粒剤	1kg/10a		出穂5日前まで(但し、収穫30日前まで)	1回
		ゴウケツ粒剤500	500g/10a		出穂5日前まで(但し、収穫30日前まで)	1回
		コラトップ1キロ粒剤12	1kg/10a		葉いもちに対しては初発10日前～初発時、穂いもちに対しては出穂30日前～5日前まで	2回以内
		コラトップスタークル1キロ粒剤	1kg/10a		出穂5日前まで	2回以内
		コラトップ粒剤24	500g/10a		葉いもちに対しては初発10日前～初発時、穂いもちに対しては出穂30日前～5日前まで	2回以内
		サンプラス1キロ粒剤	1kg/10a		出穂5日前まで(但し、収穫30日前まで)	1回
		サンプラス粒剤18	500g/10a		出穂5日前まで(但し、収穫30日前まで)	1回
		ダブルカットKフロアブル	8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内
		ダブルカットエクシードフロアブル	8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内
		ダブルカットスタークルフロアブル	8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内
		ダブルカットトレボンフロアブル	8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内
		ダブルカットバリダフロアブル	8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内
		ダブルカットフロアブル	8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内
		トップジンMゾル	4～8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内
		トップジンスタークルフロアブル	4倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内
		トライKフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内
		トライラムフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内
		トライフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内
		ノンプラスダントツフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
		ノンプラスバリダダントツフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内
		ノンプラスバリダフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内
		ノンプラスフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
		ビームエイトEXゾル	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		ビームエイトエクシードゾル	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		ビームエイトスタークルゾル	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		ビームエイトゾル	5～8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	3回以内
		ビームエイトレボンゾル	5倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	3回以内
		ビームエイトモンカットフロアブル	5～8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	3回以内
		ビームゾル	6～8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	3回以内
		ビームバリダゾル	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	3回以内
		フジワン1キロ粒剤	1～1.5kg/10a		葉いもちに対しては初発7～10日前、穂いもちに対しては出穂10～30日前(但し、収穫30日前まで)	2回以内
		フジワンラップ粒剤	3～4kg/10a		葉いもちに対しては初発7～10日前、穂いもちに対しては出穂10～30日前(但し、収穫30日前まで)	2回以内
		フジワン乳剤	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内
		ブラシンキラップフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内
		ブラシンゾル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
		ブラシンドアントツフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
		ブラシンバリダゾル	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内
		ブラシンバリダフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内
		ブラシンフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
		ブレードスタークルRゾル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
ブレードスタークルゾル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内		
モンカットラブサイド20フロアブル	6～8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	3回以内		
ラブサイドK2フロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内		
ラブサイドキラップフロアブル	4倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内		
ラブサイドスタークルフロアブル	4倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内		
ラブサイドダントツフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	3回以内		
ラブサイドバリダフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	3回以内		
ラブサイドフロアブル	5～8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	3回以内		

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数
稲	もみ枯細菌病	ゴウケツ1キロ粒剤	1kg/10a		出穂5日前まで(但し、収穫30日前まで)	1回
		ゴウケツ粒剤500	500g/10a		出穂5日前まで(但し、収穫30日前まで)	1回
		サンプラス1キロ粒剤	1kg/10a		出穂5日前まで(但し、収穫30日前まで)	1回
		サンプラス粒剤18	500g/10a		出穂5日前まで(但し、収穫30日前まで)	1回
		ダブルカットレボソフロアブル	8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内
		ダブルカットバリダフロアブル	8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内
		ブラシソブル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
		ブラシソバリダフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内
		ブラシソフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
	ブレードスタークルゾル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	稲こうじ病	オリブライト250G	250g/10a		出穂10日前まで(但し、収穫45日前まで)	1回
		トライKフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内
		トライラムフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内
		トライフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内
		フジワン1キロ粒剤	1kg/10a		出穂10～30日前(但し、収穫30日前まで)	2回以内
		フジワンラップ粒剤	4kg/10a		出穂10～30日前(但し、収穫30日前まで)	2回以内
		フジワン乳剤	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内
		ブラシソフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
		ブレードスタークルゾル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
	モンガリット1キロ粒剤	1kg/10a		収穫30日前まで	2回以内	
	褐条病	ブラシソフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
	疑似紋枯症(褐色菌核病菌)	ブラシソバリダフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内
	疑似紋枯症(褐色紋枯病菌)	ブラシソバリダフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内
	疑似紋枯症(赤色菌核病菌)	ブラシソバリダフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内
	ごま葉枯病	オリブライト1キロ粒剤	1kg/10a		出穂10日前まで(但し、収穫45日前まで)	1回
		ブラシソバリダフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内
		ブラシソフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
	内穎褐変病	ゴウケツ1キロ粒剤	1kg/10a		出穂5日前まで(但し、収穫30日前まで)	1回
		ゴウケツ粒剤500	500g/10a		出穂5日前まで(但し、収穫30日前まで)	1回
		サンプラス1キロ粒剤	1kg/10a		出穂5日前まで(但し、収穫30日前まで)	1回
		サンプラス粒剤18	500g/10a		出穂5日前まで(但し、収穫30日前まで)	1回
		ダブルカットレボソフロアブル	8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内
		ブラシソブル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
		ブラシソバリダフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内
		ブラシソフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
		ブレードスタークルゾル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
	変色米(アルタナリア菌)	ブラシソフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
		ブレードスタークルゾル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
	変色米(エピコッカム菌)	トップジンMゾル	4～8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内
		ブラシソフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
	変色米(カーブリア菌)	ブラシソバリダフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内
		ブラシソフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
		ブレードスタークルゾル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
	穂枯れ(ごま葉枯病菌)	オリブライト1キロ粒剤	1kg/10a		出穂10日前まで(但し、収穫45日前まで)	1回
		オリブライト250G	250g/10a		出穂10日前まで(但し、収穫45日前まで)	1回
		ダブルカットフロアブル	8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内
		トライフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内
ブラシソブル		8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内	
ブラシソバリダフロアブル		8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内	
ブラシソフロアブル		8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内	
ブレードスタークルゾル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内		
穂枯れ(すじ葉枯病菌)	オリブライト1キロ粒剤	1kg/10a		出穂10日前まで(但し、収穫45日前まで)	1回	
	オリブライト250G	250g/10a		出穂10日前まで(但し、収穫45日前まで)	1回	
	トップジンMゾル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
	ブラシソフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内	
墨黒穂病	モンガリット1キロ粒剤	1kg/10a		収穫30日前まで	2回以内	
	アブロードモンカットエア-	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	4回以内	
	アブロードロムダンモンカットエア-	6倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	2回以内	
紋枯病	アミスターアクタラSC	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内	

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数
稲	紋枯病	アミスターエイト	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	3回以内
		アミスタートレボンSE	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	3回以内
		オーケストラロムダンモンカットエア	16倍	1.6L/10a	収穫21日前まで	2回以内
		オーケストラロムダンモンカットエア	8倍	0.8L/10a	収穫21日前まで	2回以内
		オリブライト1キロ粒剤	1kg/10a		出穂10日前まで(但し、収穫 45日前まで)	1回
		オリブライト250G	250g/10a		出穂10日前まで(但し、収穫 45日前まで)	1回
		カスミンバリダシン液剤	8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内
		ダブルカットバリダフロアブル	8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内
		トップジンMゾル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内
		トップジンスタークルフロアブル	4倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内
		ノンプラスバリダダントツフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内
		ノンプラスバリダフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内
		バシタックゾル	6~8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	3回以内
		バリダシンエア	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	5回以内
		ビームエイトモンカットフロアブル	5~8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	3回以内
		ビームバリダゾル	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	3回以内
		ブラシンバリダゾル	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内
		ブラシンバリダフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内
		モンカット1キロ粒剤21	1kg/10a		出穂30~10日前(但し、収 穫14日前まで)	4回以内
		モンカットフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	4回以内
		モンカットラブサイド20フロアブル	6~8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	3回以内
		モンガリット1キロ粒剤	1kg/10a		収穫30日前まで	2回以内
		モンセレンフロアブル	8~10倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	4回以内
	ラブサイドバリダフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	3回以内	
	アカヒゲホソトリカスカメ	ダントツEXフロアブル	24~36倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	3回以内
	イナコ類	トレボンエア	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内
	イネトムシ	オーケストラロムダンモンカットエア	16倍	1.6L/10a	収穫21日前まで	2回以内
		オーケストラロムダンモンカットエア	8倍	0.8L/10a	収穫21日前まで	2回以内
	イネドイモシ	キラップフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内
		ダントツEXフロアブル	36倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	3回以内
		エミリアフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内
	イネミズウムシ	スタークル1キロH粒剤	1kg/10a		収穫7日前まで	3回以内
		スタークルメイト1キロH粒剤	1kg/10a		収穫7日前まで	3回以内
	ウンカ類	アブロードスタークルゾル	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		アミスターアクタラSC	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内
		アミスタートレボンSE	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	3回以内
		エグシードフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		エミリアフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内
		オーケストラスタークルエア	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		キラップフロアブル	8~16倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内
		コラトップスタークル1キロ粒剤	1kg/10a		出穂5日前まで	2回以内
		スタークル1キロH粒剤	1kg/10a		収穫7日前まで	3回以内
		スタークルエア50	40倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		スタークルメイト1キロH粒剤	1kg/10a		収穫7日前まで	3回以内
		スタークルメイトエア50	40倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		スタークルメイト液剤10	16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		スタークルメイト液剤10	30倍	3L/10a	収穫7日前まで	3回以内
スタークルメイト液剤10		8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
スタークル液剤10		16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
スタークル液剤10		8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
スタークル液剤10		30倍	3L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
スタートレボンW10		8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
スミチオントレボン乳剤		8倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	2回以内	
ダブルカットエグシードフロアブル		8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内	
ダブルカットスタークルフロアブル		8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内	
ダブルカットトレボンフロアブル		8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内	
ダントツEXフロアブル		24倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	3回以内	
ダントツフロアブル		24倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	3回以内	
トップジンスタークルフロアブル		4倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
トライKフロアブル		8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
トライトラムフロアブル		8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
トレボンエア		8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
トレボンスターフロアブル		8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
ノンプラスダントツフロアブル		8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内	
ノンプラスバリダダントツフロアブル		8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内	
ビームエイトEXゾル		8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
ビームエイトエグシードゾル		8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
ビームエイトスタークルゾル		8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
ビームエイトトレボンゾル		5倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	3回以内	
フェームスター顆粒水溶剤50		40倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
フジワラップ粒剤		3~4kg/10a		収穫30日前まで	2回以内	
ブラシンキラップフロアブル		8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内	
ブラシんだントツフロアブル		8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内	
ブレードスタークルRゾル		8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内	
ブレードスタークルゾル		8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内	

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数
稲	ウンカ類	ラブサイドスタークルフロアブル	4倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		ラブサイドダントツフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	3回以内
	ウンカ類幼虫	アブロードゾル	16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	4回以内
		アブロードモンカットエア	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	4回以内
		アブロードロムダンモンカットエア	6倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	2回以内
		オーケストラフロアブル	16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		オーケストラフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		オーケストラロムダンモンカットエア	8倍	0.8L/10a	収穫21日前まで	2回以内
		オーケストラロムダンモンカットエア	16倍	1.6L/10a	収穫21日前まで	2回以内
		オーケストラロムダンモンカットエア	16倍	1.6L/10a	収穫21日前まで	2回以内
	カメシ類	アブロードスタークルゾル	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		アミスターアクタラSC	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内
		アミスタートレボンSE	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	3回以内
		エクシードフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		エミリアフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内
		オーケストラスタークルエア	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		キラップフロアブル	8~16倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内
		クラトップスタークル1キロ粒剤	1kg/10a		出穂5日前まで	2回以内
		スタークル1キロH粒剤	1kg/10a		収穫7日前まで	3回以内
		スタークルエア50	40倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		スタークルメイト1キロH粒剤	1kg/10a		収穫7日前まで	3回以内
		スタークルメイトエア50	40倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		スタークルメイト液剤10	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		スタークル液剤10	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		スタートレボンW10	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内
		スミチオンMC	3.2~4倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	2回以内
		スミチオンレボン乳剤	8倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	2回以内
		スミチオン乳剤	8倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	2回以内
		ダブルカットKフロアブル	8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内
		ダブルカットエクシードフロアブル	8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内
		ダブルカットスタークルフロアブル	8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内
		ダブルカットレボンフロアブル	8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内
		ダントツフロアブル	24倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	3回以内
		トップジンスタークルフロアブル	4倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内
		トライKフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内
		トライトラムフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内
		トレボンエア	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内
		トレボンスカイMC	16倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内
		トレボンスターフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内
		ノンプラスダントツフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
		ノンプラスバリダダントツフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内
		ビームエイトEXゾル	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		ビームエイトエクシードゾル	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		ビームエイトスタークルゾル	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		ビームエイトトレボンゾル	5倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	3回以内
		ファームスター顆粒水溶剤50	40倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		フジワラップ粒剤	4kg/10a		収穫30日前まで	2回以内
		ブラシンキラップフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内
		ブラシダントツフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
		ブレードスタークルRゾル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
		ブレードスタークルゾル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
		ラブサイドK2フロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内
	ラブサイドキラップフロアブル	4倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
	ラブサイドスタークルフロアブル	4倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	ラブサイドダントツフロアブル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	カメシ類(アカヒゲホソドリ カシカメを除く)	ダントツEXフロアブル	24倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	3回以内
	コブノメイガ	アブロードロムダンモンカットエア	6倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	2回以内
		アミスタートレボンSE	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	3回以内
		オーケストラロムダンモンカットエア	16倍	1.6L/10a	収穫21日前まで	2回以内
		オーケストラロムダンモンカットエア	8倍	0.8L/10a	収穫21日前まで	2回以内
		スタートレボンW10	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内
		ダブルカットレボンフロアブル	8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内
		トレボンエア	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内
		トレボンスターフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内
		マトリックフロアブル	16倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
		ランナーフロアブル	16倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	3回以内
		ロムダンエア	16倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	2回以内
		スクミリンゴカイ	ジャンボタニシ退治粒剤	2~4kg/10a		収穫60日前まで
	スクミノン		1~4kg/10a		収穫60日前まで	2回以内
	スクミノン5		2~4kg/10a		収穫60日前まで	2回以内
	スクミンブルー		2~8kg/10a		発生時	-
	スクミンベイト3		2~8kg/10a		発生時	-
メタレックスRG粒剤	0.7~ 1.4kg/10a			移植後(但し、収穫90日前 まで)	2回以内	
ツマゲロヨコバイ	アブロードスタークルゾル	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	アミスタートレボンSE	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	3回以内	
	エクシードフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	エミリアフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内	

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	
稲	ツマグロヨコバイ	コラトップスタークル1キロ粒剤	1kg/10a		出穂5日前まで	2回以内	
		スタークル1キロH粒剤	1kg/10a		収穫7日前まで	3回以内	
		スタークルメイト1キロH粒剤	1kg/10a		収穫7日前まで	3回以内	
		スタークルメイト液剤10	16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		スタークル液剤10	16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		スタートレボンW10	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		スミチオントレボン乳剤	8倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	2回以内	
		ダブルカットエクシードフロアブル	8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内	
		ダブルカットレボンフロアブル	8倍	0.8mL/10a	穂揃期まで	2回以内	
		トレボンエア-	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		トレボンスターフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		ビームエイトスタークルゾル	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		ブレードスタークルゾル	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	ツマグロヨコバイ幼虫	アブロードゾル	16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	4回以内	
		アブロードモンカットエア-	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	4回以内	
		アブロードロムダンモンカットエア-	6倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	2回以内	
		オーケストラフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		オーケストラフロアブル	16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		オーケストラロムダンモンカットエア-	16倍	1.6L/10a	収穫21日前まで	2回以内	
		オーケストラロムダンモンカットエア-	8倍	0.8L/10a	収穫21日前まで	2回以内	
		アブロードロムダンモンカットエア-	6倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	2回以内	
		オーケストラロムダンモンカットエア-	8倍	0.8L/10a	収穫21日前まで	2回以内	
		オーケストラロムダンモンカットエア-	16倍	1.6L/10a	収穫21日前まで	2回以内	
	ニカメイチュウ	アブロードロムダンモンカットエア-	6倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	2回以内	
		オーケストラロムダンモンカットエア-	8倍	0.8L/10a	収穫21日前まで	2回以内	
		オーケストラロムダンモンカットエア-	16倍	1.6L/10a	収穫21日前まで	2回以内	
		スタークル1キロH粒剤	1kg/10a		収穫7日前まで	3回以内	
		スタークルメイト1キロH粒剤	1kg/10a		収穫7日前まで	3回以内	
		スミチオン乳剤	8倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	2回以内	
		フジワラップ粒剤	3~4kg/10a		収穫30日前まで	2回以内	
		ロムダンエア-	16倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	2回以内	
		ヒトヒウカ	トレボンスカイMC	16倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内
			トレボンエア-	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内
	フタホヒコヤガ	トレボンエア-	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
	白葉枯病	オリブライト250G	250g/10a		出穂10日前まで(但し、収穫45日前まで)	1回	
		ゴウケツ1キロ粒剤	1kg/10a		出穂5日前まで(但し、収穫30日前まで)	1回	
		ゴウケツ粒剤500	500g/10a		出穂5日前まで(但し、収穫30日前まで)	1回	
		サンプラス1キロ粒剤	1kg/10a		出穂5日前まで(但し、収穫30日前まで)	1回	
		サンプラス粒剤18	500g/10a		出穂5日前まで(但し、収穫30日前まで)	1回	
	水稻	フタホヒコヤガ	チューンアップ顆粒水和剤	16倍	0.8L/10a	発生初期(但し、収穫前日まで)	-
	麦類	黄斑病	ワークアップフロアブル	10~16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		雪腐小粒菌核病	ワークアップフロアブル	10~16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
網斑病		ワークアップフロアブル	10~16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
黒点病		ワークアップフロアブル	10~16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
うどんこ病		ワークアップフロアブル	10~16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
赤かび病		ワークアップS乳剤	5~8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		ワークアップフロアブル	10~24倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
赤さび病		ワークアップフロアブル	10~16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
ヒトヒウカ		トレボンエア-	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
ヒトヒウカ幼虫		アブロードゾル	16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
小麦		うどんこ病	シルバキアフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内
		なまぐさ黒穂病	チルト乳剤25	8倍	0.8mL/10a	根雪前	2回以内
			フロンサイドSKY	8倍	0.8L/10a	根雪前	2回以内
	フロンサイドSKY		16倍	1.6L/10a	根雪前	2回以内	
	褐色雪腐病	ランマンフロアブル	8倍	0.8L/10a	根雪前	3回以内	
	紅色雪腐病	シルバキアフロアブル	8倍	0.8L/10a	根雪前	1回	
		フロンサイドSKY	8倍	0.8L/10a	根雪前	2回以内	
		フロンサイドSKY	16倍	1.6L/10a	根雪前	2回以内	
		モンカットベフランフロアブル	4倍	0.8mL/10a	根雪前	2回以内	
		シルバキアフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	赤かび病	チルト乳剤25	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		トップジンMゾル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内(但し、出穂期以降は2回以内)	
		ファンタジスタフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		ベフトップジンフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内(但し、出穂期以降は1回以内)	
		ミラビスフロアブル	8~16倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		赤さび病	イントレックスフロアブル	8~16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
			シルバキアフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内
	雪腐小粒菌核病	シルバキアフロアブル	16倍	0.8L/10a	根雪前	1回	
		シルバキアフロアブル	8倍	0.8L/10a	根雪前	1回	
		チルト乳剤25	8倍	0.8mL/10a	根雪前	2回以内	
		フロンサイドSKY	16倍	1.6L/10a	根雪前	2回以内	
		フロンサイドSKY	8倍	0.8L/10a	根雪前	2回以内	
		モンカットベフランフロアブル	4倍	0.8mL/10a	根雪前	2回以内	

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	
小麦	雪腐大粒菌核病	トップジンMゾル	10倍	0.8L/10a	根雪前	3回以内(但し、出穂期以降は2回以内)	
		フロンスайдSKY	16倍	1.6L/10a	根雪前	2回以内	
		フロンスайдSKY	8倍	0.8L/10a	根雪前	2回以内	
	アブラムシ類	スミチオン乳剤	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	1回	
		トレボンスカイMC	16倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
大麦	うどんこ病	シルバキユアフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
	赤かび病	シルバキユアフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
		チルト乳剤25	8倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	1回	
		ミラビスフロアブル	8~16倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	2回以内	
	アブラムシ類	スミチオン乳剤	8倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	1回	
麦類(小麦を除く)	赤かび病	トップジンMゾル	8倍	0.8L/10a	収穫21日前まで	3回以内(但し、出穂期以降は1回以内)	
	雪腐大粒菌核病	トップジンMゾル	10倍	0.8L/10a	根雪前	3回以内(但し、出穂期以降は1回以内)	
麦類(大麦、小麦を除く)	アブラムシ類	スミチオン乳剤	8倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	1回	
だいでず	紫斑病	アミスター20フロアブル	16~24倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		アミスタートレボンSE	8倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	2回以内	
		トップジンMゾル	5倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	4回以内	
		トライフロアブル	16倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
		トライフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
		ニマイパー水和剤	8~16倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	4回以内	
		ファンタジスタフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		ブランドム乳剤25	16~24倍	0.8mL/10a	開花後~収穫7日前まで	2回以内	
		べと病	ザンプロDMフロアブル	8~16倍	0.8~1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内
			ファンタジスタフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	菌核病	ファンタジスタフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	茎疫病	ザンプロDMフロアブル	8~12倍	0.8~1.2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	アブラムシ類	アディオン乳剤	24倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		アミスタートレボンSE	8倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	2回以内	
		オルトラン水和剤	16倍	1.6L/10a	収穫60日前まで	3回以内	
		ダントツEXフロアブル	24倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		ダントツフロアブル	24倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		ベネビアOD	32倍	0.8~2.4L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		ネキムシ類	フェニックスフロアブル	16~32倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	フェニックスフロアブル		20~40倍	1L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	フェニックスフロアブル		32~64倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	コガネムシ類	ヨーバルフロアブル	50倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	カメムシ類	アミスタートレボンSE	8倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	2回以内	
		エクシードフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		カスケード乳剤	32倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		キラップフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		スタークルメイト液剤10	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		スタークル液剤10	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		スミチオントレボン乳剤	8倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	2回以内	
		スミチオン乳剤	8倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	4回以内	
		ダントツEXフロアブル	24倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		ダントツフロアブル	24倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		トレボンエア	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
		トレボンスカイMC	8~16倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
		トレボンスターフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
		ダイズサヤタマバエ	カスケード乳剤	32倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内
			スタークルメイト液剤10	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内
	スタークル液剤10		8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	スミチオン乳剤		8倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	4回以内	
	スミチオン乳剤		8倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	4回以内	
	マメシクイガ	アディオン乳剤	24倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		アミスタートレボンSE	8倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	2回以内	
		カスケード乳剤	32倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		スミチオン乳剤	8倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	4回以内	
		ダイアジン粒剤10	1.5~3kg/10a		収穫30日前まで	4回以内	
		トレボンエア	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
		トレボンスカイMC	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
		トレボンスカイMC	16倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
		プレバゾンフロアブル5	16~32倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		ベネビアOD	32倍	0.8~2.4L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
ヨーバルフロアブル		50倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内		
シロイチモジマダラメイガ		スミチオン乳剤	8倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	4回以内	
		スミチオン乳剤	8倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	4回以内	
ウコンノメイガ		スミチオン乳剤	8倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	4回以内	
		フェニックスフロアブル	32~64倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	フェニックスフロアブル	20~40倍	1L/10a	収穫7日前まで	3回以内		
	フェニックスフロアブル	16~32倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内		
	プレバゾンフロアブル5	16~32倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内		
	ヨーバルフロアブル	50倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内		

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	
だいず	ハスモンヨトウ	アタプロン乳剤	16倍	0.8~ 1.6L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
		アタプロン乳剤	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
		アミスタートレボンSE	8倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	2回以内	
		カスケード乳剤	32倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		トルネードエースDF	8~16倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		トレボンエア	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
		トレボンスカイMC	8~16倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
		ノーモルト乳剤	8~16倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
		ハスモン天敵	8倍	0.8L/10a	発生初期	-	
		ファイントリムDF	8~16倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		フェニックスフロアブル	32~64倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		フェニックスフロアブル	20~40倍	1L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		フェニックスフロアブル	16~32倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		プレオフロアブル	8~16倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		プレバゾンフロアブル5	16~32倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		ベガサスフロアブル	16~32倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		ベネビアOD	32倍	0.8~ 2.4L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		マトリックフロアブル	8~16倍	0.8mL/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ヨーバルフロアブル	50倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		ランナーフロアブル	16倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	ロムダンエア	16倍	0.8mL/10a	収穫14日前まで	3回以内		
	ハダニ類	カスケード乳剤	32倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	オオタバコガ	フェニックスフロアブル	20~40倍	1L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		フェニックスフロアブル	16~32倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		フェニックスフロアブル	32~64倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		プレバゾンフロアブル5	16~32倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	ダイズサヤムシガ	スミチオン乳剤	8倍	0.8mL/10a	収穫21日前まで	4回以内	
	ツメクサガ	カスケード乳剤	32倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		トレボンエア	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
		フェニックスフロアブル	16~32倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		フェニックスフロアブル	20~40倍	1L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	フェニックスフロアブル	フェニックスフロアブル	32~64倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		フェニックスフロアブル	32~64倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		フェニックスフロアブル	32~64倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		フェニックスフロアブル	32~64倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	フタスジヒメハムシ	カスケード乳剤	32倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		スタークルメイト液剤10	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		スタークル液剤10	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		ダイアジノン粒剤10	3kg/10a		収穫30日前まで	4回以内	
	かんきつ	そうか病	ICボルドー66D	2倍	10L/10a	-	-
			デランフロアブル	20倍	10L/10a	収穫30日前まで	3回以内
			ナティーボフロアブル	24倍	4~ 10L/10a	収穫前日まで	3回以内
ナティーボフロアブル			50倍	7.5~ 22L/10a	収穫前日まで	3回以内	
ナティーボフロアブル			32倍	6~ 14L/10a	収穫前日まで	3回以内	
ナティーボフロアブル			36倍	10~ 16L/10a	収穫前日まで	3回以内	
ナティーボフロアブル			200倍	30~ 88L/10a	収穫前日まで	3回以内	
ナティーボフロアブル			100倍	15~ 44L/10a	収穫前日まで	3回以内	
黒点病		ICボルドー66D	2倍	10L/10a	-	-	
		デランフロアブル	20倍	10L/10a	収穫30日前まで	3回以内	
		ナティーボフロアブル	24倍	4~ 10L/10a	収穫前日まで	3回以内	
黒点病		ナティーボフロアブル	32倍	6~ 14L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ナティーボフロアブル	36倍	10~ 16L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ナティーボフロアブル	50倍	7.5~ 22L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ナティーボフロアブル	100倍	15~ 44L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ナティーボフロアブル	200倍	30~ 88L/10a	収穫前日まで	3回以内	
灰色かび病		ナティーボフロアブル	200倍	30~ 88L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ナティーボフロアブル	100倍	15~ 44L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ナティーボフロアブル	24倍	4~ 10L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ナティーボフロアブル	32倍	6~ 14L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ナティーボフロアブル	36倍	10~ 16L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ナティーボフロアブル	50倍	7.5~ 22L/10a	収穫前日まで	3回以内	

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数
かんきつ	灰色かび病	バレード15フロアブル	20倍	4~5L/10a	収穫7日前まで	2回以内
		バレード15フロアブル	40倍	8~10L/10a	収穫7日前まで	2回以内
	炭疽病(さび果)	ナティーボフロアブル	24倍	4~10L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ナティーボフロアブル	32倍	6~14L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ナティーボフロアブル	36倍	10~16L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ナティーボフロアブル	50倍	7.5~22L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ナティーボフロアブル	100倍	15~44L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ナティーボフロアブル	200倍	30~88L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ナティーボフロアブル	24倍	4~10L/10a	収穫前日まで	3回以内
	貯蔵病害(青かび病)	ナティーボフロアブル	32倍	6~14L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ナティーボフロアブル	36倍	10~16L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ナティーボフロアブル	50倍	7.5~22L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ナティーボフロアブル	100倍	15~44L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ナティーボフロアブル	200倍	30~88L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ナティーボフロアブル	24倍	4~10L/10a	収穫前日まで	3回以内
	貯蔵病害(緑かび病)	ナティーボフロアブル	32倍	6~14L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ナティーボフロアブル	36倍	10~16L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ナティーボフロアブル	50倍	7.5~22L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ナティーボフロアブル	100倍	15~44L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ナティーボフロアブル	200倍	30~88L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ナティーボフロアブル	24倍	4~10L/10a	収穫前日まで	3回以内
	幹腐病	ICボルドー66D	2倍	10L/10a	-	-
	汚れ果症	ナティーボフロアブル	50倍	7.5~22L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ナティーボフロアブル	36倍	10~16L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ナティーボフロアブル	24倍	4~10L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ナティーボフロアブル	100倍	15~44L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ナティーボフロアブル	32倍	6~14L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ナティーボフロアブル	200倍	30~88L/10a	収穫前日まで	3回以内
	カムシ類	アドマイヤープラスフロアブル	40~50倍	7.5~15L/10a	収穫21日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内
		アドマイヤープラスフロアブル	100倍	15~30L/10a	収穫21日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内
アドマイヤープラスフロアブル		32倍	4~7.5L/10a	収穫21日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内	
アドマイヤープラスフロアブル		200倍	30~50L/10a	収穫21日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内	
アドマイヤーフロアブル		80倍	8~20L/10a	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内	
アドマイヤーフロアブル		40倍	4~10L/10a	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内	
アドマイヤーフロアブル		20倍	4~5L/10a	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内	
ダントツ水溶剤		48倍	4~16L/10a	収穫前日まで	3回以内	
ダントツ水溶剤		24倍	4~8L/10a	収穫前日まで	3回以内	
ダントツ水溶剤		24倍	4~8L/10a	収穫前日まで	3回以内	
アオバハコロモ	ダントツ水溶剤	24倍	4~8L/10a	収穫前日まで	3回以内	

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数
かんきつ	アオバハゴロモ	ダントツ水溶剤	48倍	4~ 16L/10a	収穫前日まで	3回以内
		アカマルカイガラムシ	ダントツ水溶剤	24倍	4~8L/10a	収穫前日まで
	アゲハ類	ダントツ水溶剤	48倍	4~ 16L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ダントツ水溶剤	24倍	4~8L/10a	収穫前日まで	3回以内
	アザミマ類	アグリメック	12倍	4L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		アグリメック	24倍	8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		アグリメック	30倍	10L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		アドマイヤープラスフロアブル	32倍	4~ 7.5L/10a	収穫21日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内
		アドマイヤープラスフロアブル	40~50倍	7.5~ 15L/10a	収穫21日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内
		アドマイヤープラスフロアブル	100倍	15~ 30L/10a	収穫21日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内
		アドマイヤープラスフロアブル	200倍	30~ 50L/10a	収穫21日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内
		アドマイヤーフロアブル	20倍	4~5L/10a	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内
		アドマイヤーフロアブル	40倍	4~ 10L/10a	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内
		アドマイヤーフロアブル	80倍	8~ 20L/10a	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内
		ダントツ水溶剤	24倍	4~8L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ダントツ水溶剤	48倍	4~ 16L/10a	収穫前日まで	3回以内
		モベントフロアブル	32倍	4~6L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	40倍	6~8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	50倍	8~ 10L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	80倍	10~ 15L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	100倍	15~ 20L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	160倍	20~ 30L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	250倍	30~ 40L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	320倍	40~ 50L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	アブラムシ類	アドマイヤープラスフロアブル	32倍	4~ 7.5L/10a	収穫21日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内
		アドマイヤープラスフロアブル	40~50倍	7.5~ 15L/10a	収穫21日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内
		アドマイヤープラスフロアブル	100倍	15~ 30L/10a	収穫21日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内
		アドマイヤープラスフロアブル	200倍	30~ 50L/10a	収穫21日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内
		アドマイヤーフロアブル	20倍	4~5L/10a	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内
		アドマイヤーフロアブル	40倍	4~ 10L/10a	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内
		アドマイヤーフロアブル	80倍	8~ 20L/10a	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内
		コルト顆粒水和剤	16倍	4L/10a	収穫前日まで	3回以内
		コルト顆粒水和剤	20倍	5L/10a	収穫前日まで	3回以内
		コルト顆粒水和剤	40倍	10L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ダントツ水溶剤	24倍	4~8L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ダントツ水溶剤	48倍	4~ 16L/10a	収穫前日まで	3回以内
		モベントフロアブル	32倍	4~6L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	40倍	6~8L/10a	収穫7日前まで	3回以内

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数
かんきつ	アブラムシ類	モベントフロアブル	50倍	8～ 10L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	80倍	10～ 15L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	100倍	15～ 20L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	160倍	20～ 30L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	250倍	30～ 40L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	320倍	40～ 50L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	カイガラムシ類	モベントフロアブル	32倍	4～6L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	40倍	6～8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	50倍	8～ 10L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	80倍	10～ 15L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	100倍	15～ 20L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	160倍	20～ 30L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	250倍	30～ 40L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	320倍	40～ 50L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	かいよう病	ICボルドー66D	2倍	10L/10a	-	-
	カタツムリ類	ICボルドー66D	2倍	10L/10a	発生前～発生初期	-
	カネタタキ	ダントツ水溶剤	24倍	4～8L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ダントツ水溶剤	48倍	8～ 16L/10a	収穫前日まで	3回以内
	ケシクスイ類	ダントツ水溶剤	24倍	4～8L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ダントツ水溶剤	48倍	4～ 16L/10a	収穫前日まで	3回以内
	コアオハナムグリ	ダントツ水溶剤	24倍	4～8L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ダントツ水溶剤	48倍	4～ 16L/10a	収穫前日まで	3回以内
	コナカイガラムシ類	ダントツ水溶剤	24倍	4～8L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ダントツ水溶剤	48倍	4～ 16L/10a	収穫前日まで	3回以内
	コナシラミ類	ダントツ水溶剤	24倍	4～8L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ダントツ水溶剤	48倍	4～ 16L/10a	収穫前日まで	3回以内
	ゴマダラカミキリ	ダントツ水溶剤	24倍	4～8L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ダントツ水溶剤	48倍	4～ 16L/10a	収穫前日まで	3回以内
	ゴマダラカミキリ成虫	アドマイヤーフロアブル	20倍	4～5L/10a	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内
		アドマイヤーフロアブル	40倍	4～ 10L/10a	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内
アドマイヤーフロアブル		80倍	8～ 20L/10a	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内	
アドマイヤープラスフロアブル		32倍	4～ 7.5L/10a	収穫21日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内	
アドマイヤープラスフロアブル		40～50倍	7.5～ 15L/10a	収穫21日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内	
アドマイヤープラスフロアブル		100倍	15～ 30L/10a	収穫21日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内	
アドマイヤープラスフロアブル		200倍	30～ 50L/10a	収穫21日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内	
サビダニ類	モベントフロアブル	32倍	4～6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	モベントフロアブル	40倍	6～8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	モベントフロアブル	50倍	8～ 10L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	モベントフロアブル	80倍	10～ 15L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	モベントフロアブル	100倍	15～ 20L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	モベントフロアブル	160倍	20～ 30L/10a	収穫7日前まで	3回以内	

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数
かんきつ	サビダニ類	モベントフロアブル	250倍	30～ 40L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	320倍	40～ 50L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	チャノホコリダニ	アグリメック	12倍	4L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		アグリメック	24倍	8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		アグリメック	30倍	10L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	32倍	4～6L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	40倍	6～8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	50倍	8～ 10L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	80倍	10～ 15L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	100倍	15～ 20L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	160倍	20～ 30L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	250倍	30～ 40L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	ツノウムシ	ダントツ水溶剤	24倍	4～8L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ダントツ水溶剤	48倍	4～ 16L/10a	収穫前日まで	3回以内
	ナシマルカイガラムシ	ダントツ水溶剤	24倍	4～8L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ダントツ水溶剤	48倍	4～ 16L/10a	収穫前日まで	3回以内
	ナメクジ類	ICボルドー66D	2倍	10L/10a	発生前～発生初期	-
	ミカンキジメ	アドマイヤーフロアブル	20倍	4～5L/10a	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内
		アドマイヤーフロアブル	40倍	4～ 10L/10a	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内
		アドマイヤーフロアブル	80倍	8～ 20L/10a	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内
		ダントツ水溶剤	24倍	4～8L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ダントツ水溶剤	48倍	4～ 16L/10a	収穫前日まで	3回以内
	ミカンサビダニ	アグリメック	12倍	4L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		アグリメック	24倍	8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		アグリメック	30倍	10L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	ミカンハエ	アドマイヤーフロアブル	20倍	4～5L/10a	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内
		アドマイヤーフロアブル	40倍	4～ 10L/10a	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内
		アドマイヤーフロアブル	80倍	8～ 20L/10a	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内
		ダントツ水溶剤	24倍	4～8L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ダントツ水溶剤	48倍	4～ 16L/10a	収穫前日まで	3回以内
	ミカンハエ成虫	アドマイヤープラスフロアブル	32倍	4～ 7.5L/10a	収穫21日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内
		アドマイヤープラスフロアブル	40～50倍	7.5～ 15L/10a	収穫21日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内
アドマイヤープラスフロアブル		100倍	15～ 30L/10a	収穫21日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内	
アドマイヤープラスフロアブル		200倍	30～ 50L/10a	収穫21日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内	
ミカンホモグリガ	アグリメック	12倍	4L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	アグリメック	24倍	8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	アグリメック	30倍	10L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	アドマイヤーフロアブル	20倍	4～5L/10a	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内	
	アドマイヤーフロアブル	40倍	4～ 10L/10a	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内	

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数
かんきつ	ミカンハモグリガ	アドマイヤーフロアブル	80倍	8～ 20L/10a	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内
		ダントツ水溶剤	24倍	4～8L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ダントツ水溶剤	48倍	4～ 16L/10a	収穫前日まで	3回以内
	ミカンハモグリガ	アドマイヤープラスフロアブル	32倍	4～ 7.5L/10a	収穫21日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内
		アドマイヤープラスフロアブル	40～50倍	7.5～ 15L/10a	収穫21日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内
		アドマイヤープラスフロアブル	100倍	15～ 30L/10a	収穫21日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内
		アドマイヤープラスフロアブル	200倍	30～ 50L/10a	収穫21日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内
	かんきつ(みかんを除く)	黒点病	ジマンダイセン水和剤	5倍	4L/10a	収穫90日前まで
ジマンダイセン水和剤			10倍	8L/10a	収穫90日前まで	4回以内
ジマンダイセン水和剤			20倍	16L/10a	収穫90日前まで	4回以内
貯蔵病害(こうじかび)		ベフトップジンフロアブル	25倍	8L/10a	収穫前日まで	2回以内
貯蔵病害(すす斑病)		ベフトップジンフロアブル	25倍	8L/10a	収穫前日まで	2回以内
貯蔵病害(黒斑病)		ベフトップジンフロアブル	25倍	8L/10a	収穫前日まで	2回以内
貯蔵病害(黒腐病)		ベフトップジンフロアブル	25倍	8L/10a	収穫前日まで	2回以内
貯蔵病害(軸腐病)		トップジンMゾル	15倍	5L/10a	収穫前日まで	5回以内
		トップジンMゾル	30倍	10L/10a	収穫前日まで	5回以内
		ベフトップジンフロアブル	25倍	8L/10a	収穫前日まで	2回以内
貯蔵病害(青かび病)		トップジンMゾル	15倍	5L/10a	収穫前日まで	5回以内
		トップジンMゾル	30倍	10L/10a	収穫前日まで	5回以内
		ベフトップジンフロアブル	25倍	8L/10a	収穫前日まで	2回以内
貯蔵病害(炭疽病)		ベフトップジンフロアブル	25倍	8L/10a	収穫前日まで	2回以内
貯蔵病害(白かび病)		ベフトップジンフロアブル	25倍	8L/10a	収穫前日まで	2回以内
貯蔵病害(緑かび病)		トップジンMゾル	15倍	5L/10a	収穫前日まで	5回以内
貯蔵病害(緑かび病)		トップジンMゾル	30倍	10L/10a	収穫前日まで	5回以内
貯蔵病害(緑かび病)		ベフトップジンフロアブル	25倍	8L/10a	収穫前日まで	2回以内
みかん	アサミカ類	スミチオン乳剤	10倍	5L/10a	収穫14日前まで	5回以内
	ケシスイ類	スミチオン乳剤	10倍	5L/10a	収穫14日前まで	5回以内
	コアホナムグリ	スミチオン乳剤	10倍	5L/10a	収穫14日前まで	5回以内
	灰色かび病	バルコートフロアブル	10倍	4L/10a	収穫3日前まで	3回以内
		バルコートフロアブル	20倍	8L/10a	収穫3日前まで	3回以内
	黒点病	ジマンダイセン水和剤	5倍	4L/10a	収穫30日前まで	4回以内
		ジマンダイセン水和剤	10倍	8L/10a	収穫30日前まで	4回以内
		ジマンダイセン水和剤	20倍	16L/10a	収穫30日前まで	4回以内
	貯蔵病害(こうじかび)	ベフトップジンフロアブル	25倍	8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	貯蔵病害(すす斑病)	ベフトップジンフロアブル	25倍	8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	貯蔵病害(黒斑病)	ベフトップジンフロアブル	25倍	8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	貯蔵病害(黒腐病)	ベフトップジンフロアブル	25倍	8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	貯蔵病害(軸腐病)	トップジンMゾル	10～15倍	5L/10a	収穫前日まで	5回以内
		トップジンMゾル	20～30倍	10L/10a	収穫前日まで	5回以内
		ベフトップジンフロアブル	25倍	8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	貯蔵病害(青かび病)	トップジンMゾル	10～15倍	5L/10a	収穫前日まで	5回以内
		トップジンMゾル	20～30倍	10L/10a	収穫前日まで	5回以内
		ベフトップジンフロアブル	25倍	8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	バルコートフロアブル	10倍	5L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
	バルコートフロアブル	20倍	10L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
	貯蔵病害(炭疽病)	ベフトップジンフロアブル	25倍	8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	貯蔵病害(白かび病)	ベフトップジンフロアブル	25倍	8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	貯蔵病害(緑かび病)	トップジンMゾル	10～15倍	5L/10a	収穫前日まで	5回以内
		トップジンMゾル	20～30倍	10L/10a	収穫前日まで	5回以内
		ベフトップジンフロアブル	25倍	8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	バルコートフロアブル	10倍	5L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
	バルコートフロアブル	20倍	10L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
かき	落葉病	スコア顆粒水和剤	40倍	8L/10a	収穫前日まで	3回以内
ぶどう	べと病	イデクリーン水和剤	4倍	1L/10a	-	-
		イデクリーン水和剤	40倍	10L/10a	-	-
		園芸ボルドー	4倍	1L/10a	-	-
		園芸ボルドー	40倍	10L/10a	-	-
くり	クスサン	フェニックスフロアブル	40倍	2～4L/10a	収穫前日まで	2回以内
	クリシグゾウムシ	マブリック水和剤20	20倍	2L/10a	収穫7日前まで	2回以内
		マブリック水和剤20	40倍	2～4L/10a	収穫7日前まで	2回以内
	モモノコマガラノメイガ	ディアナWDG	100倍	2L/10a	収穫前日まで	2回以内
		デリゲートWDG	100倍	2L/10a	収穫前日まで	2回以内
		フェニックスフロアブル	40倍	2～4L/10a	収穫前日まで	2回以内
うめ	すす斑病	デランフロアブル	40～50倍	10L/10a	収穫14日前まで	2回以内
	黒星病	デランフロアブル	40～50倍	10L/10a	収穫14日前まで	2回以内
びわ	カラムシ類	テルスターフロアブル	30倍	4L/10a	収穫前日まで	2回以内

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数
びわ	炭疽病	アミスター10フロアブル	10倍	4L/10a	収穫7日前まで	3回以内
かぼちゃ	アブラムシ類	モベントフロアブル	24倍	1.6~ 3.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	50倍	3.6~ 7.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	100倍	7.5~ 15L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	うどんこ病	インプレッション水和剤	16倍	3.2L/10a	発病前~発病初期まで	-
		ショウチノスケフロアブル	32倍	1.6L/10a	収穫前日まで	2回以内
		スコア顆粒水和剤	12倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	3回以内
		セレナーデ水和剤	16倍	3.2L/10a	発病前~発病初期まで	-
		ダコニールエース	8倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		ダコニールエース	16倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		ベジセイバー	16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	コナジラミ類	モベントフロアブル	24倍	1.6~ 3.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	50倍	3.6~ 7.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	100倍	7.5~ 15L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	つる枯病	ベジセイバー	16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	トマトハモグリバエ	カスケード乳剤	16倍	0.8L/10a	収穫前日まで	3回以内
		カスケード乳剤	16~32倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内
		カスケード乳剤	32~64倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内
	ハスモンヨトウ	ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内
	ハダニ類	モベントフロアブル	24倍	1.6~ 3.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	50倍	3.6~ 7.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内
モベントフロアブル		100倍	7.5~ 15L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
ハモグリバエ類	ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
べと病	ベジセイバー	16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
白斑病	ベジセイバー	16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
かぼちゃ(露地栽培)	うどんこ病	サルバトールME	32倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内
だいこん	アオムシ	カスケード乳剤	16~24倍	0.8~ 1.6L/10a	収穫14日前まで	3回以内
		カスケード乳剤	32倍	1.6~ 3.2L/10a	収穫14日前まで	3回以内
		トレボンエアー	8倍	1.6L/10a	収穫21日前まで	3回以内
		ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内
	アブラムシ類	アルバリン液剤10	8~16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内
		スタークルメイト液剤10	8~16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内
		スタークル液剤10	8~16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内
		トレボンエアー	8倍	1.6L/10a	収穫21日前まで	3回以内
		ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内
	カブラハバチ類	ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内
	キスジ/ミハムシ	ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内
	コナガ	カスケード乳剤	16~24倍	0.8~ 1.6L/10a	収穫14日前まで	3回以内
		カスケード乳剤	32倍	1.6~ 3.2L/10a	収穫14日前まで	3回以内
		ノーモルト乳剤	8倍	0.8L/10a	収穫21日前まで	2回以内
		ノーモルト乳剤	16倍	1.6L/10a	収穫21日前まで	2回以内
		ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内
	ダイコンハムシ	ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内
	ハイマダラメイガ	カスケード乳剤	16~24倍	0.8~ 1.6L/10a	収穫14日前まで	3回以内
		カスケード乳剤	32倍	1.6~ 3.2L/10a	収穫14日前まで	3回以内
		ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内
	ハモグリバエ類	ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内
	ヨトウムシ	トレボンエアー	8倍	1.6L/10a	収穫21日前まで	3回以内
		ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内
	黒斑細菌病	Zボルドー	16倍	3.2L/10a	-	-
		フジドールフロアブル	8倍	1.6L/10a	-	-
		フジドールフロアブル	10倍	2.0L/10a	-	-
		フジドールフロアブル	16倍	3.2L/10a	-	-
	軟腐病	Zボルドー	16倍	1.6~ 3.2L/10a	-	-
Zボルドー		16倍	3.2L/10a	-	-	
白さび病	Zボルドー	16倍	3.2L/10a	-	-	
	フジドールフロアブル	8倍	1.6L/10a	-	-	
	フジドールフロアブル	10倍	2.0L/10a	-	-	
	フジドールフロアブル	16倍	3.2L/10a	-	-	
キャベツ	アオムシ	アクセルフロアブル	8倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内
		アクセルフロアブル	10倍	2L/10a	収穫前日まで	3回以内
		アクセルフロアブル	16倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数
キャベツ	アオムシ	アフーム乳剤	4倍	0.8L/10a	収穫前日まで	3回以内
		アフーム乳剤	8倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内
		アフーム乳剤	16倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内
		カスケード乳剤	16~24倍	0.8~ 1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内
		カスケード乳剤	32倍	1.6~ 3.2L/10a	収穫7日前まで	2回以内
		トルネードエースDF	10倍	1~2L/10a	収穫7日前まで	2回以内
		トレボンエア-	8倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	3回以内
		フェニックス顆粒水和剤	16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内
		フェニックス顆粒水和剤	20倍	2L/10a	収穫前日まで	3回以内
		フェニックス顆粒水和剤	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内
		プレバツンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内
		ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内
		モベントフロアブル	24倍	1.6~ 1.7L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	32倍	1.7~ 2L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	40倍	2~ 2.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	50倍	2.8~ 3.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	64倍	3.5~ 4.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	80倍	4.5~ 5.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	100倍	5.5~ 7L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	125倍	7~ 8.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	モベントフロアブル	160倍	8.5~ 11L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	モベントフロアブル	200倍	11~ 14L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	モベントフロアブル	250倍	14~ 17L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	モベントフロアブル	320倍	17~ 20L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	アザミウマ類	カスケード乳剤	16~24倍	0.8~ 1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内
		カスケード乳剤	32倍	1.6~ 3.2L/10a	収穫7日前まで	2回以内
		ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内
		モベントフロアブル	24倍	1.6~ 1.7L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	32倍	1.7~ 2L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	40倍	2~ 2.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	50倍	2.8~ 3.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内
モベントフロアブル		64倍	3.5~ 4.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
モベントフロアブル		80倍	4.5~ 5.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
アザミウマ類		モベントフロアブル	100倍	5.5~ 7L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	モベントフロアブル	125倍	7~ 8.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	モベントフロアブル	160倍	8.5~ 11L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	モベントフロアブル	200倍	11~ 14L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	モベントフロアブル	250倍	14~ 17L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	モベントフロアブル	320倍	17~ 20L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	アブラムシ類	アドマイヤーフロアブル	150倍	4~5L/10a	収穫7日前まで	2回以内
アドマイヤーフロアブル		32倍	1.6~ 2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
アルバリン液剤10		8~16倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	2回以内	
コルト顆粒水和剤		20倍	2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
コルト顆粒水和剤		16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
コルト顆粒水和剤		32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
スタークルメイト液剤10		8~16倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	2回以内	
スタークル液剤10		8~16倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	2回以内	

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	
キャベツ	アブラムシ類	トレボンエアー	8倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		モベントフロアブル	24倍	1.6~ 1.7L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	32倍	1.7~ 2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	40倍	2~ 2.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	50倍	2.8~ 3.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	64倍	3.5~ 4.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	80倍	4.5~ 5.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	100倍	5.5~ 7L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	125倍	7~ 8.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	160倍	8.5~ 11L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	200倍	11~ 14L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	250倍	14~ 17L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	320倍	17~ 20L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		ウワバ類	ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内
	フェニックス顆粒水和剤		20倍	2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	フェニックス顆粒水和剤		32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	フェニックス顆粒水和剤		16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	アクセルフロアブル		10倍	2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	アクセルフロアブル		8倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	アクセルフロアブル		16倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	プレバゾンフロアブル5		20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	トルネードエースDF		10倍	1~2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	ベネビアOD		20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	ヨーバルフロアブル		25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	オオタバコガ		アクセルフロアブル	16倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内
			アクセルフロアブル	10倍	2L/10a	収穫前日まで	3回以内
			アクセルフロアブル	8倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内
			カスケード乳剤	32倍	1.6~ 3.2L/10a	収穫7日前まで	2回以内
		カスケード乳剤	16~24倍	0.8~ 1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	20倍	2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		コナガ	アクセルフロアブル	10倍	2L/10a	収穫前日まで	3回以内
			アクセルフロアブル	16倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内
			アクセルフロアブル	8倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内
			アファーム乳剤	16倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内
			アファーム乳剤	4倍	0.8L/10a	収穫前日まで	3回以内
	アファーム乳剤		8倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	カスケード乳剤		16~24倍	0.8~ 1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	カスケード乳剤		32倍	1.6~ 3.2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	トルネードエースDF		10倍	1~2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	ノーモルト乳剤		16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
フェニックス顆粒水和剤	16倍		1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内		
フェニックス顆粒水和剤	20倍		2L/10a	収穫前日まで	3回以内		
フェニックス顆粒水和剤	32倍		3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内		
プレバゾンフロアブル5	20倍		1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内		
ベネビアOD	20倍		1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内		
モベントフロアブル	24倍		1.6~ 1.7L/10a	収穫7日前まで	3回以内		
モベントフロアブル	32倍		1.7~ 2L/10a	収穫7日前まで	3回以内		
モベントフロアブル	40倍		2~ 2.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内		
モベントフロアブル	50倍		2.8~ 3.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内		
モベントフロアブル	64倍		3.5~ 4.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内		

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	
キャベツ	コナガ	モベントフロアブル	80倍	4.5~ 5.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	100倍	5.5~ 7L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	125倍	7~ 8.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	160倍	8.5~ 11L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	200倍	11~ 14L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	250倍	14~ 17L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	320倍	17~ 20L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	シロイチモジヨトウ	カスケード乳剤	16~24倍	0.8~ 1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		カスケード乳剤	32倍	1.6~ 3.2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		トルネードエースDF	10倍	1~2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	タマナギノウバ	アフファーム乳剤	4倍	0.8L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アフファーム乳剤	8倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アフファーム乳剤	16倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		カスケード乳剤	16~24倍	0.8~ 1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		カスケード乳剤	32倍	1.6~ 3.2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	ハイマダラノメイガ	カスケード乳剤	16~24倍	0.8~ 1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		カスケード乳剤	32倍	1.6~ 3.2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		アフファーム乳剤	4倍	0.8L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アフファーム乳剤	8倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アフファーム乳剤	16倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		トルネードエースDF	10倍	1~2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ハスモンヨトウ	カスケード乳剤	16~24倍	0.8~ 1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内
	カスケード乳剤		32倍	1.6~ 3.2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	アフファーム乳剤		16倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	アフファーム乳剤		4倍	0.8L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	アフファーム乳剤		8倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	フェニックス顆粒水和剤		20倍	2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	フェニックス顆粒水和剤		32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	フェニックス顆粒水和剤		16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	アクセルフロアブル		8倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	アクセルフロアブル		16倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	アクセルフロアブル		10倍	2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	プレバゾンフロアブル5		20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	トルネードエースDF		10倍	1~2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	ベネビアOD		20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	ヨーバルフロアブル		25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	ヨトウムシ		アクセルフロアブル	8倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内
			アクセルフロアブル	10倍	2L/10a	収穫前日まで	3回以内
			アクセルフロアブル	16倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内
			アフファーム乳剤	4倍	0.8L/10a	収穫前日まで	3回以内
			アフファーム乳剤	8倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内
		アフファーム乳剤	16倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		カスケード乳剤	16~24倍	0.8~ 1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		カスケード乳剤	32倍	1.6~ 3.2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
トルネードエースDF		10倍	1~2L/10a	収穫7日前まで	2回以内		
トレボンエアー		8倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	3回以内		
フェニックス顆粒水和剤		16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内		
フェニックス顆粒水和剤		20倍	2L/10a	収穫前日まで	3回以内		
フェニックス顆粒水和剤		32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内		
プレバゾンフロアブル5		20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内		
ベネビアOD		20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内		
ヨーバルフロアブル		25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内		
べと病		オロンディスウルトラSC	16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		ベジセイバー	16倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
株腐病		ベジセイバー	16倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	2回以内	

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	
キャベツ	菌核病	パレード20フロアブル	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		パレード20フロアブル	20倍	2.0L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		パレード20フロアブル	16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		バジセイバー	16倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
	黒腐病	Zボルドー	16倍	1.6～ 3.2L/10a	-	-	
		フジドーLフロアブル	8倍	1.6L/10a	-	-	
		フジドーLフロアブル	10倍	2.0L/10a	-	-	
		フジドーLフロアブル	16倍	3.2L/10a	-	-	
	軟腐病	Zボルドー	16倍	1.6～ 3.2L/10a	-	-	
	ブロッコリー	アオムシ	アフターム乳剤	4倍	0.8L/10a	収穫3日前まで	3回以内
アフターム乳剤			8倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
アフターム乳剤			16倍	3.2L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
カスケード乳剤			32倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
カスケード乳剤			64倍	1.6～ 3.2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
トルネードエースDF			20倍	1～2L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
トレボンエアア			8倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
プレバツインフロアブル5			20倍	1～2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
ベネビアOD			20倍	1～2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
ヨーバルフロアブル			25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
アザミウマ類		カスケード乳剤	32倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		カスケード乳剤	64倍	1.6～ 3.2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		ベネビアOD	20倍	1～2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		モベントフロアブル	24倍	1.6～ 1.7L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	32倍	1.7～ 2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	40倍	2～ 2.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	50倍	2.8～ 3.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	64倍	3.5～ 4.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	80倍	4.5～ 5.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	100倍	5.5～ 7L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	125倍	7～ 8.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	160倍	8.5～ 11L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	200倍	11～ 14L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	250倍	14～ 17L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	320倍	17～ 20L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		アブラムシ類	アドマイヤーフロアブル	24倍	1.6～ 2L/10a	収穫3日前まで	2回以内
			アドマイヤーフロアブル	80倍	4～5L/10a	収穫3日前まで	2回以内
			アルパリン液剤10	8～16倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	2回以内
コルト顆粒水和剤			25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
コルト顆粒水和剤			32倍	2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
コルト顆粒水和剤			50倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
スタークルメイト液剤10			8～16倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	2回以内	
スタークル液剤10			8～16倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	2回以内	
ベネビアOD			20倍	1～2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
モベントフロアブル			24倍	1.6～ 1.7L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
モベントフロアブル			32倍	1.7～ 2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
モベントフロアブル			40倍	2～ 2.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
モベントフロアブル			50倍	2.8～ 3.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
モベントフロアブル			64倍	3.5～ 4.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
モベントフロアブル			80倍	4.5～ 5.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
モベントフロアブル			100倍	5.5～ 7L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
モベントフロアブル			125倍	7～ 8.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
モベントフロアブル	160倍		8.5～ 11L/10a	収穫7日前まで	3回以内		

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	
ブロッコリー	アブラムシ類	モベントフロアブル	200倍	11~ 14L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	250倍	14~ 17L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	320倍	17~ 20L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	ウバ類	ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	オオタバコガ	アフアーム乳剤	8倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		アフアーム乳剤	4倍	0.8L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		アフアーム乳剤	16倍	3.2L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
	コナガ	アクセルフロアブル	16倍	3.2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		アクセルフロアブル	8倍	1.6L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		アクセルフロアブル	10倍	2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		アフアーム乳剤	8倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		アフアーム乳剤	4倍	0.8L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		アフアーム乳剤	16倍	3.2L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		カスケード乳剤	32倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		カスケード乳剤	64倍	1.6~ 3.2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		トルネードエースDF	20倍	1~2L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	20倍	2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		シロイチモジヨトウ	トルネードエースDF	20倍	1~2L/10a	収穫14日前まで	2回以内
			ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内
	ヨーバルフロアブル		25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	ハイマダラノメイガ	プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	ハスモンヨトウ	アクセルフロアブル	16倍	3.2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		アクセルフロアブル	8倍	1.6L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		アクセルフロアブル	10倍	2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		アフアーム乳剤	16倍	3.2L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		アフアーム乳剤	8倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		アフアーム乳剤	4倍	0.8L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		カスケード乳剤	32倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		カスケード乳剤	64倍	1.6~ 3.2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		トルネードエースDF	20倍	1~2L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	20倍	2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ヨトウムシ	アクセルフロアブル	8倍	1.6L/10a	収穫前日まで	2回以内
			アクセルフロアブル	10倍	2L/10a	収穫前日まで	2回以内
	アクセルフロアブル		16倍	3.2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
	アフアーム乳剤		4倍	0.8L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
	アフアーム乳剤		8倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
	アフアーム乳剤		16倍	3.2L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
	カスケード乳剤		32倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	カスケード乳剤		64倍	1.6~ 3.2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	ヨトウムシ		フェニックス顆粒水和剤	16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	2回以内
			フェニックス顆粒水和剤	20倍	2L/10a	収穫前日まで	2回以内
フェニックス顆粒水和剤		32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	2回以内		
ヨーバルフロアブル		25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内		
べと病	ベジセイバー	16倍	1.6L/10a	出蕾前(但し、収穫21日前まで)	2回以内		
菌核病	ベジセイバー	16倍	1.6L/10a	出蕾前(但し、収穫21日前まで)	2回以内		
黒すす病	ベジセイバー	16倍	1.6L/10a	出蕾前(但し、収穫21日前まで)	2回以内		
	メジャーフロアブル	20倍	2.0L/10a	収穫前日まで	3回以内		
	メジャーフロアブル	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内		
	メジャーフロアブル	16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内		
黒腐病	Zボルドー	16倍	3.2L/10a	-	-		
はくさい	アトムシ	アクセルフロアブル	8倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アクセルフロアブル	10倍	2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アクセルフロアブル	16倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アフアーム乳剤	4倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		アフアーム乳剤	8倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		アフアーム乳剤	16倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	
はくさい	アオムシ	カスケード乳剤	16~24倍	0.8~ 1.6ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		カスケード乳剤	32倍	1.6~ 3.2ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		トルネードエースDF	10倍	1~2ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		トレボンエアー	8倍	1.6ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	16倍	1.6ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	20倍	2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	32倍	3.2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ヨーバルフロアブル	25倍	1.6ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
	アブラムシ類	アドマイヤーフロアブル	32倍	1.6~ 2ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		アドマイヤーフロアブル	150倍	4~5ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		コルト顆粒水和剤	24倍	1.6ℓ/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		コルト顆粒水和剤	30倍	2ℓ/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		コルト顆粒水和剤	48倍	3.2ℓ/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		トレボンエアー	8倍	1.6ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		ヨーバルフロアブル	25倍	1.6ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
	ウバ類	トルネードエースDF	10倍	1~2ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	オオタバコガ	フェニックス顆粒水和剤	16倍	1.6ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	20倍	2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	32倍	3.2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ヨーバルフロアブル	25倍	1.6ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
	カブラハバチ類	アクセルフロアブル	8倍	1.6ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アクセルフロアブル	10倍	2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アクセルフロアブル	16倍	3.2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		トルネードエースDF	10倍	1~2ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
	キスジ/ミハムシ	ヨーバルフロアブル	25倍	1.6ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アクセルフロアブル	8倍	1.6ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アクセルフロアブル	10倍	2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アクセルフロアブル	16倍	3.2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
	コナガ	アクセルフロアブル	10倍	2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アクセルフロアブル	16倍	3.2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アクセルフロアブル	8倍	1.6ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アフーム乳剤	4倍	0.8ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		アフーム乳剤	8倍	1.6ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		アフーム乳剤	16倍	3.2ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		カスケード乳剤	16~24倍	0.8~ 1.6ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		カスケード乳剤	32倍	1.6~ 3.2ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		トルネードエースDF	10倍	1~2ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	16倍	1.6ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	20倍	2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	32倍	3.2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ヨーバルフロアブル	25倍	1.6ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		シロイチモジヨトウ	トルネードエースDF	10倍	1~2ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内
		ダイコンハムシ	ヨーバルフロアブル	25倍	1.6ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内
	アクセルフロアブル		8倍	1.6ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
	アクセルフロアブル		10倍	2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
	ハイマダラメイガ	アクセルフロアブル	16倍	3.2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		トルネードエースDF	10倍	1~2ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
	ハスモンヨトウ	ヨーバルフロアブル	25倍	1.6ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アクセルフロアブル	8倍	1.6ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アクセルフロアブル	10倍	2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アクセルフロアブル	16倍	3.2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	16倍	1.6ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	20倍	2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	32倍	3.2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ヨーバルフロアブル	25倍	1.6ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
	べと病	アミスター-20フロアブル	16倍	1.6ℓ/10a	収穫7日前まで	4回以内	
		オロンディスウルトラSC	16倍	1.6ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	ヨトウムシ	アクセルフロアブル	8倍	1.6ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アクセルフロアブル	10倍	2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アクセルフロアブル	16倍	3.2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アフーム乳剤	16倍	3.2ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		アフーム乳剤	4倍	0.8ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		アフーム乳剤	8倍	1.6ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		カスケード乳剤	16~24倍	0.8~ 1.6ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		カスケード乳剤	32倍	1.6~ 3.2ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		トルネードエースDF	10倍	1~2ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	
はくさい	ヨウムシ	トレボシエアー	8倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	20倍	2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内		
	菌核病	バレード20フロアブル	16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
バレード20フロアブル		20倍	2.0L/10a	収穫前日まで	3回以内		
バレード20フロアブル		32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内		
レタス	アザミウマ類	モベントフロアブル	24倍	1.6~ 1.7L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	32倍	1.7~ 2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	40倍	2~ 2.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	50倍	2.8~ 3.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	64倍	3.5~ 4.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	80倍	4.5~ 5.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	100倍	5.5~ 7L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	125倍	7~ 8.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	160倍	8.5~ 11L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	200倍	11~ 14L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	250倍	14~ 17L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	320倍	17~ 20L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		アブラムシ類	アドマイヤーフロアブル	150倍	4~5L/10a	収穫3日前まで	2回以内
	アドマイヤーフロアブル		40倍	1.6~ 2L/10a	収穫3日前まで	2回以内	
	コルト顆粒水和剤		24倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	コルト顆粒水和剤		30倍	2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	コルト顆粒水和剤		48倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	トレボシエアー		8倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
	モベントフロアブル		24倍	1.6~ 1.7L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	モベントフロアブル		32倍	1.7~ 2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	モベントフロアブル		40倍	2~ 2.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	モベントフロアブル		50倍	2.8~ 3.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	モベントフロアブル		64倍	3.5~ 4.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	モベントフロアブル		80倍	4.5~ 5.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	モベントフロアブル		100倍	5.5~ 7L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	モベントフロアブル		125倍	7~ 8.5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	モベントフロアブル		160倍	8.5~ 11L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	アブラムシ類		モベントフロアブル	200倍	11~ 14L/10a	収穫7日前まで	3回以内
			モベントフロアブル	250倍	14~ 17L/10a	収穫7日前まで	3回以内
		モベントフロアブル	320倍	17~ 20L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	ウバ類	ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		トルネードエースDF	20倍	1~2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	20倍	2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	25倍	2.5L/10a	収穫前日まで	2回以内	
	オオタバコガ	ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アクセルフロアブル	10倍	2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アクセルフロアブル	16倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アクセルフロアブル	8倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アフーム乳剤	8倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		アフーム乳剤	16倍	3.2L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		アフーム乳剤	4倍	0.8L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
トルネードエースDF		20倍	1~2L/10a	収穫7日前まで	2回以内		
フェニックス顆粒水和剤		20倍	2L/10a	収穫前日まで	2回以内		
フェニックス顆粒水和剤		20倍	2L/10a	収穫前日まで	2回以内		

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	
レタス	オオタバコガ	フェニックス顆粒水和剤	16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	シロイチモジヨトウ	トルネードエースDF	20倍	1~2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		ナモグリハエ	アフーム乳剤	4倍	0.8L/10a	収穫3日前まで	3回以内
		アフーム乳剤	8倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		アフーム乳剤	16倍	3.2L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
	ハスモンヨトウ	アクセルフロアブル	8倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アクセルフロアブル	10倍	2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アクセルフロアブル	16倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アフーム乳剤	4倍	0.8L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		アフーム乳剤	8倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		アフーム乳剤	16倍	3.2L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		トルネードエースDF	20倍	1~2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	20倍	2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	ハモグリハエ類	プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	ヨトウムシ	トルネードエースDF	20倍	1~2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	20倍	2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	べと病	ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		アミスター20フロアブル	16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	4回以内	
	灰色かび病	オロンディスウルトラSC	16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		パレード20フロアブル	16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	菌核病	パレード20フロアブル	20倍	2.0L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		パレード20フロアブル	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		パレード20フロアブル	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	軟腐病	パレード20フロアブル	20倍	2.0L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		Zボルドー	16倍	1.6~ 3.2L/10a	-	-	
		フジドーLフロアブル	8倍	1.6L/10a	-	-	
		フジドーLフロアブル	10倍	2.0L/10a	-	-	
		フジドーLフロアブル	16倍	3.2L/10a	-	-	
	たまねぎ	アサミウマ類	アグロスリン乳剤	48倍	2.4L/10a	収穫7日前まで	5回以内
			トクチオン乳剤	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	4回以内
			トクチオン乳剤	16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	4回以内
			ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫14日前まで	3回以内
		シロイチモジヨトウ	アグロスリン乳剤	48倍	2.4L/10a	収穫7日前まで	5回以内
			トクチオン乳剤	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	4回以内
			トクチオン乳剤	16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	4回以内
			ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫14日前まで	3回以内
		ネギアサミウマ	オルトラン水和剤	16倍	1.6L/10a	収穫21日前まで	5回以内
		ネギハモグリハエ	オルトラン水和剤	16倍	1.6L/10a	収穫21日前まで	5回以内
			トクチオン乳剤	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	4回以内
トクチオン乳剤			16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	4回以内	
ハモグリハエ類		ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
ハスモンヨトウ		ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
べと病		オロンディスウルトラSC	16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		ザンプロDMフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		ザンプロDMフロアブル	16~24倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
べと病		ジャストフィットフロアブル	24倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		ベジセイバー	16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	4回以内	
灰色かび病		オンリーワンフロアブル	8倍	1.2~ 2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		オンリーワンフロアブル	16倍	2.4~ 4L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ストロビーフロアブル	10倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		ストロビーフロアブル	20倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		ストロビーフロアブル	40倍	3.2L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		スミレックス水和剤	16倍	2.4L/10a	収穫前日まで	5回以内	
		ダコニールエース	8倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	6回以内	
		ダコニールエース	16倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	6回以内	
		ベジセイバー	16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	4回以内	
灰色腐敗病		オンリーワンフロアブル	16倍	2.4~ 4L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		オンリーワンフロアブル	8倍	1.2~ 2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ストロビーフロアブル	10倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		ストロビーフロアブル	20倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		ストロビーフロアブル	40倍	3.2L/10a	収穫14日前まで	3回以内	

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	
たまねぎ	灰色腐敗病	トップジンMブル	16倍	2.4L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		トップジンMブル	5倍	0.8L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	小菌核病	ベジセイバー	16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	4回以内	
		ベジセイバー	16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	4回以内	
白色疫病	ザンプロDMフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内		
	ザンプロDMフロアブル	16~24倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内		
ねぎ	アザミウマ類	アファーム乳剤	8倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		アルバリン液剤10	10~16倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	2回以内	
		スタークルメイト液剤10	10~16倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	2回以内	
		スタークル液剤10	10~16倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	2回以内	
		ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		アブラムシ類	コルト顆粒水和剤	16倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	3回以内
	コルト顆粒水和剤		20倍	2L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
	コルト顆粒水和剤		32倍	3.2L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
	さび病	アミスター20フロアブル	16倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	4回以内	
		オンリーワンフロアブル	8倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		オンリーワンフロアブル	16倍	2.4~ 3.2L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		ベジセイバー	16倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
	シロイモシヨトウ	アクセルフロアブル	8倍	1.6L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		アクセルフロアブル	10倍	2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		アクセルフロアブル	16倍	3.2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		カスケード乳剤	32倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		カスケード乳剤	64倍	3.2L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		トルネードエースDF	10倍	1~2L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
		トレボンエアー	8倍	1.6L/10a	収穫21日前まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	20倍	2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	32倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		ネギアザミウマ	カスケード乳剤	32倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	3回以内
			カスケード乳剤	64倍	3.2L/10a	収穫14日前まで	3回以内
	コルト顆粒水和剤		16倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
	コルト顆粒水和剤		20倍	2L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
	ネギコガ	コルト顆粒水和剤	32倍	3.2L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	20倍	2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	32倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	ネギハモグリハエ	プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		カスケード乳剤	32倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		カスケード乳剤	64倍	3.2L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
	ハモグリハエ類	コルト顆粒水和剤	16倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		コルト顆粒水和剤	20倍	2L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		コルト顆粒水和剤	32倍	3.2L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		アファーム乳剤	8倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	べと病	プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		ベネビアOD	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
		ザンプロDMフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
黒斑病	ザンプロDMフロアブル	16~24倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	3回以内		
	ベジセイバー	16倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	2回以内		
	オロンディスウルトラSC	16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内		
	オンリーワンフロアブル	16倍	2.4~ 3.2L/10a	収穫14日前まで	3回以内		
小菌核腐敗病	オンリーワンフロアブル	8倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	3回以内		
	ベジセイバー	16倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	2回以内		
	ベジセイバー	16倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	2回以内		
白絹病	ベジセイバー	16倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	2回以内		
	ベジセイバー	16倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	2回以内		
葉枯病	アミスター20フロアブル	16倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	4回以内		
	ベジセイバー	16倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	2回以内		
にんじん	黒葉枯病	Zボルドー	16倍	3.2L/10a	-	-	
		ダコニール1000	16倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	5回以内	
		ダコニール1000	8倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	5回以内	
	軟腐病	Zボルドー	16倍	1.6~ 3.2L/10a	-	-	
斑点病	ベルコートフロアブル	8倍	2L/10a	収穫14日前まで	2回以内		
さといも	アブラムシ類	アドマイヤー顆粒水和剤	80倍	1.6~ 2L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
		アドマイヤー顆粒水和剤	200倍	2~4L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
		アドマイヤー顆粒水和剤	400倍	4~ 10L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
	ハスモンヨトウ	トルネードエースDF	20倍	1~2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内			

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	
さといも	ハスモンヨトウ	ヨーバルフロアブル	50倍	1.6L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		アミスター20フロアブル	18倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
	疫病	ダイナモ顆粒水和剤	20倍	1.6L/10a	収穫21日前まで	3回以内	
		ダイナモ顆粒水和剤	40倍	3.2L/10a	収穫21日前まで	3回以内	
ばれいしょ	アブラムシ類	アドマイヤー水和剤	16倍	3.2L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
		アドマイヤー顆粒水和剤	160倍	1.6~ 3.2L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
		アドマイヤー顆粒水和剤	400倍	3.2~ 10L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
		アドマイヤー顆粒水和剤	80倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
		コルト顆粒水和剤	50倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		トランスフォームフロアブル	32倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		トレボンエアー	8倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		ピレスコ顆粒水和剤	160倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		ベネビアOD	40倍	2~ 3.2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		ミネクスター顆粒水和剤	125倍	3.2L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		モスピランSL液剤	64倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	64倍	1.6~ 3L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	100倍	3~5L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	160倍	5~8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	200倍	8~ 10L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	250倍	10~ 12L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	320倍	12~ 16L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	400倍	16~ 20L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		オオニジュウヤホシテントウ	アドマイヤー顆粒水和剤	80倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	2回以内
	アドマイヤー顆粒水和剤		160倍	1.6~ 3.2L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
	アドマイヤー顆粒水和剤		400倍	3.2~ 10L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
	ナスビハムシ	ミネクスター顆粒水和剤	125倍	3.2L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
	疫病	ハスモンヨトウ	ベネビアOD	40倍	2~ 3.2L/10a	収穫7日前まで	3回以内
			エキナイン顆粒水和剤	40倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	4回以内
		クプロザートフロアブル	32倍	3.2L/10a	-	-	
		クプロシールド	32倍	3.2L/10a	-	-	
		グリーンダイセンM水和剤	8倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		ザンプロDMフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ザンプロDMフロアブル	16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ザンプロDMフロアブル	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ジマンダイセン水和剤	8倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		ゾーベック エンカンティア SE	32倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		ゾーベック エンカンティア SE	64倍	3.2L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		ダイナモ顆粒水和剤	20倍	1.6~ 2.5L/10a	収穫7日前まで	4回以内	
		ダイナモ顆粒水和剤	40倍	2.5~ 5L/10a	収穫7日前まで	4回以内	
		ダコニール1000	8倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	5回以内	
		ダコニール1000	16倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	5回以内	
		ダコニールエース	8倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	5回以内	
		ダコニールエース	16倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	5回以内	
		プロボーズ顆粒水和剤	16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	5回以内	
		プロボーズ顆粒水和剤	32倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	5回以内	
		ホライズンドライフロアブル	20倍	1.6~ 4L/10a	収穫14日前まで	4回以内	
		ホライズンドライフロアブル	40倍	3.2~ 8L/10a	収穫14日前まで	4回以内	
		ライメイフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	4回以内	
		ライメイフロアブル	50倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	4回以内	
		ランマンフロアブル	32倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	4回以内	
		リアイアブルフロアブル	16倍	1.6~ 4L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
リアイアブルフロアブル		20~25倍	3~5L/10a	収穫7日前まで	3回以内		
リアイアブルフロアブル		40~50倍	5~ 10L/10a	収穫7日前まで	3回以内		
リアイアブルフロアブル		100倍	10~ 20L/10a	収穫7日前まで	3回以内		
レーバスフロアブル		12倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内		
レーバスフロアブル		24倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	2回以内		
ワイドヒッター顆粒水和剤		16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	5回以内		
ワイドヒッター顆粒水和剤		32倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	5回以内		
夏疫病		ダコニール1000	8倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	5回以内	
		ダコニール1000	16倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	5回以内	

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	
ばれいしよ	夏疫病	ダコニールエース	8倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	5回以内	
		ダコニールエース	16倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	5回以内	
		プロボーズ顆粒水和剤	16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	5回以内	
		プロボーズ顆粒水和剤	32倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	5回以内	
		ワイドヒッター顆粒水和剤	16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	5回以内	
		ワイドヒッター顆粒水和剤	32倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	5回以内	
	軟腐病	エコマイト	16倍	3.2L/10a	発病前～発病初期	-	
		クプロザートフロアブル	32倍	3.2L/10a	-	-	
		クプロシールド	32倍	3.2L/10a	-	-	
		バイオキーパー水和剤	16倍	3.2L/10a	発病前～発病初期	-	
かんしよ	アリモトキゾウムシ	プレバソンフロアブル5	16倍	0.8～ 1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ベネビアOD	40倍	1～2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	イモゾウムシ	ベネビアOD	40倍	1～2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	エビガラスズメ	プロフレアSC	16～32倍	0.8～ 1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ナカジロシタバ	アクセルフロアブル	10～16倍	0.8～ 1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内
	カスケード乳剤		16～32倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	カスケード乳剤		32～64倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	トルネードエースDF		20倍	1～2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	フェニックス顆粒水和剤		16～32倍	0.8～ 1.6L/10a	収穫前日まで	2回以内	
	プレオフロアブル		16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	プレオフロアブル		32倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	プレバソンフロアブル5		16倍	0.8～ 1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	プロフレアSC		16～32倍	0.8～ 1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	ベネビアOD		40倍	1～2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	ハスモンヨトウ	カスケード乳剤	32～64倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		カスケード乳剤	16～32倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	16～32倍	0.8～ 1.6L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		アクセルフロアブル	10～16倍	0.8～ 1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		プレバソンフロアブル5	16倍	0.8～ 1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		トルネードエースDF	20倍	1～2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		ベネビアOD	40倍	1～2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		プロフレアSC	16～32倍	0.8～ 1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ヒルガオハモグリガ	プロフレアSC	16～32倍	0.8～ 1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内
			ベネビアOD	40倍	1～2L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	ヨツモンカメノコハムシ	アクセルフロアブル	10～16倍	0.8～ 1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		プロフレアSC	16～32倍	0.8～ 1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ベネビアOD	40倍	1～2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	基腐病	アミスター20フロアブル	12～32倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		クプロザートフロアブル	32倍	3.2L/10a	-	-	
		クプロザートフロアブル	16倍	1.6L/10a	-	-	
		クプロシールド	16倍	1.6L/10a	-	-	
		クプロシールド	32倍	3.2L/10a	-	-	
		トリフミン水和剤	16倍	0.8～ 1.6L/10a	収穫前日まで	2回以内	
	えだまめ	アブラムシ類	ベネビアOD	32倍	0.8～ 2.4L/10a	収穫前日まで	3回以内
			ウコンノメイガ	フェニックスフロアブル	16～32倍	0.8L/10a	収穫前日まで
		フェニックスフロアブル		20～40倍	1L/10a	収穫前日まで	3回以内
		フェニックスフロアブル		32～64倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内
		プレバソンフロアブル5		16～32倍	0.8L/10a	収穫3日前まで	3回以内
		プロフレアSC		16～32倍	0.8～ 1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内
		オオタバコガ	ヨーバルフロアブル	50倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内
			フェニックスフロアブル	16～32倍	0.8L/10a	収穫前日まで	3回以内
			フェニックスフロアブル	20～40倍	1L/10a	収穫前日まで	3回以内
			フェニックスフロアブル	32～64倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内
			プレバソンフロアブル5	16～32倍	0.8L/10a	収穫3日前まで	3回以内
		カメムシ類	プロフレアSC	16～32倍	0.8～ 1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内
			エクスードフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫前日まで	2回以内
			スタークルメイト液剤10	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内
			スタークル液剤10	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内
		コガネムシ類	トレボンエアー	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内
			ヨーバルフロアブル	50倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内
ダイズサヤマハエ			スタークルメイト液剤10	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数		
えだまめ	ダイズサヤタマハエ	スタークル液剤10	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内		
		プロフレアSC	16~32倍	0.8~ 1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内		
	ツメクサガ	トレボンエアー	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内		
		フェニックスフロアブル	16~32倍	0.8L/10a	収穫前日まで	3回以内		
		フェニックスフロアブル	20~40倍	1L/10a	収穫前日まで	3回以内		
		フェニックスフロアブル	32~64倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内		
		プロフレアSC	16~32倍	0.8~ 1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内		
	ネキリムシ類	フェニックスフロアブル	16~32倍	0.8L/10a	収穫前日まで	3回以内		
		フェニックスフロアブル	20~40倍	1L/10a	収穫前日まで	3回以内		
		フェニックスフロアブル	32~64倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内		
	ハスモンヨトウ	トレボンエアー	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内		
		ハスモン天敵	8倍	0.8L/10a	発生初期	-		
		フェニックスフロアブル	16~32倍	0.8L/10a	収穫前日まで	3回以内		
		フェニックスフロアブル	20~40倍	1L/10a	収穫前日まで	3回以内		
		フェニックスフロアブル	32~64倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内		
		プレバゾンフロアブル5	16~32倍	0.8L/10a	収穫3日前まで	3回以内		
		プロフレアSC	16~32倍	0.8~ 1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内		
		ベネビアOD	32倍	0.8~ 2.4L/10a	収穫前日まで	3回以内		
		ヨーバルフロアブル	50倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内		
		フタスジヒメハムシ	スタークルメイト液剤10	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
	スタークル液剤10		8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内		
	プロフレアSC		16~32倍	0.8~ 1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内		
	べと病	レーバフロアブル	12倍	0.8mL/10a	収穫7日前まで	3回以内		
		マダシクイガ	トレボンエアー	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
			プレバゾンフロアブル5	16~32倍	0.8L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
			プロフレアSC	16~32倍	0.8~ 1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ベネビアOD	32倍	0.8~ 2.4L/10a	収穫前日まで	3回以内		
		ヨーバルフロアブル	50倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内		
		アスパラガス	茎枯病	Zボルドー	8倍	8L/10a	-	-
			斑点病	ベルコートフロアブル	8倍	1.6L/10a	収穫開始7日前まで	5回以内
未成熟とうもろこし		アブラムシ類	ベネビアOD	40倍	2~ 3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
			モスピランSL液剤	64倍	3.2L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
	アヲノメイガ	プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内		
		ベネビアOD	40倍	2~ 3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内		
		ヨーバルフロアブル	50倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内		
	オオタバコガ	プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内		
		ベネビアOD	40倍	2~ 3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内		
		ヨーバルフロアブル	50倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内		
	ツマジロクサヨトウ	プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内		
		ベネビアOD	40倍	2~ 3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内		
		ヨーバルフロアブル	50倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内		
	非結球レタス	アザミウマ類	モベントフロアブル	24倍	1.6~ 1.7L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
モベントフロアブル			32倍	1.7~ 2L/10a	収穫14日前まで	3回以内		
モベントフロアブル			40倍	2~ 2.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内		
モベントフロアブル			50倍	2.8~ 3.5L/10a	収穫14日前まで	3回以内		
モベントフロアブル			64倍	3.5~ 4.5L/10a	収穫14日前まで	3回以内		
モベントフロアブル			80倍	4.5~ 5.5L/10a	収穫14日前まで	3回以内		
モベントフロアブル			100倍	5.5~ 7L/10a	収穫14日前まで	3回以内		
モベントフロアブル			125倍	7~ 8.5L/10a	収穫14日前まで	3回以内		
モベントフロアブル			160倍	8.5~ 11L/10a	収穫14日前まで	3回以内		
モベントフロアブル			200倍	11~ 14L/10a	収穫14日前まで	3回以内		
モベントフロアブル			250倍	14~ 17L/10a	収穫14日前まで	3回以内		
モベントフロアブル			320倍	17~ 20L/10a	収穫14日前まで	3回以内		
アブラムシ類			アドマイヤーフロアブル	32倍	1.6~ 2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	
非結球レタス	アブラムシ類	アドマイヤーフロアブル	150倍	4~5L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		コルト顆粒水和剤	24倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		コルト顆粒水和剤	30倍	2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		コルト顆粒水和剤	48倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	24倍	1.6~ 1.7L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	32倍	1.7~ 2L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	40倍	2~ 2.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	50倍	2.8~ 3.5L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	64倍	3.5~ 4.5L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	80倍	4.5~ 5.5L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	100倍	5.5~ 7L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	125倍	7~ 8.5L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	160倍	8.5~ 11L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	200倍	11~ 14L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	250倍	14~ 17L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		モベントフロアブル	320倍	17~ 20L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
	ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内		
	ウバ類	トルネードエースDF	20倍	1~2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	20倍	2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	オオタバコガ	アクセルフロアブル	10倍	2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		アクセルフロアブル	16倍	3.2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		アクセルフロアブル	8倍	1.6L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		トルネードエースDF	20倍	1~2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	20倍	2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		シロイチモンシヨトウ ハスモンヨトウ	トルネードエースDF	20倍	1~2L/10a	収穫7日前まで	2回以内
	アクセルフロアブル	10倍	2L/10a	収穫前日まで	2回以内		
	アクセルフロアブル	16倍	3.2L/10a	収穫前日まで	2回以内		
	アクセルフロアブル	8倍	1.6L/10a	収穫前日まで	2回以内		
	トルネードエースDF	20倍	1~2L/10a	収穫7日前まで	2回以内		
	フェニックス顆粒水和剤	16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	2回以内		
	フェニックス顆粒水和剤	20倍	2L/10a	収穫前日まで	2回以内		
	フェニックス顆粒水和剤	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	2回以内		
	プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内		
	ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内		
	ハモグリバエ類	プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	非結球レタス	ヨトウムシ	トルネードエースDF	20倍	1~2L/10a	収穫7日前まで	2回以内
			フェニックス顆粒水和剤	16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	2回以内
		灰色かび病	フェニックス顆粒水和剤	20倍	2L/10a	収穫前日まで	2回以内
			フェニックス顆粒水和剤	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	2回以内
			プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内
			ヨーバルフロアブル	25倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内
			バレード20フロアブル	16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内
		菌核病	バレード20フロアブル	20倍	2.0L/10a	収穫前日まで	3回以内
			バレード20フロアブル	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内
			バレード20フロアブル	16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内
軟腐病		バレード20フロアブル	20倍	2.0L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		バレード20フロアブル	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		Zボルドー	16倍	1.6~ 3.2L/10a	-	-	
		フジドーLフロアブル	10倍	2.0L/10a	-	-	
やまのいも		アブラムシ類	フジドーLフロアブル	16倍	3.2L/10a	-	-
			フジドーLフロアブル	8倍	1.6L/10a	-	-
			アクタラ顆粒水溶剤	32倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	アドマイヤー顆粒水和剤		160倍	3.2~ 4L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
	アドマイヤー顆粒水和剤		400倍	4~ 12L/10a	収穫14日前まで	2回以内	
トランスフォームフロアブル	32倍	3.2L/10a	収穫3日前まで	3回以内			

作物名称	適用病害虫名称	薬剤名	濃度 (使用量)	散布量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	
やまのいも	アブラムシ類	トレボンエアー	8倍	3.2L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
		ベネビアOD	40倍	1~3L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	ナガイモコガ	フェニックス顆粒水和剤	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ベネビアOD	40倍	1~3L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
	ハスモンヨトウ	プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		ベネビアOD	40倍	1~3L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		トレボンエアー	8倍	3.2L/10a	収穫14日前まで	3回以内	
	炭疽病	オンリーワンフロアブル	16倍	1.6~ 3.2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		オンリーワンフロアブル	32倍	3.2~ 6.4L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		トップジンMゾル	5倍	3L/10a	収穫7日前まで	5回以内	
		メジャーフロアブル	20倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		メジャーフロアブル	25倍	2.0L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		メジャーフロアブル	40倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		葉渋病	アミスター20フロアブル	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内
			オンリーワンフロアブル	16倍	1.6~ 3.2L/10a	収穫7日前まで	3回以内
			オンリーワンフロアブル	32倍	3.2~ 6.4L/10a	収穫7日前まで	3回以内
			ストロビーフロアブル	24倍	3L/10a	収穫7日前まで	3回以内
			トップジンMゾル	5倍	3L/10a	収穫7日前まで	5回以内
			ベルグートフロアブル	12倍	3L/10a	収穫7日前まで	3回以内
			メジャーフロアブル	20倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内
			メジャーフロアブル	25倍	2.0L/10a	収穫前日まで	3回以内
	しょうが	アワノメイガ	アクセルフロアブル	16倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内
			オルトラン水和剤	32倍	3.2L/10a	収穫45日前まで	2回以内
			トルネードエースDF	20倍	1~2L/10a	収穫7日前まで	3回以内
			トレボンエアー	8倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	3回以内
ファイントリムDF			20倍	1~2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
ファイントリムDF			32倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
フェニックス顆粒水和剤			32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
ハスモンヨトウ		アクセルフロアブル	16倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		コテツフロアブル	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		トルネードエースDF	20倍	1~2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		ノーモルト乳剤	25倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	2回以内	
		ファイントリムDF	20倍	1~2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		ファイントリムDF	32倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
		フェニックス顆粒水和剤	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	2回以内	
		プレバゾンフロアブル5	20倍	1~2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		マトリックフロアブル	16倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		白星病	オンリーワンフロアブル	100倍	5~ 13L/10a	収穫3日前まで	3回以内
オンリーワンフロアブル			32倍	3.2L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
オンリーワンフロアブル			50倍	3.2~ 6.5L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
サンリット水和剤			24倍	3.2L/10a	収穫7日前まで	5回以内	
シトラノフロアブル			16倍	3.2L/10a	収穫14日前まで	5回以内	
スコア顆粒水和剤			36倍	3.2L/10a	収穫3日前まで	3回以内	
ダコニール1000			16倍	3.2L/10a	収穫14日前まで	5回以内	
シトラノフロアブル			16倍	3.2L/10a	収穫14日前まで	5回以内	
オクラ		ハスモンヨトウ	マトリックフロアブル	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内
			マトリックフロアブル	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内
はなやさい類		菌核病	パレード20フロアブル	16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内
	パレード20フロアブル		20倍	2.0L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	パレード20フロアブル		32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
	黒すす病	パレード20フロアブル	16倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		パレード20フロアブル	20倍	2.0L/10a	収穫前日まで	3回以内	
		パレード20フロアブル	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	3回以内	
果樹類	ミカンコミエ	ユーゲサイドD					
野菜類	ミカンコミエ	ユーゲサイドD					

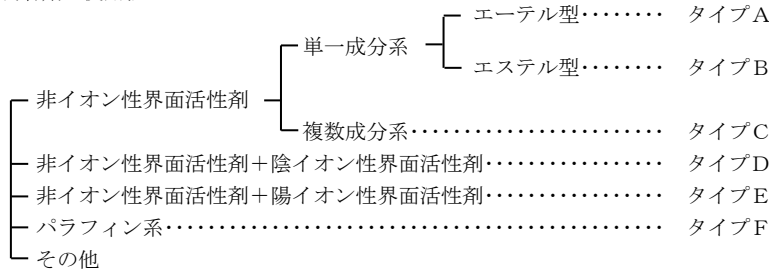
14 展着剤の使用法

展着剤の主成分「界面活性剤」は、固体-液体、液体-液体などの界面(表面)に配列し、湿展(濡れ広がり)、乳化、分散、浸透、固着、懸濁、消泡などの物理化学的性質を左右している。

(1) 作物の濡れ性について

- 1) 濡れが悪いもの……… 稲、麦類、大豆、ねぎ類、キャベツ、さといも等
- 2) 濡れが中程度のもの……… ぶどう、トマト、なす、いちご、メロン等
- 3) 濡れが良いもの……… りんご、もも、なし、みかん、かき、茶、とうもろこし、きゅうり、いんげん、さつまいも等

(2) 主要展着剤の使用法



注) タイプA～Fは分類の便宜上のものである。

タイプ	農薬名	毒性		成分	適用農薬	適用作物	散布液10ℓ 当たり使用量	注意事項等
		人	畜					
A	展着剤 アグラール	普	○	ポリオキシエチレンアルキル フェニルエーテル 20.0%	硫黄剤、銅剤等の殺菌剤、 塩素剤、リン剤等の殺虫剤、 植物成長調整剤、除草剤	果樹類、野菜類、花き類、観 葉植物、その他 の一般畑作物	(倍数) 5000～ 10000倍	
A	展着剤 ササラ	普	△	ポリオキシエチレンアルキル エーテル 55.0%	殺虫剤、殺菌剤 摘葉剤 (キキサリン系・MEP水和剤) シアジン水和剤 ACN水和剤 MCPB乳剤 ジベレリン水溶液	稲、麦類、雑穀類、果樹類(り んごを除く)、野菜類、いも類 、豆類(種実)、てんさい、花き 類、観葉植物 茶 西洋芝 りんご 日本芝 芝 かんきつ すだち	3.3～ 5ml 3.3ml 2.5 ～5ml 2～5ml 5ml 2.5 ～5ml 2.5 ～5ml 3.3～ 5ml 5ml	1) 眼に対し刺激性があるので 、散布液調製時及び散布の 際は保護眼鏡を着用して薬 剤が眼に入らないように注 意する。 2) 水産動物(魚類)に影響を 及ぼすので、養魚田では使 用しない。 3) 作物の幼苗期や高温時など 、一般に薬害が生じやすい 条件では本剤の使用はさけ る。 4) ももには薬害を生じるおそ れがあるので使用しない。 5) 果樹及び果菜類では果実の 薬液の溜まり部に薬害を生 じるおそれがあるので、散 布水量に注意して使用する 6) おとう、ぶどうでは、果 実に対して薬害を生じるお それがあるので、果実に薬 液が直接かからないように 注意する。
A	アルソープ30	普	△	ポリオキシエチレンニル フェニルエーテル 30.0%	ジクワット液剤、パ [®] ラコート液剤 、ジクワット・パ [®] ラコート液剤	適用農薬の登録内容の作物	5～30ml	1) 除草剤用展着剤
A	クサリノー10	普	△	ポリオキシエチレンオクチル フェニルエーテル 10.0%	ジクワット液剤、パ [®] ラコート液剤 、ジクワット・パ [®] ラコート液剤、 その他雑草生育期処理除 草剤	非選択性除草剤の登録内容の 作物	10～15ml	1) 除草剤用展着剤 2) 特に薬液が付着し難 い雑草の場合は、散布 液10ℓ当たり20～25ml で使用。
A	クサリノー	普	△	ポリオキシエチレンオクチル フェニルエーテル 50.0%	ジクワット液剤、パ [®] ラコート液剤 、ジクワット・パ [®] ラコート液剤、 その他雑草生育期処理除 草剤	非選択性除草剤の登録内容の 作物	2～3ml	1) 除草剤用展着剤 2) 特に薬液が付着し難 い雑草の場合は、散布液10ℓ当たり4～5 ml
A	グラスチック ー	普	○	ポリオキシエチレント [®] テシル エーテル 80.0%	DCMU剤・プロマシ剤等の土 壌処理型除草剤 ジアン酸塩剤・パ [®] ラコート剤等 の茎葉処理型除草剤	果樹類、桑、樹木等	10ml 2～5ml	1) 除草剤用展着剤 2) 低温時(10℃以下) では効果が劣るため 使用しない。

タイプ	農薬名	毒性		成分	適用農薬	適用作物	散布液10ℓ 当たり使用量	注意事項等
		人畜	魚毒					
A	サーファクタントWK	普	△	ホ [®] リキシエチレン [®] デシル エーテル 78.0%	DCMU、プロマシル、リニロン、レナシル、パ [®] ラコート、PAC、ジ [®] クワット剤、シ [®] ン酸塩	水田用作物、畑作物等	10~50mℓ	1)除草剤用展着剤 2)低温時(10℃以下)では効果が劣るため使用しない。
					フル [®] アジ [®] ホップ [®] P乳剤、セト [®] キシ [®] ム乳剤		10~20mℓ	
					フェ [®] ノメ [®] テ [®] イ [®] アム水和剤、フェ [®] ノメ [®] テ [®] イ [®] アム乳剤、タ [®] ミト [®] ン水和剤		10mℓ	
					MCPP、ア [®] シ [®] ユ [®] ム、リ [®] ム [®] フ [®] ア [®] ロン、ト [®] ス [®] ル [®] フ [®] ロン [®] メ [®] チ [®] ル、キ [®] キ [®] シ [®] ク [®] ロ [®] ホ [®] ン、キ [®] キ [®] シ [®] ア [®] ル [®] ギ [®] ル等の除草剤	芝	5~10mℓ	
B	アプローチ BI	普	○	ホ [®] リキシエチレン [®] ヘキサン 脂肪酸エステル 50.0%	殺虫剤、殺菌剤	稲、麦類、果樹類、野菜類、花き類、茶、芝等	10mℓ	1)スル [®] フ [®] エ [®] ン酸系薬、ジ [®] チ [®] ア [®] ン系、キ [®] キ [®] シ [®] リン系、スト [®] ロ [®] ビ [®] ル [®] リン系、ア [®] ニ [®] ト [®] 系 [®] の薬剤に添加すると薬害の恐れがある。 2)ハウスで使用する場合は散布液10ℓ当たり10mℓで使用する。
						野菜類、いも類、豆類	5mℓ	
					シ [®] ク [®] ワ [®] ット、パ [®] ラ [®] コ [®] ート、DCMU、ター [®] ハ [®] シル、プロ [®] マ [®] シル等の非選択性除草剤	非選択性除草剤の登録内容の作物	10~20mℓ	
					メ [®] ビ [®] コ [®] ト [®] ク [®] ロ [®] ト [®] 、ジ [®] ベ [®] レ [®] リン NAC水和剤(摘果剤)	ぶどう りんご	10~50mℓ	
B	K. Kステッカー	普	△	ホ [®] リキシエチレン [®] 樹脂酸 エステル 70.0%	殺菌剤	薬液の付きにくい農作物等	3.3~4mℓ	
					殺虫剤	野菜類、果樹類、茶	3.3mℓ	
B	ハイテンパー	普	○	ホ [®] リキシア [®] ル [®] キ [®] レン [®] 脂肪酸 エステル 30.0%	殺菌剤・殺虫剤	果樹類、野菜類、花き類、稲 麦類、豆類(種実)、いも類、 雑穀類、てんさい、ホップ 茶、芝	1~2mℓ	1)皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないように注意する。
					摘果剤(NAC剤)	りんご	1~2mℓ	
					シア [®] ナ [®] ト [®] 液剤	ぶどう		
					セ [®] ト [®] キシ [®] ム乳剤、ク [®] レ [®] ト [®] ジ [®] ム乳剤、シ [®] ハ [®] ホ [®] ップ [®] ア [®] チ [®] ル乳剤	適用農薬の登録内容の作物		
					非選択性茎葉処理型除草剤	適用農薬の登録内容の作物		
C	ミックスパー	普	△	ホ [®] リキシエチレン [®] アルキ [®] ル フェニルエーテル 40.0%	無機銅、有機銅等の殺菌剤 有機リン剤、カー [®] ハ [®] メ [®] イト剤等の殺虫剤	稲、麦類、茶	3.3~10mℓ	1)ぶどうの果実、 [®] キ [®] キ [®] シ [®] ア [®] ル [®] キ [®] レン [®] には使用しない。 2)りんご、なしの効果期には、さび果の恐れがある。 3)ト [®] ト [®] 、なすの施設では使用しない。
				ホ [®] リキシエチレン [®] アルキ [®] ル エーテル 40.0%		キャベツ、はくさい、きゅうり、もも、なし、りんご等	3.3mℓ	
D	クミテン	普	○	ホ [®] リキシエチレン [®] ニ [®] ル フェニルエーテル 20.0%	-	作物一般(稲、麦、キャベツ、 ねぎ等つきにくい作物)	1~3mℓ	
				ホ [®] リ [®] ナ [®] フ [®] チ [®] ル [®] メ [®] タ [®] ン [®] ス [®] ル [®] ホ [®] ン [®] 酸 ナトリウム 6.0%		作物一般(はくさい、ばれいしょ、 きゅうり、果樹等つきやすい作物)	0.5~2mℓ	
D	グラミン	普	○	ホ [®] リキシエチレン [®] ニ [®] ル フェニルエーテル 10.0%	有機リン剤、カー [®] ハ [®] メ [®] イト剤等の殺虫・殺ダニ剤 銅剤、硫黄剤、抗生物質剤等の殺菌剤	稲、麦、キャベツ等薬液のつきにくい作物	1~3mℓ	
				ホ [®] リ [®] ナ [®] フ [®] チ [®] ル [®] メ [®] タ [®] ン [®] ス [®] ル [®] ホ [®] ン [®] 酸 ナトリウム 6.0%		はくさい、ばれいしょ、きゅうり、 果樹等薬液のつきやすい作物	0.5~1mℓ	
D	ダイコート	普	△	ホ [®] リキシエチレン [®] ニ [®] ル フェニルエーテル 30.0%	イ [®] ミ [®] ノ [®] ク [®] タ [®] ジ [®] ン [®] 酢 [®] 酸 [®] 塩 [®] 剤、有機銅剤、イ [®] ブ [®] ロ [®] ジ [®] オン剤等の殺菌剤	薬剤の付きにくい農作物	5mℓ	1)冬期固結している場合は、温湯に浸し、溶解してから使用する。
D	ダイ	普	○	ホ [®] リキシエチレン [®] ニ [®] ル フェニルエーテル 20.0%	石灰 [®] ホ [®] ルト [®] 液、銅剤、硫黄剤、有機硫黄剤、マシン油乳剤、有機リン剤、テ [®] リス [®] 剤、ニコ [®] チ [®] ン [®] 剤、除虫菊剤、その他	稲、麦、野菜・果樹等で展着しにくい作物	1~3mℓ	
				リ [®] ク [®] ニ [®] ン [®] ス [®] ル [®] ホ [®] ン [®] 酸 [®] カル [®] シ [®] ウム 12.0%		比較的展着の容易な作物	0.5~1mℓ	
E	ニーズ	普	×	ホ [®] リ [®] ナ [®] フ [®] チ [®] ル [®] メ [®] タ [®] ン [®] ス [®] ル [®] ホ [®] ン [®] 酸 ジ [®] ア [®] ル [®] キ [®] ル [®] ジ [®] メ [®] チ [®] ル [®] ア [®] ン [®] モ [®] ニ [®] ウム 18.0%	殺菌剤、殺虫剤	稲、麦類、穀物類、いも類、 豆類(種実)、野菜類、てん さい	5~10mℓ	1)作物の幼苗期や高温時など一般的に薬害の生じやすい条件では使用を避ける。 2)適用農薬によっては、ラベルに薬害の生じやすい作物、気象条件などが記載されているので、このような場合には添加を避ける。
				ホ [®] リキシエチレン [®] 脂肪酸 エステル 44.0%		りんご	10mℓ	
				殺菌剤		もも、茶	10mℓ	
				摘果剤(NAC剤)	りんご	10mℓ		

タイプ	農薬名	毒性		成分	適用農薬	適用作物	散布液10ℓ 当たり使用量	注意事項等
		人	魚					
F	ステッケル	普	○	パラフィン 24.0%	ホルド [®] 液、有機銅剤 ホルド [®] 液、銅水和剤 銅水和剤	りんご こんにやく きゅうり、トマト	100~120ml 100ml 20ml	1) 分離することあるので、よく振ってから使用する。 2) あらかじめ本剤の所定量を2~3倍の水でうすめてから混合する。
F	バタンV	普	○	パラフィン 42.0%	ホルド [®] 液 銅・有機銅水和剤 有機銅水和剤 マンネ [®] 水和剤 イミダジゾ酢酸塩剤 TPN水和剤 ベンシクロン水和剤	りんご もも もも たまねぎ りんご、麦類、芝 いちご アスパラガス みかん かんきつ(みかんを除く) 麦類 なし(休眠期) 芝	25~50ml 17ml 17ml 25ml 25~50ml 10~25ml 10ml 10~17ml 10~13ml 10ml 50ml 25ml 10~20ml	1) イミダジゾ酢酸塩液剤に添加する場合、麦類の紅色雪腐病及び雪腐大粒菌核病以外には使用しない。 2) TPN水和剤に添加してなしに使用する場合、二十世紀以外には使用しない。 3) 有機銅水和剤に添加する場合、中晩柑類の混植されている圃場では使用しない。
F	アビオン-E	普	○	パラフィン 24.0%	殺菌剤、殺虫剤 (小麦、芝は殺菌剤)	野菜類、花き類・観葉植物 小麦、芝 果樹類、茶	10~20ml 5~20ml	1) トマトへの使用注意。
その他	まくびか	普	△	ポリオキシエチレンチルホ [®] リソキサン 93.0%	殺菌剤、殺虫剤 エチホ液剤 フルアジホップ [®] P乳剤、フェンメ [®] イファム乳剤、マトロン水和剤、レナル [®] ・PAC水和剤 非選択性茎葉処理型除草剤 MCP液剤、アショム液剤、トリクロピ [®] ル液剤、フザ [®] スルフロ [®] 水和剤、ペン [®] デ [®] イメタリン水和剤等の除草剤	麦類、野菜類、豆類(種実)、いも類、茶、芝、てんさい 果樹類 小麦 てんさい 適用農薬の登録内容の作物 芝	1~3.3ml 1~2ml 1~3.3ml	1) 泡立ちが多めであるので、散布タンクに水を満たした後に本剤を添加する。 2) 極端な酸性、アルカリ性の散布液では使用しない。 3) 眼に刺激性があるので使用時は注意する。

(3) 界面活性剤の種類と特徴

1) 非イオン性界面活性剤(ノニオン)

表面張力を下げる効果が高く、濡れにくい虫体や作物に対して付着を良くし、防除効果を高める。しかし、濡れやすい作物に対しては加用量が多すぎるとかえって付着量が減り、薬剤の効果が低下することがあるので注意が必要である。乳剤等の製剤補助剤として広く使用されているが、ほとんどがエーテル型のものである。

また、剤型にエーテル型とエステル型があるが、大きな違いは薬害の点である。

エーテル型……過度に濃度を上げると薬害の危険性がある。除草剤用に多く使用されている。

エステル型……加水分解を受けやすいので製剤中には入らない。高濃度にしても植物に対する反応は極めてマイルドである。

2) 陰イオン性界面活性剤(アニオン) 水溶液が正(+)、負(-)の電気を帯びた状態で溶け、界面活性を示す部分が負(-)に帯電するものを陰イオン性界面活性剤という。本剤は、薬液の薬剤粒子の分散(懸濁性)を良くする働きがあるが、表面張力を低下させる働きはほとんどない。代表的なものは石鹼であり、農薬の乳化剤や分散剤としても配合されている。

3) 陽イオン性界面活性剤(カチオン)

水溶液が正(+)、負(-)の電気を帯びた状態で溶け、界面活性を示す部分が正(+)に帯電するものを陽イオン性界面活性剤という。病原菌や害虫の細胞膜は負(-)に帯電しているため、本剤が強く吸着する作用があり、これによって防除効果を高める。

4) 固着剤

パラフィン系と樹脂系に大別される。いずれも作物の付着量を多くし、薬剤の残効を高める作用があるが、反面作物残留の懸念もあり、収穫間際の使用には問題がある。主に、果樹に保護殺菌剤を散布する場合に使用される。

5) その他の特徴を持つもの

○陽イオン系農薬用……ブリグロックスL等の陽イオン系農薬には、陰イオン系展着剤が使用できないため、専用の展着剤を使用する。

○泡立防止用………薬剤散布時の泡立ちを防止するため、低起泡性展着剤が使用される。

○空中散布用………ドリフト防止のため、専用の展着剤が使用される。

(4) 薬剤との混用

薬剤の混用順は、①展着剤、②乳剤、③水和剤またはフロアブルが基本となる。ただし、一部の展着剤で最初に入れることを推奨していないものもあるため、使用前にラベルの注意書きを必ず確認すること。

15 愛媛県特別栽培農産物等認証制度においてカウントされない農薬一覧

愛媛県特別栽培農産物等認証制度では、その生産過程において、化学合成農薬、化学肥料の使用を県栽培基準に対して3割以上削減する栽培方法で生産された県農産物を、知事が特別栽培農産物等に認証することとなっています。

以下の農薬は、本制度において化学合成農薬としてカウントされない農薬の一覧です（令和3年12月8日現在）。

なお、JAS法に基づく有機農産物とは、カウントされない農薬が異なりますので登録認定機関にお問い合わせ下さい。

用途	農薬種類名	商品名	備考
殺虫剤	ピレトリン乳剤	パイベニカVスプレー	除虫菊から抽出したものであって、共力剤としてピペロニルブトキサイドを含まないものに限ること。
殺虫剤	除虫菊乳剤	ガーデントップ	除虫菊から抽出したものであって、共力剤としてピペロニルブトキサイドを含まないものに限ること。
殺虫剤	除虫菊乳剤	除虫菊乳剤3	除虫菊から抽出したものであって、共力剤としてピペロニルブトキサイドを含まないものに限ること。
殺虫剤	調合油乳剤	サフオイル乳剤	
殺虫剤	マシン油乳剤97	スプレーオイル	
殺虫剤	マシン油乳剤97	トモノールS	
殺虫剤	マシン油乳剤97	ハーベストオイル	
殺虫剤	マシン油3（エアゾル）	ボルン	
殺虫剤	マシン油乳剤95	95マシン	
殺虫剤	マシン油乳剤95	スケルシン95	
殺虫剤	マシン油乳剤95	トモノール	
殺虫剤	マシン油乳剤95	マシン油乳剤95	
殺虫剤	マシン油乳剤95	機械油乳剤95	
殺虫剤	マシン油乳剤95	高度マシン95	
殺虫剤	マシン油乳剤97	アタックオイル	
殺虫剤	マシン油乳剤97	エアータック乳剤	
殺虫剤	マシン油乳剤97	スピンドロン乳剤	
殺虫剤	マシン油乳剤98	ラビサンスプレー	
殺虫剤	デンプン水和剤	粘着くん水和剤	
殺虫剤	メタアルデヒド粒剤	スネック粒剤	捕虫器に使用する場合に限ること。
殺虫剤	メタアルデヒド粒剤	マイマイペレット	捕虫器に使用する場合に限ること。
殺虫剤	メタアルデヒド粒剤	ナメキール	捕虫器に使用する場合に限ること。
殺虫剤	メタアルデヒド粒剤	ナメキット	捕虫器に使用する場合に限ること。
殺虫剤	メタアルデヒド粒剤	ナメクリーン	捕虫器に使用する場合に限ること。
殺虫剤	メタアルデヒド粒剤	ナメトックス	捕虫器に使用する場合に限ること。
殺虫剤	燐酸第二鉄粒剤	スラゴ	
殺虫剤	燐酸第二鉄粒剤	ナメクジキラーFエース	
殺虫剤	燐酸第二鉄粒剤	ナメクジ退治	
殺虫剤	燐酸第二鉄粒剤	ナメトール	
殺虫剤	燐酸第二鉄粒剤	フェラモール	
殺虫剤	燐酸第二鉄粒剤3	スクミンブルー	
殺虫剤	燐酸第二鉄粒剤3	スクミンベイト3	
殺虫剤	燐酸第二鉄粒剤3	スラゴX	
殺虫剤	アカメガシワクダアザミウマ剤	アカメ	
殺虫剤	アリガタシマアザミウマ剤	アリガタ	
殺虫剤	イサエアヒメコバチ・ハモグリコマユバチ剤	マイネックス	
殺虫剤	イサエアヒメコバチ剤	イサパラリ	
殺虫剤	イサエアヒメコバチ剤	ヒメトップ	
殺虫剤	オンシツツヤコバチ剤	エンストリップ	
殺虫剤	オンシツツヤコバチ剤	ツヤコバチEF30	
殺虫剤	オンシツツヤコバチ剤	ツヤトップ	
殺虫剤	オンシツツヤコバチ剤	ツヤトップ25	
殺虫剤	オンシツツヤコバチ剤	ツヤパラリ	
殺虫剤	キイカブリダニ剤	キイトップ	
殺虫剤	ギフアブラバチ剤	ギフパール	
殺虫剤	ククメリスカブリダニ剤	ククメリス	
殺虫剤	ククメリスカブリダニ剤	メリトップ	
殺虫剤	コレマンアブラバチ剤250	コレトップ	
殺虫剤	コレマンアブラバチ剤500	アフィパール	
殺虫剤	コレマンアブラバチ剤500	コレパラリ	
殺虫剤	サバクツヤコバチ剤	エルカード	
殺虫剤	サバクツヤコバチ剤	サバクトップ	
殺虫剤	スタイナーネマカーポカプサエ剤	バイオセーフ	
殺虫剤	スタイナーネマグラセライ剤	バイオトピア	
殺虫剤	スワルスキーカブリダニ剤	システムスワルクン	
殺虫剤	スワルスキーカブリダニ剤	システムスワルクンロング	
殺虫剤	スワルスキーカブリダニ剤	スワマイト	
殺虫剤	スワルスキーカブリダニ剤	スワルスキー	
殺虫剤	スワルスキーカブリダニ剤	スワルスキープラス	
殺虫剤	タイリクヒメハナカメムシ剤	オリスターA	
殺虫剤	タイリクヒメハナカメムシ剤	タイリク	

用途	農薬種類名	商品名	備考
殺虫剤	タイリクヒメハナカメムシ剤	トスパック	
殺虫剤	タイリクヒメハナカメムシ剤	リクトップ	
殺虫剤	タバコカスミカメ剤	バコトップ	
殺虫剤	チチュウカイツヤコバチ剤	ベミパール	
殺虫剤	チャハマキ顆粒病ウイルス・リンゴコカクモンハマキ顆粒病ウイルス	ハマキ天敵	
殺虫剤	チャバラアブラコバチ剤	チャバラ	
殺虫剤	チリカブリダニ・ミヤコカブリダニ剤	ミッチトップ	
殺虫剤	チリカブリダニ剤	スパイデックス	
殺虫剤	チリカブリダニ剤	チリカ・ワーカー	
殺虫剤	チリカブリダニ剤	チリガブリ	
殺虫剤	チリカブリダニ剤	チリトップ	
殺虫剤	ナミテントウ剤	テントトップ	
殺虫剤	ナミテントウ剤	ナミトップ	
殺虫剤	ナミテントウ剤	ナミトップ20	
殺虫剤	ヒメカメノコテントウ剤	カメノコS	
殺虫剤	ミヤコカブリダニ剤	システムミヤコくん	
殺虫剤	ミヤコカブリダニ剤	スパイカルEX	
殺虫剤	ミヤコカブリダニ剤	スパイカルプラス	
殺虫剤	ミヤコカブリダニ剤	ミヤコスター	
殺虫剤	ミヤコカブリダニ剤	ミヤコトップ	
殺虫剤	ハモグリミドリヒメコバチ剤	ミドリヒメ	
殺虫剤	ヤマトクサカゲロウ剤	カゲタロウ	
殺虫剤	リモニカスカブリダニ剤	リモニカ	
殺虫剤	パーティシリウム レカニ水和剤	マイコタール	
殺虫剤	パストゥリア ベネトランス水和剤	パストリア水和剤	
殺虫剤	ハスモンヨトウ核多角体病ウイルス水和剤	ハスモン天敵	
殺虫剤	ボーベリア バシアーナ水和剤	ボタニガード水和剤	
殺虫剤	ボーベリア バシアーナ乳剤	ボタニガードES	
殺虫剤	ボーベリア バシアーナ乳	バイオリサ・マダラ	有機JAS使用不可
殺虫剤	ボーベリア バシアーナ乳	ボーベリアン	有機JAS使用不可
殺虫剤	ボーベリア ブロンニアティ剤	バイオリサ・カミキリ	
殺虫剤	ベキロマイセス フモソロセウス水和剤	プリファード水和剤	
殺虫剤	スピノサド水和剤	スピノエースベイト	
殺虫剤	スピノサド水和剤20	スピノエースフロアブル	
殺虫剤	スピノサド水和剤25	スピノエース顆粒水和剤	
殺虫剤	スピノサド水和剤50	サービスエース顆粒水和剤	
殺虫剤	スピノサド水和剤50	ノーカウント顆粒水和剤	
殺虫剤	スピノサド粒剤	スピノエース箱粒剤	
殺虫剤	スピノサド粒剤1	ゼロカウント粒剤	
殺虫剤	ミルベメクチン水和剤	コロマイト水和剤	
殺虫剤	ミルベメクチン水和剤	ダニダウン水和剤	
殺虫剤	ミルベメクチン乳剤1	コロマイト乳剤	
殺虫剤	ミルベメクチン乳剤1	ミルベノック乳剤	
殺虫剤	ミルベメクチン乳剤2	マツガード	
殺虫剤	ミルベメクチン乳剤3	マツガードクイック	
殺虫剤	メタリジウム アニソプリエ粒剤	パイレーツ粒剤	
殺虫剤	二酸化炭素くん蒸剤99.9	くん蒸用炭酸ガス	保管施設で使用する場合に限りこと。
殺虫剤	二酸化炭素くん蒸剤99.9	炭酸ガス	保管施設で使用する場合に限りこと。
殺虫剤	B T水和剤(顆粒)	エコマスターBT	
殺虫剤	B T水和剤(顆粒)	エスマルクDF	
殺虫剤	B T水和剤(顆粒)	ジャックポット顆粒水和剤	
殺虫剤	B T水和剤(顆粒)	ゼンターリ顆粒水和剤	
殺虫剤	B T水和剤(顆粒)	チューレックス顆粒水和剤	
殺虫剤	B T水和剤(顆粒)	チューンアップ顆粒水和剤	
殺虫剤	B T水和剤(顆粒)	デルフィン顆粒水和剤	
殺虫剤	B T水和剤(顆粒)	バイオマックスDF	
殺虫剤	B T水和剤(顆粒)	ファイブスター顆粒水和剤	
殺虫剤	B T水和剤(顆粒)	フローバックDF	
殺虫剤	B T水和剤(顆粒)	レピクリーンDF	
殺虫剤	B T水和剤10	チューリサイド水和剤	
殺虫剤	B T水和剤10	バシレックス水和剤	
殺虫剤	B T水和剤10	家庭園芸用バシレックス水和剤	
殺虫剤	B T水和剤10(フロアブル)	クオークフロアブル	
殺虫剤	B T水和剤10(フロアブル)	サブリーナフロアブル	
殺虫剤	B T水和剤7	トアロー水和剤CT	
殺虫剤	B T水和剤7(フロアブル)	トアローフロアブルCT	
殺虫剤	グリセリン酢酸脂肪酸エステル乳剤	ベミデタッチ	有機JAS使用不可
殺虫剤	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤(フロアブル)	ダブルシューターSE	有機JAS使用不可
誘引・誘殺・交尾阻害剤	アリマルア・オリフルア・トートルリア・ピーチフルア剤	コンフューザーAA	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。

用途	農薬種類名	商品名	備考
誘引・誘殺・交尾阻害剤	アルミゲルア・ウワバリア・ダイアモルア・ビートアーミルア・リトルア剤	コンフューザーV	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
誘引・誘殺・交尾阻害剤	アルミゲルア・ダイアモルア剤	コナガコンープラス	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
誘引・誘殺・交尾阻害剤	インフェルア剤	ヨトウコンー1	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
誘引・誘殺・交尾阻害剤	オキメラノルア剤	オキメラノコール	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
誘引・誘殺・交尾阻害剤	オキメラノルア剤96.5	オキメラコン	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
誘引・誘殺・交尾阻害剤	オリフルア・トートリルア・ピーチフルア・ピリマルア剤	コンフューザーMM	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
誘引・誘殺・交尾阻害剤	オリフルア・トートリルア・ピーチフルア剤N	コンフューザーN	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
誘引・誘殺・交尾阻害剤	オリフルア・トートリルア・ピーチフルア剤R	コンフューザーR	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
誘引・誘殺・交尾阻害剤	オリフルア剤12	ラブストップヒメシン	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
誘引・誘殺・交尾阻害剤	オリフルア剤87.5	ナシヒメコン	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
誘引・誘殺・交尾阻害剤	ケルキボルア剤	カシナガコール	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
誘引・誘殺・交尾阻害剤	コッシンルア剤	ボクトウコンーH	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
誘引・誘殺・交尾阻害剤	サキメラノルア剤	サキメラノコール	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
誘引・誘殺・交尾阻害剤	シナンセルア剤	スカシバコンL	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
誘引・誘殺・交尾阻害剤	ダイアモルア剤	コナガコン	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
誘引・誘殺・交尾阻害剤	ダイシルア剤	ケブカコン	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
誘引・誘殺・交尾阻害剤	トートリルア剤	ハマキコンーN	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
誘引・誘殺・交尾阻害剤	ピーチフルア剤	シンクイコンーL	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
誘引・誘殺・交尾阻害剤	ビートアーミルア剤	ノシメシャット	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
誘引・誘殺・交尾阻害剤	ビートアーミルア剤	パナライン	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
誘引・誘殺・交尾阻害剤	ビートアーミルア剤	ヨトウコンーS	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
誘引・誘殺・交尾阻害剤	フォールウェブルア剤	ニトルアー<アメシロ>	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
誘引・誘殺・交尾阻害剤	マシニッサルア剤	ヘタムシコン	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。

用途	農薬種類名	商品名	備考
誘引・誘殺・交尾阻害剤	リトルア剤	フェロディンS L	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
誘引・誘殺・交尾阻害剤	リトルア剤	ヨトウコンーH	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
殺虫殺菌剤	なたね油乳剤	ハッパ乳剤	
殺虫殺菌剤	還元澱粉糖化物液剤	エコピタ液剤	有機JAS使用不可
殺虫殺菌剤	還元澱粉糖化物液剤	キモンブロック液剤	
殺虫殺菌剤	還元澱粉糖化物液剤	ベニカマイルド液剤	
殺虫殺菌剤	還元澱粉糖化物液剤 (スプレー)	あめんこ	
殺虫殺菌剤	還元澱粉糖化物液剤 (スプレー)	ガーデンアシストピュアスプレー	
殺虫殺菌剤	還元澱粉糖化物液剤 (スプレー)	ベニカマイルドスプレー	
殺虫殺菌剤	脂肪酸グリセリド乳剤	アーリーセーフ	
殺虫殺菌剤	脂肪酸グリセリド乳剤	サンクリスタル乳剤	
殺虫殺菌剤	脂肪酸グリセリド乳剤 (スプレー)	アーリーセーフスプレー	
殺虫殺菌剤	脂肪酸グリセリド乳剤 (スプレー)	ガーデンアシストバームスプレー	
殺虫殺菌剤	硫黄粉剤50	硫黄粉剤50	
殺虫殺菌剤	硫黄粉剤80	硫黄粉剤80	
殺虫殺菌剤	水和硫黄剤 (顆粒)	クムラス	
殺虫殺菌剤	水和硫黄剤52 (フロアブル)	イオウフロアブル	
殺虫殺菌剤	水和硫黄剤52 (フロアブル)	コロナフロアブル	
殺虫殺菌剤	水和硫黄剤52	サルファーゾル	
殺虫殺菌剤	銅水和剤 (塩基性硫酸銅3.7)	I Cボルドー66D	
殺虫殺菌植調剤	石灰硫黄合剤22	石灰硫黄合剤	
殺菌剤	カスガマイシン・銅水和剤	カスミンボルドー	有機JAS使用不可
殺菌剤	カスガマイシン液剤	カスミン液剤	有機JAS使用不可
殺菌剤	カスガマイシン粒剤	カスミン粒剤	有機JAS使用不可
殺菌剤	バリダマイシン液剤	バリダシンエアー	有機JAS使用不可
殺菌剤	バリダマイシン液剤	バリダシン液剤5	有機JAS使用不可
殺菌剤	バリダマイシン液剤	バリダシン液剤	有機JAS使用不可
殺菌剤	バリダマイシン粉剤	バリダシン粉剤DL	有機JAS使用不可
殺菌剤	ポリオキシシン水溶剤	ポリオキシシンAL水溶剤	有機JAS使用不可
殺菌剤	ポリオキシシン水和剤	ポリオキシシンAL水和剤	有機JAS使用不可
殺菌剤	ポリオキシシン乳剤	ポリオキシシンAL乳剤	有機JAS使用不可
殺菌剤	オキシテトラサイクリン	マイコシールド	有機JAS使用不可
殺菌剤	オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン水和剤	アグリマイシン100	有機JAS使用不可
殺菌剤	ストレプトマイシン・銅水和剤	銅ストマイ水和剤	有機JAS使用不可
殺菌剤	ストレプトマイシン液剤	アグレプト液剤	有機JAS使用不可
殺菌剤	ストレプトマイシン水和剤	アグレプト水和剤	有機JAS使用不可
殺菌剤	硫黄くん煙剤99.85	硫黄粒剤	
殺菌剤	硫黄・銅水和剤	イデクリン水和剤	
殺菌剤	硫黄・銅水和剤	園芸ボルドー	
殺菌剤	炭酸水素カリウム水溶剤	カリグリーン	
殺菌剤	炭酸水素カリウム水溶剤	家庭園芸用カリグリーン	
殺菌剤	炭酸水素ナトリウム・銅水和剤	ジーフェイン水和剤	
殺菌剤	炭酸水素ナトリウム水溶剤	ハーモメイト水溶剤	
殺菌剤	銅・パチルスズブチリス水和剤	クリーンカップ	
殺菌剤	銅・パチルスズブチリス水和剤	ケミヘル	
殺菌剤	銅水和剤 (塩基性塩化銅40)	ドイツボルドーDF	
殺菌剤	銅水和剤 (塩基性塩化銅44)	サンボルドー	
殺菌剤	銅水和剤 (塩基性塩化銅48)	KBW	
殺菌剤	銅水和剤 (塩基性塩化銅48)	ビティグラン水和剤	
殺菌剤	銅水和剤 (塩基性塩化銅50)	ドイツボルドーA	
殺菌剤	銅水和剤 (塩基性塩化銅50)	ベニドー水和剤	
殺菌剤	銅水和剤 (塩基性塩化銅50)	ボルドー	
殺菌剤	銅水和剤 (塩基性塩化銅50)	野菜類種子消毒用ドイツボルドーA	
殺菌剤	銅水和剤 (塩基性塩化銅50)	ベニドーDF	
殺菌剤	銅水和剤 (塩基性塩化銅50)	ポテガードDF	
殺菌剤	銅水和剤 (塩基性硫酸銅12.9)	フジドーLフロアブル	
殺菌剤	銅水和剤 (塩基性硫酸銅14.8)	クプロザートフロアブル	
殺菌剤	銅水和剤 (塩基性硫酸銅14.8)	クプロシールド	
殺菌剤	銅水和剤 (塩基性硫酸銅2)	I Cボルドー412	
殺菌剤	銅水和剤 (塩基性硫酸銅2.5)	I Cボルドー48Q	
殺菌剤	銅水和剤 (塩基性硫酸銅20.2)	フジドーフロアブル	
殺菌剤	銅水和剤 (塩基性硫酸銅32)	Zボルドー	
殺菌剤	銅水和剤 (塩基性硫酸銅40)	キュプロフィックス40	
殺菌剤	銅水和剤 (塩基性硫酸銅40)	ムッシュボルドーDF	
殺菌剤	銅水和剤 (水酸化第二銅13)	クミガードSC	
殺菌剤	銅水和剤 (水酸化第二銅30)	グリーンドクター2	
殺菌剤	銅水和剤 (水酸化第二銅30)	コサイド3000	

用途	農薬種類名	商品名	備考
殺菌剤	銅水和剤（水酸化第二銅40）	コサイドDF	
殺菌剤	銅水和剤（水酸化第二銅50）	コサイドボルドー	
殺菌剤	銅粉剤DL（塩基性硫酸銅5）	Zボルドー粉剤DL	
殺菌剤	銅粉剤DL（塩基性硫酸銅6）	撒粉ボルドー粉剤DL	
殺菌剤	硫酸銅	粉状丹礬	ボルドー剤調製用を使用する場合に限ること。
殺菌剤	硫酸銅	硫酸銅	ボルドー剤調製用を使用する場合に限ること。
殺菌剤	硫酸銅	硫酸銅（粉）	ボルドー剤調製用を使用する場合に限ること。
殺菌剤	硫酸銅	硫酸銅（粉状）	ボルドー剤調製用を使用する場合に限ること。
殺菌剤	コニオチリウム ミニタンス	ミニタンWG	
殺菌剤	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤	
殺菌剤	ズッキーニ黄斑モザイクウイルス弱毒株	キュービオZY-02	
殺菌剤	タラロマイセス フラバス水和剤	タフブロック	
殺菌剤	タラロマイセス フラバス水和剤	タフブロックSP	
殺菌剤	タラロマイセス フラバス水和剤	タフエイド	
殺菌剤	タラロマイセス フラバス水和剤	タフパール	
殺菌剤	トリコデルマ アトロビリデ水和剤	エコホープ	
殺菌剤	トリコデルマ アトロビリデ水和剤	エコホープDJ	
殺菌剤	トリコデルマ アトロビリデ水和剤	エコホープドライ	
殺菌剤	バチルス アミロリクエファシエンス	インプレッションクリア	
殺菌剤	バチルス ズブチリス水和剤	エコショット	
殺菌剤	バチルス ズブチリス水和剤	アグロケア水和剤	
殺菌剤	バチルス ズブチリス水和剤	ボトキラー水和剤	
殺菌剤	バチルス ズブチリス水和剤	インプレッション水和剤	
殺菌剤	バチルス ズブチリス水和剤	セレナーデ水和剤	
殺菌剤	バチルス ズブチリス水和剤	家庭園芸用インプレッション水和剤	
殺菌剤	バチルス ズブチリス水和剤	バイオワーク水和剤	
殺菌剤	バチルス ズブチリス水和剤	バチスター水和剤	
殺菌剤	ラクトバチルス プランタラム水和剤	ラクトガード水和剤	
殺菌剤	醸造酢液剤	エコフィット	有機JAS使用不可
殺菌剤	非病原性エルビニア カロトボーラ水和剤（顆粒）	エコメイト	
殺菌植調剤	シイタケ菌糸体抽出物液剤	レンテミン液剤	
殺菌植調剤	シイタケ菌糸体抽出物水溶剤	レンテミン	有機JAS使用不可
殺菌植調剤	シイタケ菌糸体抽出物液剤	家庭園芸用レンテミン液剤	
殺菌植調剤	シイタケ菌糸体抽出物水溶剤	家庭園芸用レンテミン	有機JAS使用不可
植物成長調整剤	混合生薬抽出物液剤	アルムグリーン	
その他	パラフィン展着剤	アビオン-E	カゼイン又はパラフィンを有効成分とするものに限ること。
その他	パラフィン展着剤	ステッケル	カゼイン又はパラフィンを有効成分とするものに限ること。
その他	パラフィン展着剤	アグロガード	カゼイン又はパラフィンを有効成分とするものに限ること。
その他	パラフィン展着剤	ペタンV	カゼイン又はパラフィンを有効成分とするものに限ること。
その他	炭酸カルシウム水和剤	アプロン	銅水和剤の薬害防止に使用する場合に限ること。
その他	炭酸カルシウム水和剤	クレフノン	銅水和剤の薬害防止に使用する場合に限ること。
その他	生石灰	ボルドー液用生石灰	ボルドー剤調製用を使用する場合に限ること。
その他	生石灰	ボルドー液用粉末生石灰	ボルドー剤調製用を使用する場合に限ること。
その他	生石灰	農薬用（ボルドー液用）粉末生石灰	ボルドー剤調製用を使用する場合に限ること。

16 IPM実践指標の活用について

1 IPM実践指標とは

IPM実践指標は、IPMを実践する上で必要な農作業の工程（以下「管理項目」という。）と各工程における具体的な取組内容（以下「管理ポイント」という。）を示すことで、農業者自身がIPMに関する取組の程度を容易に把握するためのものです。

農業者は、IPM実践指標に記録した取組結果について評価を行い、翌年度の取組に反映させることでIPMを効率的に実践することができます。

2 IPM実践指標の活用方策

IPM実践指標の具体的な活用方策としては、各農業者が自己点検した結果を以下の考え方で指数化することにより評価します。

評価の手法としては、下記に示すような手法が考えられます。

(1) IPM指数（指数値で評価する場合）

IPM指数	評価結果
指数80以上（IPM実践農業者）	A
指数60以上80未満（IPM実践途上農業者）	B
指数60未満（IPM準備中農業者）	C

IPM指数＝実施した管理ポイントの点数の合計／当該年度の病害虫の発生状況等から対象となる全管理ポイントの最高点数の合計×100

IPM指数は、各農業者が設定した管理ポイントの合計点数を100とした場合に、実際に実施された管理ポイントの合計点数の割合であることから、IPMの達成度合いを客観的に測定できるというメリットがあります。

(2) IPM指数向上度（指数の向上度で評価する場合）

IPM指数向上度	評価結果
現状値より20ポイント以上の向上	A
現状値より10～20ポイント未満の向上	B
現状値から10ポイント未満の向上	C

IPMの導入初期においては、IPM指数を用いてIPMの客観的な達成度合いを測定するよりも、むしろ、今年度のIPMの達成度合いが昨年度の達成度合いよりどの程度向上したかを示す手法であるIPM指数向上度を用いる方が、農業者のIPMへの取組を促し、より農業生産現場にIPMが浸透しやすいと考えられます。

(3) IPM指数の分布（モデル地域全体の農業者の相対的な評価で評価する場合）

IPM指数の分布	評価結果
上位3割	A
中位4割	B
下位3割	C

モデル地域全体の農業者の相対的な評価（IPM指数の分布）を組み合わせることにより、農業者の意識啓発を図ることができます。

(4) 地域全体のIPM実践度

例：IPMモデル地区（水稲作付面積 6ha）の場合

A農家2ha（IPM指数 80）、B農家1ha（IPM指数 50）、C農家3ha（IPM指数 60）

$$\frac{\sum(\text{個人の} \text{水稲作付面積} \times \text{IPM指数})}{\text{地域全体の} \text{水稲作付面積}} = \frac{2\text{ha} \times 80 + 1\text{ha} \times 50 + 3\text{ha} \times 60}{6\text{ha}} = 65 = \text{地域全体のIPM実践度}$$

愛媛県IPM実践指標モデル(施設トマト)

管理項目	対象	技術	管理ポイント	点数	チェック欄(注1)	
					昨年度の実施状況	今年の実施目標
ウイルス病等	ウイルス病等	発病株(株・葉)の除去	ウイルス病等全身症状を示し、伝染源となる株は、早急に抜き取り適切に処分する。果実(葉)にのみ発生する場合は被害果(葉)を除去し適切に処分する。	1		
		病害虫の伝染源の除去	圃場周辺の発病トマト、野良生えトマトを除去する。	1		
病害虫	病害虫	病害虫の伝染源の除去	圃場及びその周辺の除草を行う。	1		
		抵抗性品種導入	葉かび病、モザイク病等の抵抗性品種を導入する。	1		
病害	病害	無病土による育苗	土壌病害虫抵抗性台木を導入する。	1		
		健全種子の使用	床土には無病土を用いる。	1		
病害	病害	健全種子の育苗	無病種子を導入する。	1		
		健全苗の定植	開口部を防虫ネット(1mm以下)で被覆した育苗施設で育苗する。(注2)	1		
病害	病害	健全苗の定植	健全苗を定植する(上記3点を満たした苗を購入した場合3点)。	1		
		温度管理	排水や換気等により適切な温度管理をする。	1		
病害	病害	器具の消毒	ハサミ等の作業器具の消毒を励行する。また、管理作業は、こまめに手を洗浄しながら継続する。	1		
		資材の消毒	支柱等の資材を消毒又は更新する。	1		
病害	病害	管理作業	芽かぎや摘葉の管理作業は傷口を最小限にするよう心がける。降雨時等の多湿時には芽かぎや摘葉を避ける。	1		
		適正施肥	果施肥基準に基づき適切な肥培管理を行う。また、有機物を適切に施用し、草勢・根活性を良好に保つ。	1		
病害	病害	病害虫発生予察情報	病害虫防除所が発表する発生予察情報や農林水産研究所の発表する農業技術情報等を入力し、病害虫の発生状況や天候に応じた技術情報等を確認する。	1		
		病害虫の把握	黄色粘着トックリ、フェロモントラップ等を利用するとともに、圃場観察を丁寧に行い発生状況を確認する。(注3)	1		

病害虫・雑草の発生しにくい環境の整備

愛媛県IPM実践指標モデル(施設トマト)

病害虫	育苗箱施薬	病害虫の発生状況	1			
化学的防除	育苗箱施薬	当該地域での例年の病害虫の発生状況や病害虫防除所の病害虫情報(越冬量等)等を参考にし、地域の実情に即し必要に応じて実施する。(注6)	1			
雑草対策	剤の選択	前年の雑草の発生状況に応じて過剰防除にならないように適切な除草剤を選定する。	1			
その他	水田外への流出防止	除草剤を、使用する場合には、処理後7日程度は完全に止水し、水尻や畦畔等から薬剤を含む水が流出しないようにする。	1			
	作業日誌	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1			
その他	研修会等への参加	研修会、栽培講習会等に参加し、最新の病害虫防除技術等を学ぶ。	1			
	合計点数(注7)					
		対象IPM計(注8)				
		評価結果				

- 注1：毎年実施する必要がない項目には()を付した。本項目については、実施した場合に加点し、その他の年度は「0」と記す。
- 注2：チェック欄では、未実施の場合は0、農薬未使用等当該管理ポイントが当該農家が当該施設においてチェックの対象外であった場合は「-」と記す。
- 注3：代かきを丁寧にし、灌水を抑えることにより農薬の効果を安定させる効果がある。また、田面を均平にすることにより、除草剤の効果を安定させも葉害を減らすことができる。
- 注4：はかばか病、いもち病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病を対象としたエコホープ、エコホープDJが相当する。
- 注5：適切な飛散ドリフト防止措置については以下のとおり
- 液剤の本田散布はドリフト抑制ノズルを使用し、散布を行うこと。
- 粉剤の本田散布は粉剤以外に適切な農薬がある場合は粉剤の使用は控え、仮に使用する場合でもDL粉剤を使用すること。
- 周辺に飛散の影響が懸念される作物がある場合は粒剤の選択、緩衝地帯の設置、被覆・遮蔽シート等の対策を講じる。
- 注6：発生するおそれのない病害虫を対象とする農薬の有効成分を含む混合剤等を使用した場合には、無効な農薬の使用に該当することから、点数を「0」にするという趣旨である。
- 注7：毎年実施する管理ポイントの内、実施した管理ポイントの合計点数を記入し、毎年度実施しない管理ポイントの内、実施した管理ポイントの合計点数は()内に記入する。例) 20(3)
- 注8：毎年実施する管理ポイントの内、当該年度の病害虫の発生状況等から対象となる管理ポイントの合計点数を記入し、毎年実施しない管理ポイントの内、当該年度の病害虫の発生状況等から対象となる管理ポイントの合計点数を()内に記入する。例えば、農薬を使用しない場合の「農薬の使用全般的」の管理ポイントの点数は対象にならない。(例) 20(3)

生物的防除	病害虫	天敵等の利用	天敵製剤や微生物農薬を適切に利用する。	1			
	害虫	選択性農薬の使用	農薬を散布する場合は天敵に影響の少ない剤を選択する。(注4)	1			
	害虫	近紫外線除去フィルターの使用	施設の被覆資材の近紫外線除去フィルムを使用する。(注5)	1			
物理的防除	害虫	防虫ネット	施設開口部には防虫ネットを設置する。(注2)	1			
	雑草対策	敵の被覆	シルバームルチ等被覆資材を導入する。	1			
	病害虫	敵間の被覆	敵間は稲わら等の有機物資材によるマルチを行う。圃場周辺は定期的に除草する。	1			
	病害虫	栽培終了時の処理	栽培終了時には病害虫の拡散を防止するため、ハガスを締め切り、病害虫を死滅させる。(注6)	1			
	農薬の使用全般	適正な散布方法、適切な散布量の選択	十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる適切な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。	1			
化学的防除	農薬の使用全般	農薬散布を実施する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用する。	農薬散布を実施する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用する。	1			
	害虫	薬剤抵抗性発達遅延策	作用機種の異なる農薬をローテーションで使用する。さらに、当該地域で強い薬剤抵抗性の発達が確認されていない農薬を使用する。	1			
	害虫	定植時植穴薬剤の施用	必要と判断された病害虫のみを対象とする農薬を使用し、補欠処理を実施する。 ①当該地域での病害虫の発生状況 ②病害虫発生予察情報 ③当該圃場での前作の病害虫発生状況 (注7)	1			
その他	作業日誌	作業日誌の記録	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1			
	研修会等への参加	研修会等への参加	研修会、栽培講習会等に参加し、最新の病害虫防除技術等を学ぶ。	1			
			合計点数				
			対象IPM計				
			評価結果				

注1 :チェック欄では、未実施の場合はQ、農薬未使用等当該管理ポイントが当該農家にとってチェックの対象外であった場合は「-」と記す。

注2 :防除対象の害虫の大きさにより、資材の目合いを決定する。目合いと害虫の侵入防止効果の目安は以下の表の通りである。

目合い	コナジラミ類	アザミウマ類	ハマモグリハエ類	アザミウマ類	コナジラミ類	天敵目 (アゼチ科等)	(計)
0.4mm	○	○	△	○	○	○	○
0.6mm	△	○	×	○	○	○	○
0.8mm	×	△	×	○	○	○	○
1mm	×	×	×	△	△	○	△
2mm	×	×	×	×	×	○	×
4mm	×	×	×	×	×	○	×

注) 侵入防止効果 ○:90%以上、△:70%以上、×:50%以下

注3 :黄色粘着トラップでは、コナジラミ類、ハマモグリハエ類、アザミウマ類、天敵寄生蜂が捕獲できる。

注4 :天敵に影響が少ないといわれる農薬でも、天敵群によっては影響を受ける場合がある。また、悪影響があっても残効性が短いため、天敵の活動への影響が少ないものもある。農薬の散布時期と特徴を考慮して剤を選定する。

注5 :なお、生物農薬の使用は天敵類の保護のみならず、薬剤抵抗性発達の遅延等にも有効であるが、防除効果は施用法や病害虫の発生量等の影響を受けやすいので、剤の特徴を十分に把握して施用する。

注6 :近紫外線除去フィルムは、コナジラミ類、ハマモグリハエ類、アザミウマ類に対して侵入抑制効果がある。マルハナバチを利用する場合、資材の種類等条件によってはハチの活動に影響があるので注意する。

注7 :収穫終了後は株元を切断し、40℃以上で7日以上で蒸し(10日以上)施設を密閉して蒸し込み処理を行う。蒸し込み時の注意として、わずかな隙間から逃げ出すので密閉は夕方に行なうなどの工夫をする。

注8 :粒剤は処理後1ヶ月程度天敵昆虫類に影響があるので、天敵放飼は防除指針などで確認する。

愛媛県IPM実践指標モデル(施設きゅうり)

管理項目	管理ポイント		点数	チェック欄(注1)	
	対象	技術		昨年度の 実施 状況	今年 度の 実施 状況
病害虫・雑草の発生しにくい環境の整備	病害虫の伝染源の除去	圃場及びその周辺の除草を行う。	1		
		抵抗性品種導入	1		
	共通	無病土による育苗	1		
		健全種子の使用	1		
	病害	健全育苗	1		
		健全苗の定植	1		
	病害	適度管理	1		
	病害	資材の消毒	1		
	ウイルス病	発病株の抜き取り	1		
	共通	適正施肥	1		
イ除シンの及び判断	病害虫発生予察情報の確認	病害虫防除所が発表する発生予察情報や農林水産部研究所が発表する農業技術情報等を入力し、病害虫の発生状況や天候に応じた技術情報等を確認する。(注3)	1		
		黄色粘着トラップ、フェロモントラップ等を利用するとともに、圃場観察を丁寧に行い発生状況を確認する。(注3)	1		
生物的防除	天敵等の利用	天敵製剤や微生物農薬を適切に利用する。	1		
		選択性農薬の使用	1		
物理的防除	害虫	近紫外線除去フィルムを使用する。(注5)	1		
		防虫ネット	1		
雑草対策	畝の被覆	シルバーマルチ等被覆資材を導入する。	1		
		畝間の被覆	1		
病害虫	栽培終了時の処理	栽培終了時には病害虫の拡散を防止するため、ハウスを締め切り、病害虫を死滅させる。(注6)	1		

化学的防除	農薬の使用全般	適正な散布方法、量の選択	十分な薬効が得られる範囲内で最少の使用量となる適切な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。	1
その他	作業日誌	薬剤抵抗性発達遅延策	作用機種の異なる農薬をローテーションで使用する。さらに当該地域で強い薬剤抵抗性の発達が確認されていない農薬を使用する。	1
		害虫	必要と判断された病害虫のみを対象とする農薬を使用し、種穴処理を実施する。 ①当該地域での病害虫の発生状況 ②病害虫発生予察情報 ③当該圃場での前作の病害虫発生状況 (注7)	1
その他	研修会等への参加	作業日誌の記録	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1
		研修会等への参加	研修会、栽培講習会等に参加し、最新の病害虫防除技術等を学ぶ。	1
合計点数				
対象IPM計				
評価結果				

注1 : チェック欄では、未実施の場合は0、農薬未使用等当該管理ポイントが当該農家にとってチェックの対象外であった場合は「-」と記す。

注2 : 防除対象の害虫の大きさにより、資材の目合いを決定する。目合いと害虫の侵入防止効果の目安は以下の表の通りである。

目合い	コナジラミ類	アザミヤマ類	アザミヤマ類	アザミヤマ類	アザミヤマ類	アザミヤマ類	アザミヤマ類	アザミヤマ類	アザミヤマ類	アザミヤマ類
0.4mm	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○
0.6mm	△	○	×	○	○	○	○	○	○	○
0.8mm	×	△	×	○	○	○	○	○	○	○
1mm	×	×	×	△	△	△	○	○	△	△
2mm	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
4mm	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

注3 : 侵入防止効果 ○:90%以上、△:70%以上、×:50%以下

注4 : 黄色粘着トラップでは、コナジラミ類、ハモグリバエ類、アザミヤマ類、天敵寄生蜂が捕獲できる。天敵に影響が少ないといわれる農薬でも、天敵群によっては影響を受ける場合がある。また、重影響があっても残効性が短いため、天敵の活動への影響が少ないものもあるので、農薬の散布時期と特徴を考慮して剤を選定する。

注5 : なお、生物農薬の使用は天敵の保護のみならず、薬剤抵抗性発達の遅延等にも有効であるが、防除効果は施用法や病害虫の発生量等の影響を受けやすいので、剤の特徴を十分把握して施用する。

注6 : 近紫外線除去フィルムは、コナジラミ類、ハモグリバエ類、アザミヤマ類に対して侵入抑制効果がある。収穫終了後には株元を切断し、40℃以上で7日以上(できれば10日以上)施設を密閉して蒸し込み処理を行う。蒸し込み時の注意として、わずかな隙間から逃げ出すので密閉は夕方に行なうなどの工夫をする。

注7 : 薬剤は処理後1ヶ月程度天敵昆虫類に影響があるため、天敵放飼は防除方針などで確認する。

IPM実践指標モデル(施設なす)

管理項目	管理ポイント		点数	チェック欄(注1)			
	対象	技術		昨年度の 実施状況	今年度の 実施目標	今年度の 実施状況	
病害虫・雑草の発生しにくい環境の整備	病害虫	病害虫の伝染源の除去	圃場周辺の発病ナス、野良生えナスを除去する。	1			
		病害虫の伝染源の除去	圃場及びその周辺の除草を行う。	1			
		抵抗性品種導入	土壌病害虫抵抗性台木を導入する。	1			
		無病土による育苗	床土には無病土を用いる。	1			
		健全種子の使用	無病種子を導入する。	1			
		健全苗の育成	開口部を防虫ネット(1mm以下)で被覆した育苗施設で育苗する。(注2)	1			
		健全苗の定植	健全苗を定植する(上記3点を満たした苗を購入した場合3点)	1			
		病害	湿度管理	排水や換気等により適切な湿度管理する。	1		
		病害	器具の消毒	ハサミ等の作業器具の消毒を随行する。また、管理作業は、こまめに手を洗浄しなから継続する。	1		
		病害	資材の消毒	支柱等の資材を消毒又は更新する。	1		
病害	土壌消毒	土壌消毒の発生が懸念される圃場では、定植前に土壌消毒を実施する。	1				
病害	管理作業	芽かきや摘葉の管理作業は傷口を最小限にするよう心がける。降雨時等の多湿時には芽かきや摘葉を避ける。	1				
害虫	性フェロモン	交信かく乱による密度抑制を図るため、性フェロモン剤を設置する。	1				
共通	適正施肥	県施肥基準に基づき適切な肥培管理を行う。また、有機物を適切に施用し、草勢・根活性を良好に保つ。	1				
防除判断要否及びタイミング	病害虫発生状況の把握	病害虫防除所が発表する発生予察情報や農林水産研究所の発表する農業技術情報等を入力し、病害虫の発生状況や天候に応じた技術情報等を確認する。	1				
	病害虫の発生状況の把握	黄色粘着トラップ、フェロモントラップ等を利用するとともに、圃場観察を丁寧に行い発生状況を確認する。(注3)	1				
土着天敵の確認	土着天敵類の発生、定着を定期的に観察する。	1					

生物的防除	病害虫	天敵等の利用	天敵製剤や微生物農薬を適切に利用する。	1
	害虫	選択性農薬の使用	農薬を散布する場合は天敵に影響の少ない剤を選択する。(注4)	1
物理的防除	害虫	防虫ネット	施設開口部には防虫ネットを設置する。(注2)	1
	雑草対策	畝の被覆	シルバースマルチ等被覆資材を導入する。	1
		畝間の被覆	畝間は稲わら等の有機物資材によるマルチを行う。圃場周辺は定期的に除草する。	1
	病害虫	栽培終了時の処理	栽培終了時には病害虫の拡散を防止するため、ハラスを締め切り、病害虫を死滅させる。(注6)	1
		適正な散布方法、量の選択	十分な薬剤が得られる範囲で最少の使用量となる適切な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。	1
化学的防除	農薬の一般使用	農薬飛散防止対策	農薬散布を実施する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用する。	1
		薬剤抵抗性発達遅延策	作用機作の異なる農薬をローテーションで使用する。さらに、当該地域で強い薬剤抵抗性の発達が確認されていない農薬を使用する。	1
	害虫	定植時種穴剤の施用	必要と判断された病害虫のみを対象とする農薬を使用して、種穴処理を実施する。 ①当該地域での病害虫の発生状況 ②病害虫発生予察情報 ③当該圃場での前作の病害虫発生状況 (注7)	1
その他	作業日誌	作業日誌の記録	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1
	研修会等への参加	研修会等への参加	研修会、栽培講習会等に参加し、最新の病害虫防除技術等を学ぶ。	1
			合計点数	
			対象IPM計	
			評価結果	

- 注1 :チェック欄では、未実施の場合は0、農薬未使用等当該管理ポイントが当該農家にとってチェックの対象外であった場合は「-」と記す。
- 注2 :防除対象の害虫の大きさにより、資材の目合いを決定する。目合いと害虫の侵入防止効果の目安は以下の表の通りである。
- | 目合い | ゴキブリ類 | アザミハエ類 | アザミハエ類 | アザミハエ類 | アザミハエ類 | アザミハエ類 | アザミハエ類 |
|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 0.4mm | ○ | ○ | △ | △ | ○ | ○ | ○ |
| 0.6mm | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 0.8mm | × | △ | △ | △ | ○ | ○ | ○ |
| 1mm | × | × | × | △ | △ | △ | △ |
| 2mm | × | × | × | × | × | × | × |
| 4mm | × | × | × | × | × | × | × |
- 注3 :天敵侵入防止効果 ○:90%以上、△:70%以上、×:50%以下
- 注4 :黄色粘着トラップでは、コナジラミ類、ハモグリバエ類、アザミハエ類、アザミハエ類、アザミハエ類が捕獲できる。
- 注5 :天敵に影響が少ないといわれる農薬でも、天敵群によっては影響を受ける場合がある。また、悪影響があっても残留性が短いため、天敵の活動への影響が少ないものもあるため、農薬の散布時期と特徴を考慮して剤を選択する。
- 注6 :なお、生物農薬の使用は天敵類の保護のみならず、薬剤抵抗性発達の遅延等にも有効であるが、防除効果は施用法や病害虫の発生量等の影響を受けやすいので、剤の特徴を十分把握して施用する。
- 注7 :収穫終了後には株元を切断し、40℃以上で7日以上できれば10日以上施設を密閉して蒸し込み処理を行なう。蒸し込み時の注意として、わずかな隙間から逃げ出すので密閉は夕方に行なうなどの工夫をする。
- 注8 :粒剤は処理後1ヶ月程度天敵昆虫類に影響があるので、天敵放向は防除指針などで確認する。

IPM実践指標モデル(施設アスパラ)

	管理項目		管理ポイント	点数	チェック欄(注1)	
	対象	技術			昨年度の実施状況	今年度の実施状況
病害虫・雑草の発生抑制に力を入れる	共通	病害虫の伝染源の除去	圃場及びその周辺の除草を行う。	1		
		健全苗の定植	病害虫に犯されていない健全苗を定植する。	1		
	病害	湿度管理	排水や酸素等により適切な湿度管理する。	1		
	病害	資材の消毒	支柱等の資材を消毒又は更新する。	1		
	病害	管理作業	適切な農薬を行い、通風、採光を心掛ける。	1		
防除の必要と判断	共通	適正施肥	堆肥基質に基づき適切な肥培管理を行う。また、有機物を適切に施用し、草勢・根活性を良好に保つ。	1		
		病害虫発生予察情報の確認	病害虫防除が発表する発生予察情報や農業試験場の発表する農業技術情報等を入力し、病害虫の発生状況や天候に応じた技術情報等を確認する。	1		
生物防除	共通	病害虫の発生の把握	黄色粘着トラップ、フェロモントラップ等を利用するとともに、圃場観察を丁寧に行い発生状況を確認する。(注3)	1	1	1
		天敵の利用	天敵製剤や微生物農薬を適切に利用する。	1	1	1
物理防除	病害虫	選択性農薬の使用	農薬を散布する場合は天敵に影響の少ない剤を選択する。(注4)	1	1	1
	害虫	近紫外線除去フィルム	害虫進入抑制のために近紫外線除去フィルムを展張する。	1	1	1
	害虫	防虫ネット	施設開口部には防虫ネットを設置する。(注2)	1	1	1
化学防除	害虫	黄色蛍光灯の利用	トナリ類侵入抑制のため開口部を中心に周辺に設置する。	1		
	害虫	茎葉刈り取り	地際部より刈り取り、施設外へ持ち出し処分し、土壌表面をバーナーで焼却する。	1		
化学防除	農薬の使用全般	適正な散布方法、量の選択	十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる適切な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。	1	1	1
		農薬飛散防止対策	農薬散布を実施する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用する。	1		
化学防除	農薬の使用全般	薬剤抵抗性の発達遅延策	作用機作の異なる農薬をローテーションで使用する。さらに、当該地域で強い薬剤抵抗性の発達が発達が発達されていない農薬を使用する。	1	1	1

その他	作業日誌 作業日誌 記録	作業日誌への参加 研修会等への参加	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬の使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1			チェック欄	
							合計点数	評価結果
							7	13
							19	19
								0
								19

注1 :チェック欄では、未実施の場合は0、農薬未使用等当該管理ポイントが当該農家にとってチェックの対象外であった場合は「-」と記す。

注2 :防除対象の害虫の大きさにより、資材の目合いを決定する。目合いと害虫の侵入防止効果の目安は以下の表の通りである。

目合い	アザミウマ類	鱸翅目(ハモシロガ等)	アブラムシ類	コナジラミ類	コナジラミ類
0.4mm	○	○	○	○	○
0.6mm	○	○	○	○	○
0.8mm	○	○	○	○	△
1mm	△	○	○	○	△
2mm	×	○	○	△	×
4mm	×	○	○	×	×

注3 :黄色粘着トラップでは、コナジラミ類、アザミウマ類、天敵寄生蜂が捕獲できる。

注4 :天敵に影響が少ないといわれる農薬でも、天敵群によっては影響を受ける場合がある。また、悪影響があっても残効性が短いため、天敵の活動への影響が少ないものもある。また、悪影響を考慮して剤を選定する。

注5 :近紫外線除去フィルムは、コナジラミ類、アザミウマ類、アザミウマ類に対して侵入抑制効果がある。

愛媛県IPM実践指標モデル（カンキツ）

管理項目	管理ポイント		点数 (注1)	チェック欄(注2)		
	対象	技術		昨年度の実施状況	今年の実施目標	今年の実施状況
共通	間伐	密植園では間伐、縮伐により園地の通風・採光を良好にし、病害虫が発生しにくい環境を作るとともに、防除作業の効率化を図る。	(1)			
共通	せん定	樹冠内部の通風・採光を良好にし、病害虫が発生しにくい環境を作るとともに、農薬散布における付着の死角をなくす。せん定くずは園外に搬出するか、細かく粉砕し園内に還元する。	1			
褐色腐敗病・苗木疫病	排水	排水をよくし、冠水しないようにする。	1			
共通	適正施肥	果施肥基準に基づき適切な肥培管理を行う。有機物を適切に施用し、樹勢・根活性を良好に保ち、病害虫の発生しにくい樹体にする。	1			
病害虫	病害虫の伝染源の除去	カルシウム資材等を適切に施用し、果実体質を強化して、腐敗果の発生を抑制する。(注3)	(1)			
病害虫	病害虫の伝染源の除去	病害虫の発生部位(枝、葉、果実、花弁など)および枯れ枝を除去し、園外に搬出する。(年間を通じ随時実施する。)	1			
害虫	害虫発生源の除去	害虫の発生源となる園内及び周辺の寄主植物は除去する。(注4)	(1)			
病害	防風対策	風傷やかいよう病の発生を少なくするため、防風対策(防風垣、防風ネット等)を講じる。	(1)			
雑草	雑草種子の生産抑制	種子で増殖する雑草の発生を少なくするためには、結実前に除草を実施する。	1			
ゴマダラカミキリ	下草の管理	6～9月の間、主幹の地際を除草し、産卵を抑制する。	1			
果実腐敗(収穫後)	収穫、貯蔵時における果実の適正措置	収穫、選果時及び保管庫内では果実を丁寧に扱い、果実腐敗の発生を最小限に抑える。	1			
ウイルス病	健全な苗木の使用	新植及び改植時にはウイルス・ウイルス・ウイルス検査済み無毒苗木(中晩生カンキツの場合は弱毒ウイルス苗)を植え付ける。(注5)	(1)			

病害虫・雑草の発生しにくい環境・樹体の整備

共通	病害虫発生の予察情報	病害虫発生の予察情報	1			
共通	病害虫の発生状況の把握	病害虫の発生状況の把握	1			
共通	萌芽・開花状況等の把握	萌芽・開花状況等の把握	1			
雑草	雑草の発生状況の把握	雑草の発生状況の把握	1			
ミカンハタニ	防除の要否の判断	防除の要否の判断	1			
ヤノネカイガラムシ	防除の要否の判断	防除の要否の判断	1			
黒点病	降雨量の把握	降雨量の把握	1			
害虫	天敵類の確認	天敵類の確認	1			
病害虫	選択性農薬の使用	選択性農薬の使用	1			
イセリヤカイガラムシ、ヤノネカイガラムシ、ルーロウヒムシ、ミカンゴナジラミ	導入天敵の活用	導入天敵の活用	(1)			
ゴマダラカミキリ	生物農薬の利用	生物農薬の利用	(1)			

防除要否及びタイミングの判断

生物的防除

病害虫防除所が発表する発生予察情報や農林水産研究所の発表する農業技術情報等を入力し、病害虫の発生状況や天候に応じた技術情報等を確認する。

定期的に園内を見回り、病害虫の発生状況を観察及び確認する。(注6)

農薬散布時期を逸さないように、萌芽状況(特にさか病対策)及び開花状況(特に訪花害虫や灰色かび病対策)を把握する。

果樹園及びその周辺に発生している雑草の草種と発生量を観察及び確認する。

早期多発樹で1葉平均雌成虫3匹以上を防除実施の目安とする。

幼虫初発30～35日後に薬剤散布する。

農薬散布後の積算降雨量200～250mmを次回散布の目安にする。要防除積算降雨量に達しない場合でも残効の切れる散布後1ヶ月を防除実施の目安とする。(注7)

園内に発生する天敵類を把握する。(注8)

農薬を散布する場合は天敵に影響の少ない剤を選択する。(注9)

導入天敵が生息していないために当該害虫が多発する場合は、近隣の天敵発生圃場から導入する。

天敵微生物剤(商品名バイオリサカミキリ)を活用する。

- 注1 毎年実施する必要がない項目には()を付した。本項目については、実施した場合は加
点し、その他の年度は「-」と記す。
- 注2 チェック欄では、未実施の場合は0、農薬未使用等当該管理ポイントが当該農家にとってチェック
の対象外であった場合は「-」と記す。
- 注3 カルシウム資材を土壌施用する場合は土壌分析の結果をもとに計画的に行う。
- 注4 期における圃内の雑草(カンザワハダニ)などが相当する。
- 注5 園周辺の雑木林におけるアカメダナ(クワコマダナ)類、アザミ(アザミ)類、ウイロイド検定済みの無毒穂木を使用する。
高接ぎによる品種更新を行う場合もウイロルス・アザミ(アザミ)類、ウイロイド検定済みの無毒穂木を使用する。
- 注6 小型害虫(ダニ類、カイガラムシ類、アザミ(アザミ)類)の発生確認のため、ルーベを特参する。
- 注7 降雨量の把握にはポリタンク等を利用した簡易雨量計が有用である。
- 注8 年間に発生した主要害虫の天敵種群(カブリダニ、捕食性昆虫、寄生性昆虫、寄生蜂(脱出孔の有無))を把握する
ことで加算する。
- 注9 天敵に影響が少ないといわれる農薬でも、天敵群によっては影響を受ける場合がある。また、悪影響
がなくても残効性が短いため、天敵の活動への影響が少ないものもある。農薬の散布時期と特徴
を考慮して剤を選定する。
なお、生物農薬の使用は天敵類の保護のみならず、薬剤抵抗性蔓延の遅延等にも有効であるが、防
除効果は施用法や害虫の発生量等の影響を受けやすいので、剤の特徴を十分把握して施用する。
- 注10 毎年度実施する管理ポイントの内、実施した管理ポイントの合計点数は()内に記入する。例) 20(3)
- 注11 毎年度実施する管理ポイントの内、当該年度の病害虫の発生状況等から対象となる管理ポイントの
合計点数を記入し、毎年度実施しない管理ポイントの内、当該年度の病害虫の発生状況等から対象と
なる管理ポイントの合計点数を()内に記入する。例えば、農薬を使用しない場合の「農薬の使用全
般」の管理ポイントの点数は対象に記入しない。例) 20(3)

褐色腐敗病	枝吊り・マ ルチ	下垂はできるだけ持ち上げ、果実と地表面との距離を保つ。また、軟腐病やマルチ等での雨水の跳ね上りを防止する。	1			
ゴマダラカミキリ	成虫の捕殺・幼虫の捕殺	定期的には圃内を観察し成虫を捕殺する。また、主幹部に観察し、虫糞が出ている場合は刺殺する。	1			
チャノキイロアザミウマ	産卵防止剤の設置	ネットや金網などで主幹地際部を覆い、産卵を防止する。	(1)			
雑草	光反射シート	白色の光反射シートで被覆する。	1			
ミカンハダニ	雑草の発生抑制と刈り取り	ナゲナタガヤ等の草生栽培による雑草発生抑制と刈り取りによる除草を実施する。	1			
カイガラムシ類	マシンの使用	冬期にマシン油乳剤を使用する。4~6月に発生が認められる場合には、高度精製マシン油乳剤により防除を実施する。	1			
農薬の使用全般	適正な散布方法、量の選択	十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。	1			
	農薬飛散防止対策	農薬散布に当たっては、無風~弱風時の選択、ドリフトレスノズル等の飛散が少ない散布器具の使用等の適切な飛散防止策を講じた上で実施する。	1			
	薬剤抵抗性発達遅延策	農薬を使用する場合には、特定の成分のみを繰り返し使用しない。さらに、当該地域で強い薬剤抵抗性の発達を確認されている農薬は使用しない。	1			
雑草	除草剤の選択	除草剤を使用する場合は雑草の発生状況や草種を確認し、適切な剤を選定する。	1			
土壌浸食対策	土壌の流出防止対策	のり面の保守、草生栽培などによって土壌流出の防止に努める。	(1)			
作業日誌	作業日誌の記録	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMIに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1			
研修会等への参加	研修会等への参加	研修会、栽培講習会等に参加し、最新の病害虫防除技術等を学ぶ。	1			
			合計点数(注10)			
			対象IPM計(注11)			
			評価結果			

愛媛県IPM実践指標モデル(キウイフルーツ)

管理項目	対象	技術	管理ポイント	点数 (注1)	チェック欄(注2)	
					今年の実施状況	今年の実施目標
病害虫・雑草の発生しにくい環境・樹体の整備	共通	枝梢管理	枝梢管理を行い、通風採光を良くする。	1		
	共通	適正施肥	真施肥基準に基づき適切な肥培管理を行い、健全な樹勢を維持する。特に根腐病発生園では液肥や堆肥を施用することより樹勢を強化する。	1		
	共通	防風対策	防風対策を適切に行う。	1		
	病害	病害虫の伝染源の除去	かいよう病の被害枝葉や軟腐病の発生源となる樹上の枯損部(果こう枝、枯れ枝等)や剪定枝を園外へ除去処分する。	1		
	病害	健全な苗木の使用	新植及び改植時には無病苗木を植え付ける。	(1)		
	根腐病	排水対策	排水の悪い圃地は排水対策を行う。	1		
	灰色かび病	排水	乾燥しやすい場合は土壌の過乾燥を防ぐために、適量の灌水を行う。	1		
		貯蔵庫点検	果面が濡れた状態では収穫しない。	1		
	共通	ほ場周辺環境の把握	貯蔵庫内の点検に努め、発病果は早期に除去する。(注3)	1		
		病害虫発生予察情報確認	病害虫防除所が発表する発生予察情報や農林水産研究所が発表する農業技術情報等を入力し、病害虫の発生状況や天候に応じた技術情報等を確認する。	1		
花腐細菌病	病害虫の発生状況の把握	定期的に園内を見回り、病害虫の発生状況を観察及び確認する。	1			
	環状剥皮処理	花腐細菌病を予防する目的で主幹への環状剥皮処理を行う。(注4)	1			
物理的防除	コウモリ殺	定期的に主幹部を観察し、虫糞が出ている場合は刺殺する。	1			
	カイガラムシ類	定期的に観察し、カイガラムシ類が多発している場合は、タワシなどでこすり落とす。	1			
雑草	雑草の発生抑制と刈り取り	ナギナタガヤ等の草生栽培による雑草発生の抑止や、草刈機による除草を実施する。	1			

化学的防除	カイガラムシ類	マシン油乳剤の使用	冬期にマシン乳剤を使用する。	1
化学的防除	適正な散布方法、散布量の選択	十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。	1	
	農薬の一般使用全般	農薬散布に当たっては、無風～弱風時の選択、ドリフトレスノズル等の飛散が少ない散布器具の使用等の適切な飛散防止策を講じた上で実施する。	1	
その他	薬剤抵抗性発達遅延策	農薬を使用する場合には、特定の成分のみを繰り返して使用しない。さらに、当該地域で強い薬剤抵抗性の発達を確認されている農薬は使用しない。	1	
	土壌浸食対策	土壌の流出防止対策	のり面の保守、草生栽培などによって土壌流出の防止に努める。	1
その他	作業日誌	作業日誌・作業方法等の記録	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係る栽培管理状況を作成し、日誌として別途記録する。	1
	研修会等への参加	研修会等への参加	研修会、栽培講習会等に参加し、最新の病害虫防除技術等を学ぶ。	1
合計点数(注5)				
対象IPM計(注6)				
評価結果				

注1 : 毎年度実施する必要がある項目には()を付した。本項目については、実施した場合は加

点し、その他の年度は「-」と記す。

注2 : チェック欄では、未実施の場合は0、農薬未使用等当該管理ポイントがチェック

の対象外であった場合は「-」と記す。

注3 : 周辺の雑木林、管理放棄樹(コウモリガ)などが相当する。

注4 : 5月上旬(満開20～25日前)に、主幹部に環状剥皮処理(3～5mm幅)することで発病を抑制する

ことができる。しかし、環状剥皮は、樹勢低下を招く恐れがあるため、樹齢5～6年以下や樹勢の弱い樹

や発病の少ない圃では処理しない。

注5 : 毎年度実施する管理ポイントの内、実施した管理ポイントの合計点数を記入し、毎年度実施しない管

理ポイントの内、実施した管理ポイントの合計点数は()内に記入する。例) 20(3)

注6 : 毎年度実施する管理ポイントの内、当該年度の病害虫の発生状況等から対象となる管理ポイントの

合計点数を記入し、毎年度実施しない管理ポイントの内、当該年度の病害虫の発生状況等から対象と

なる管理ポイントの合計点数を()内に記入する。例えば、農薬を使用しない場合の「農薬の使用全

般」の管理ポイントの点数は対象にならない。例) 20(3)

愛媛県IPM実践指標モデル(クリ)

	管理項目		管理ポイント	点数	チェック欄(注1)		
	対象	技術			昨年度の実施状況	今年の実施目標	今年の実施状況
病害虫・雑草の発生環境の整備に課題が多い	共通	間伐・せん定	間伐・せん定を行い、通風・採光を良くし病害虫が発生しにくい環境を作るとともに、防除作業の効率化を図る。	1			
	病害	病害の伝染源の除去	枯枝、枯損樹の除去に努める。	1			
防除要否の判断	クリアブラムシ・モモゴマダラメイガ	害虫の発生源の除去	イガは、クリアブラムシやモモゴマダラメイガの発生源となるため適正に処分する。	1			
	共通	適正施肥	果施肥基準に基づき適切な肥培管理を行う。	1			
生物防除	共通	害発生状況の確認	自園周辺の植生状況から注意すべき病害虫を把握する。(注2)	1			
	クリタバチ	害虫の発生状況の把握	病害虫防除所が発表する発生予察情報や農林水産研究所の発表する農業技術情報等を入手し、病害虫の発生状況や天候に応じた技術情報等を確認する。	1			
物理防除	クリタバチ	導入天敵の保護(必)	定期的には園内を見回り、病害虫の発生状況を観察及び確認する。	1			
	クスサン、クリオオアブラムシ	卵の捕殺	導入天敵であるチュウゴクオオコバチの定着が県下主産地で確認されているため、天敵の保護を目的に羽化時期である3～4月までせん定枝を園内に残す。	1			
物理防除	コウモリガ、カミキリ類	幼虫の刺殺	定期的には主幹部を観察し、虫糞が出ている場合は見つけたい刺殺する。	1			
	雑草	雑草の発生抑制と刈り取り	ナギナタガヤや等の草生栽培による雑草発生の抑制や、草刈機による除草を実施する。	1			

カテゴリー	マシンの油乳剤の使用	冬期にマシン油乳剤を使用する。	1	
化学的防除	適正な散布方法、量の選択	十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。	1	
	農薬飛散防止対策	農薬散布に当たっては、無風～弱風時の選択、ドリフトレスノズル等の飛散が少ない散布器具の使用等の適切な飛散防止策を講じた上で実施する。	1	
	農薬の使用全般	農薬を使用する場合には、特定の成分のみを繰り返し使用しない。さらに、当該地域で強い薬剤抵抗性の発達が確認されている農薬は使用しなさい。特にモモゴマダラメイガ、クリアブラムシについては当該地域で有効な農薬を利用する。	1	
	土壌浸食対策	土壌の流出防止対策	1	
その他	作業日誌	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1	
	研修会等への参加	研修会、栽培講習会等に参加し、最新の病害虫防除技術等を学ぶ。	1	
		合計点数		
		対象IPM計		
		評価結果		

注1 :チェック欄では、未実施の場合は0、農薬使用等当該管理ポイントがチェックの対象外であった場合は「-」と記す。
 注2 :周辺の雑木林、管理放棄樹における、モモゴマダラメイガ、カミキリ類などが相当する。

農薬の適正使用と危害防止について

- 農薬は、ラベルに表示されている記載事項を十分に確認し、適正に使用しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具を十分に洗浄しましょう。
- 農薬を悪用されないように、毒物及び劇物の販売・保管管理に注意しましょう。
- ラベルに農薬登録番号がないにもかかわらず、農薬の効果を謳った資材や、使用すると病虫害に効果がある資材は、無登録農薬の疑いがあるので注意しましょう。
- 農薬飛散の懸念のある場合は、被覆などの防護対策、周辺にも登録のある農薬の選定、飛散の少ない粒剤への切り替え等の対策を実施しましょう。
- 特に住宅地周辺での農薬使用は注意をはらい、事前通知の実施等、周辺住民に対して十分配慮しましょう。

農林水産省：住宅地等における農薬使用について

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/jutakuti/

本指針に掲載した農薬は、原則として「令和5年12月6日現在」の農薬登録に基づいて作成しました。

実際の指導に当たっては登録内容が変更されている場合がありますので、必ず下記のHP等で常に最新の情報を確認してください。

また、農薬使用者に対しては、農薬を実際に使用する際には、**農薬ラベルの表示事項（使用方法、注意事項等）を確認し、遵守するよう指導してください。**



○農林水産省ホームページ

「農薬登録情報提供システム」最新の農薬登録情報

(<https://pesticide.maff.go.jp/>)

○農林水産省ホームページ「農薬コーナー」

(<https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)

○愛媛県農産園芸課ホームページ「愛媛県農業技術情報サービス」

「農薬の適正使用について」

県内における農薬の適正使用への取り組み等

(<https://www.pref.ehime.jp/page/11438.html>)

愛媛県 農薬適正使用

検索

○病害虫防除所ホームページ

病害虫発生予察情報等

(<https://www.pref.ehime.jp/site/byocyubojo/>)

愛媛県病害虫防除所

検索